

授 業 計 画

シラバス

令和8年度



報徳看護専門学校

学籍No.

氏名

目 次

I. 教育の概要	1
1. 教育方針	2
2. 主要概念に基づく理論的枠組み	5
3. 教育課程の考え方	6
4. 教育課程の構造図	9
5. 臨地実習の基本的考え方	10
6. 教育課程進度表（学則第10条関係）	11

II. シラバス 14

1. 基礎分野	15
1) 基礎分野構築の考え方	16
2) 基礎分野の構成と科目のねらい	17
3) 教授内容	
(1) 科学的思考の基盤	18
①論理的思考	19
②情報科学	20
(2) 人間と生活・社会の理解	21
①生活と環境	22
②哲学	24
③教育学	25
④心理学	26
⑤倫理学	27
⑥音楽と芸術	28
⑦文化人類学	29
⑧家族論	30
⑨人間関係論	32
⑩運動と健康	34
⑪英語 I	36
⑫英語 II	37

2. 専門基礎分野	39
1) 専門基礎分野構築の考え方	40
2) 専門基礎分野の構成と科目のねらい	41
3) 教授内容	

(1) 人体の構造と機能	42
①人体機能構造論Ⅰ	43
②人体機能構造論Ⅱ	44
③人体機能構造論Ⅲ	45
④人体機能構造論Ⅳ	47
⑤人体機能構造論Ⅴ	49
⑥生化学	50
⑦栄養学	51
(2) 疾病の成り立ちと回復の促進	52
①疾病治療論Ⅰ	53
②疾病治療論Ⅱ	55
③疾病治療論Ⅲ	57
④疾病治療論Ⅳ	59
⑤疾病治療論Ⅴ	61
⑥疾病治療論Ⅵ	63
⑦薬理学Ⅰ	65
⑧薬理学Ⅱ	66
⑨微生物学	67
(3) 健康支援と社会保障制度	69
①保健医療論	70
②公衆衛生学	72
③関係法規	74
④社会保障と社会福祉	76

3. 専門分野	78
1) 専門分野構築の考え方	79
2) 専門分野の構成	81
3) 教授内容	
(1) 基礎看護学	83
基礎看護学構築の考え方	84
基礎看護学の構成	85
①看護学概論	86
②共通基本技術Ⅰ	88
③共通基本技術Ⅱ	91
④共通基本技術Ⅲ	93
⑤生活援助技術Ⅰ	95

⑥生活援助技術Ⅱ-----	97
⑦診療補助技術Ⅰ-----	99
⑧診療補助技術Ⅱ-----	101
⑨診療補助技術Ⅲ-----	102
⑩フィジカルアセスメント-----	104
⑪リフレクション-----	106
(2) 健康状態別看護-----	107
健康状態別看護構築の考え方-----	108
健康状態別看護の構成-----	108
①健康支援論-----	109
②薬物療法と看護-----	112
③周手術期と看護-----	114
④終末期と看護-----	116
⑤健康回復支援論-----	118
⑥臨床判断-----	120
⑦看護過程の展開-----	122
(3) 地域・在宅看護論-----	124
在宅・在宅看護論構築の考え方-----	125
在宅看護論の構成-----	127
①地域と暮らし-----	128
②地域・在宅看護論概論Ⅰ-----	130
③地域・在宅看護論概論Ⅱ-----	132
④地域・在宅看護論方法論Ⅰ-----	134
⑤地域・在宅看護論方法論Ⅱ-----	136
(4) 成人看護学-----	138
成人看護学構築の考え方-----	139
成人看護学の構成-----	141
①成人看護学概論-----	142
②成人看護学方法論Ⅰ-----	144
③成人看護学方法論Ⅱ-----	146
④成人看護学方法論Ⅲ-----	148
(5) 老年看護学-----	150
老年看護学構築の考え方-----	151

老年看護学の構成	152
①老年看護学概論-----	153
②老年看護学方法論 I -----	155
③老年看護学方法論 II -----	158
(6) 小児看護学	160
小児看護学構築の考え方	161
小児看護学の構成	163
①小児看護学概論-----	164
②小児看護学方法論 I -----	167
③小児看護学方法論 II -----	170
(7) 母性看護学	172
母性看護学構築の考え方	173
母性看護学の構成	175
①母性看護学概論-----	176
②母性看護学方法論 I -----	178
③母性看護学方法論 II -----	180
(8) 精神看護学	182
精神看護学構築の考え方	183
精神看護学の構成	184
①精神看護学概論-----	185
②精神看護学方法論 I -----	187
④精神看護学方法論 II -----	189
(9) 看護の統合と実践	191
看護の統合と実践構築の考え方	192
看護の統合と実践の構成	193
①臨床看護の実践-----	194
②看護の統合と実践 I -----	196
③看護の統合と実践 II -----	198
④看護研究-----	200

I 教育の概要



1. 報徳看護専門学校教育方針

1) 教育理念

報徳の教えとは、「至誠・勤労・分度・推譲・一円融合」で、誠実な心をもって、自分の状況を見極め、計画的に行動し、協力し合って人も世も豊かで健全にするという教えである。

本校では、報徳の教えをとりいれて、人々に心からの関心をもち、その人の思いを感じ取り、自分自身をよく知り、関係する人々と協力し合って、対象がその人らしく生きるための支援ができる看護師を育成する。

2) 教育目的

命の誕生から看取りまで人々の生命と健康を守るため、生活者としての対象に心からの関心をもち、尊重し、対象がその人らしく生きることを支援できる看護実践者を育成する。

3) ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達度）

1. 生命を尊び、対象の尊厳と権利を守り、倫理観に基づいた行動がとれる。
2. 多様な場で生活する対象を生活者として理解し、その人らしい生活を支える看護を判断し実践できる。
3. 対象に心からの関心をもち、相手の思いを感じ取り、それを表現し、対象と良い関係を築くことができる。
4. 対象にとっての最善の看護を実践するために、主体的に学習に取り組める。
5. 対象のその人らしい生活を支援するための、多職種との連携・協働の必要性を理解し、その中で自己の役割を果たすことができる。
6. より良い看護実践のために自己をよく知り、自身の心身の状態をよりよくあるよう努めることができる。
7. 看護専門職としての誇りと自覚をもち、継続的に学び続ける意思をもつことができる。

4) カリキュラム・ポリシー

1. 基礎分野を学生が看護の対象を理解するために必要な知識として学習する科目と看護師としての自己成長を目指す科目として構成する。

人の暮らし・環境の理解、人間のこころと人間関係の理解、暮らしを支える社会の理解、主体的学習の基礎を1年次に配置し、看護師としての自己成長を目指す科目を3年次に配置した。

2. 基礎看護学において、事例を設定したシミュレーションの活用、アクティブラーニングを取り入れた授業方法により、看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、臨床判断能力を身につける。演習を強化し、その都度行うリフレクションにより主体的学習姿勢を身につける授業とする。

3. 実習は、基礎看護学実習を4単位、地域・在宅看護論実習を4単位とし、対象を生活者として理解し、多様な価値観を受け入れられるように、早期から多様な人と触れ合う経験として、基礎看護学の実習として「看護の体験実習」、地域・在宅看護論実習として「地域と暮らしの実習」を1年次に実施する。

早期の実習を体験することにより、対象と触れ合うことでの、コミュニケーション力、人への関心、人々の暮らしへの関心や気づきの力と表現力をつけ学習の動機づけにする。

地域・在宅看護論実習では、2年次に「地域・在宅看護論実習Ⅰ」1単位を加え、健康障害をもち地域で生活する人々の生活の場や環境を理解し、生活を支援する看護を学ぶこととする。

成人・老年看護学実習6単位とし、急性期・慢性期・終末期の患者の看護を学ぶ。さらに、「老年看護学実習」1単位を設定し、2年次に成人・老年看護学実習に先立ち、地域で生活する老年者の生活を支援する看護を学ぶための実習とする。

小児看護学実習は「小児看護学実習Ⅰ」1単位と「小児看護学実習Ⅱ」1単位に分け、「小児看護学実習Ⅰ」は、2年次に「小児看護学実習Ⅱ」の入院している患児の看護を学ぶことに先立ち、地域の中で生活する小児と接することで、成長・発達、子どもの特性を理解する実習を設定する。

4. 各領域の講義の中で教授する内容の中から、従来、発達段階別または対象の状況別として分けていた内容を健康状態別看護として、各領域に共通する次の7科目を設定する。テキストは内容が多数のテキストにおよぶため電子テキストを用いる。

健康支援論、薬物療法と看護、周手術期と看護、健康回復支援論、臨床判断、看護過程の展開、終末期と看護

5. 主体的に学習し、卒業後の継続学習に繋げるために、1年次から論理的思考でクリティカルシンキングを学び、基礎看護学でリフレクションを学び、保健医療論をプロジェクト学習として企画して実施する。その他の科目において積極的にアクティブラーニングを行うための導入とする。実習をプロジェクト学習の方法を用いて、リフレクションを中心とした主体的学習を継続する。

6. 多職種連携・協働ができる看護師育成のため、「看護の統合と実践」の中で、他職種学生との協同学習を取り入れる。また、全領域の講義で学生が多職種連携・協働を意識できる働きかけをすると共に、各領域の実習で、連携・協働を経験できる場面を設定する。特に2年次の「地域・在宅看護実習Ⅰ」では地域医療連携室実習により多職種参加

のカンファレンスに参加する。

7. ICT の活用については、「情報科学」の授業を強化し、ICT を活用するための基礎的能力をつける。

iPad を入学時に貸与し電子テキストを用いた効果的な学習を実施する。健康状態別看護の「臨床判断」の授業方法として、臨床判断モデルの「気づき」を育成する ICT を活用したシミュレーションの実践を行い、他の授業で活用できるようにする。

5) アドミッション・ポリシー

1. 看護師になりたいという強い意志のある人
2. 相手に関心をもち、人間関係を築いていくことができる人
3. 何事にも目標をもってあきらめずにやり遂げる力のある人
4. 自分を取り巻く環境や課題について考えることができ、自分の意見を述べられる人
5. 体験の中に気づきがあり、それを表現できる人
6. 自分の考えたことを行動に移せる人

2. 主要概念に基づく理論的枠組み

	教育目的・目標 【教育目的】 命の誕生から看取りまで人々の生命と健康を守るため、生活者としての対象に心からの関心をもち、尊重し、対象が主体的に生きることを実践できる看護実践者を育成する。	卒業生の特性 【ディプロマ・マジョリティー】 生命を尊び、対象の尊厳と権利を守り、倫理的に基づいた行動ができる。 多様な場で生活する対象を生活者として理解し、その人らしい生活を支える看護を判断し実践できる。 対象に心からの関心をもち、相手の思いを感じ取り、それを表現し対象と良い関係を築くことができる。 対象にとつての最善の看護を実践するために、主体的に学習に取り組める。 対象のその人らしい生活を支えるための、多職種との連携・協働について考えられ、その中で自己の役割を果たすことができる。 より良い看護実践のために自己をよく知り、自己の心身の状態をよく良くあるよう努めることができる。 看護専門職としての誇りと自覚をもち、継続的に学び続ける意思を持つことができる。	人間 1 人間は、身体的・精神的・社会的側面を持つ統合された存在である 2 人間は、ライフサイクルを通して、環境と常に相互作用しながら成長・発達し続ける存在である。 3 人間存在には共通する要素が多くみられるが、個々の人間は独自の生活体験の相互作用の中に独自性のある多様な存在である。 4 人間は、様々な文化・伝統により固有の価値観、人生観をもって生活を営んでいる。 5 人間は生まれながらにして自由・平等という基本権利、また尊厳が守られる権利を持つ。 6 人間はセルフケア能力をもち、一生を通じて自己実現に向かって成長発達する。	環境 1 環境は、人間を取りまく全てをさし、内部環境(個体)と外部環境(自然・社会文化)の統合であり相互に影響しあっている。 2 環境は、人間の健康や価値観に影響を与え、人間の存在によって環境は変化される。 3 環境を整えることは健康の維持・増進・回復を助けることにつながる。 4 人間環境の中の社会は、個人、家族、集団、地域からなり、それらは成因の関心やニーズの変化に応じて変容する多様な目標と価値観をもって人間が暮らす場である。	健康 1 健康についてはナイディングルールはただ単に元気があることだけでなく、自分が望むべく持っているものも十分に使用している状態である」と述べている。 2 健康とは疾病や障害があるなしにかかわらず「その人らしさを最大限に発揮すること」ができ、主体的に生活できる状態である。 3 健康には、身体的健康、精神的健康、社会的健康があり、それらのバランスがとれている状態を健康という。 4 健康は、その人の生き方や価値観、生活と関連し、その人の命とらえる健康(主観的健康観)がある。 5 世界保健機関憲章は「到達しうる最高基準の健康を享有することは、人権、宗教、政治的信念又は経済的もしくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである」としている。	看護 1 看護は、健康レベル・発達段階・個人・集団にとらわれないことなく、あらゆる人間を対象とする。 2 看護は、対象が健康的に暮らすための課題を明らかにし、解決するために専門的知識・技術を用いて行動する実践活動である。 3 看護は、その人が、その人らしくあるように、健康の維持・増進・回復に努め、その人の生活過程を整えることである。 4 看護は、生命の尊厳を守るものでなければならない。 5 看護は、相手への心からの関心をもつ人間関係を基盤とし、自己理解と他者理解の上に成り立つ。 6 看護は、「ケアは他者の自己実現を助けるものであり、そのケアを通してケアする者も成長する」というケアリングである。 7 看護は、社会の変動に伴って変化する保健・医療・福祉に対峙し、多職種と協働して、人々が健康に生きることができるよう。 8 看護は、専門的知識に基づいた臨床判断をし、専門的技術を用いて看護実践する独自の機能をもつ専門職である。 9 看護者は、個人の責任として継続学習による能力の維持・開発に努め、専門性の探求、キャリア開発により自己を発展させていく。 看護の対象、看護の目的、看護の方法 看護の専門性(知識・技術・態度) 健康の保持・増進・回復 論理的思考、クリティカルシンキング 臨床判断、フィジカルアセスメント ケアリング(関心と相互の自己実現) コミュニケーション 看護提供の場 多職種連携・協働 継続看護 看護倫理 看護観 キャリア開発 看護研究 ICT(通信技術を活用したコミュニケーション)
内容の諸要素 知識 理論 技術 態度	<p>【教育目的】</p> <p>命の誕生から看取りまで人々の生命と健康を守るため、生活者としての対象に心からの関心をもち、尊重し、対象が主体的に生きることを実践できる看護実践者を育成する。</p>	<p>卒業生の特性</p> <p>【ディプロマ・マジョリティー】</p> <p>生命を尊び、対象の尊厳と権利を守り、倫理的に基づいた行動ができる。 多様な場で生活する対象を生活者として理解し、その人らしい生活を支える看護を判断し実践できる。 対象に心からの関心をもち、相手の思いを感じ取り、それを表現し対象と良い関係を築くことができる。 対象にとつての最善の看護を実践するために、主体的に学習に取り組める。 対象のその人らしい生活を支えるための、多職種との連携・協働について考えられ、その中で自己の役割を果たすことができる。 より良い看護実践のために自己をよく知り、自己の心身の状態をよく良くあるよう努めることができる。 看護専門職としての誇りと自覚をもち、継続的に学び続ける意思を持つことができる。</p>	<p>人間</p> <p>1 人間は、身体的・精神的・社会的側面を持つ統合された存在である 2 人間は、ライフサイクルを通して、環境と常に相互作用しながら成長・発達し続ける存在である。 3 人間存在には共通する要素が多くみられるが、個々の人間は独自の生活体験の相互作用の中に独自性のある多様な存在である。 4 人間は、様々な文化・伝統により固有の価値観、人生観をもって生活を営んでいる。 5 人間は生まれながらにして自由・平等という基本権利、また尊厳が守られる権利を持つ。 6 人間はセルフケア能力をもち、一生を通じて自己実現に向かって成長発達する。</p>	<p>環境</p> <p>1 環境は、人間を取りまく全てをさし、内部環境(個体)と外部環境(自然・社会文化)の統合であり相互に影響しあっている。 2 環境は、人間の健康や価値観に影響を与え、人間の存在によって環境は変化される。 3 環境を整えることは健康の維持・増進・回復を助けることにつながる。 4 人間環境の中の社会は、個人、家族、集団、地域からなり、それらは成因の関心やニーズの変化に応じて変容する多様な目標と価値観をもって人間が暮らす場である。</p>	<p>健康</p> <p>1 健康についてはナイディングルールはただ単に元気があることだけでなく、自分が望むべく持っているものも十分に使用している状態である」と述べている。 2 健康とは疾病や障害があるなしにかかわらず「その人らしさを最大限に発揮すること」ができ、主体的に生活できる状態である。 3 健康には、身体的健康、精神的健康、社会的健康があり、それらのバランスがとれている状態を健康という。 4 健康は、その人の生き方や価値観、生活と関連し、その人の命とらえる健康(主観的健康観)がある。 5 世界保健機関憲章は「到達しうる最高基準の健康を享有することは、人権、宗教、政治的信念又は経済的もしくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである」としている。</p>	<p>看護</p> <p>1 看護は、健康レベル・発達段階・個人・集団にとらわれないことなく、あらゆる人間を対象とする。 2 看護は、対象が健康的に暮らすための課題を明らかにし、解決するために専門的知識・技術を用いて行動する実践活動である。 3 看護は、その人が、その人らしくあるように、健康の維持・増進・回復に努め、その人の生活過程を整えることである。 4 看護は、生命の尊厳を守るものでなければならない。 5 看護は、相手への心からの関心をもつ人間関係を基盤とし、自己理解と他者理解の上に成り立つ。 6 看護は、「ケアは他者の自己実現を助けるものであり、そのケアを通してケアする者も成長する」というケアリングである。 7 看護は、社会の変動に伴って変化する保健・医療・福祉に対峙し、多職種と協働して、人々が健康に生きることができるよう。 8 看護は、専門的知識に基づいた臨床判断をし、専門的技術を用いて看護実践する独自の機能をもつ専門職である。 9 看護者は、個人の責任として継続学習による能力の維持・開発に努め、専門性の探求、キャリア開発により自己を発展させていく。 看護の対象、看護の目的、看護の方法 看護の専門性(知識・技術・態度) 健康の保持・増進・回復 論理的思考、クリティカルシンキング 臨床判断、フィジカルアセスメント ケアリング(関心と相互の自己実現) コミュニケーション 看護提供の場 多職種連携・協働 継続看護 看護倫理 看護観 キャリア開発 看護研究 ICT(通信技術を活用したコミュニケーション)</p>
	構造	<p>自律性 判断力 論理性 倫理性 主体性 自己教育力</p> <p>↑</p> <p>専門性</p>	<p>人間の存在と社会</p> <p>↑</p> <p>国際社会 地域社会 家族 個人</p>	<p>地球環境(気候) 国家、組織、法律、社会システム 地域、集団、家族 国際社会 医療制度 保健医療福祉システム 情報社会(IT、ICT) 文化(風土、思想、宗教) 感染症 人々の暮らし</p> <p>↑</p> <p>暮らしと健康 環境と健康</p>	<p>身体的健康 精神的健康 社会的健康 主観的健康観</p> <p>↑</p> <p>プライマリヘルスケア ライフスタイルと健康管理 最高水準の健康と権利 疾病の成り立ちと治療 危機 ストレス QOL 感染症</p> <p>↑</p> <p>健康状態 健康の維持・増進 最良の状態</p>	<p>看護実践 看護研究 臨床判断 看護技術 看護理論 看護の概念</p> <p>↑</p> <p>看護実践能力</p>
概念	人間の尊厳、ケアリング、人々の暮らし、看護師の責務					
構造	垂直軸					
構造	水平軸					

3. 教育課程の考え方

「教育課程構造図」参照

1) 基礎分野

基礎分野は、学生が看護の対象を理解するために必要な知識として学習する科目と看護師としての自己成長を目指す科目と位置付けた。

教育内容は、生命の尊厳を基盤とした人間性を養い、看護職に必要な人間に理解と人間の生活・社会を深く理解し、論理的思考能力を養い、専門職業人として自ら研鑽し成長し続けていけるように構築した。

科目構成は、「科学的思考の基盤」では、事象を分析的・論理的に思考し、科学的なものの見方や表現力を身につけるため論理学、これからの社会で必要性の高まる ICT が活用できるための情報科学を設定した。

「人間と生活・社会の理解」では、こころと人間関係の理解のための科目として心理学、倫理学、人間関係論を設定した。環境と暮らしの理解のための科目として人間の生活や文化の多様性を幅広く理解するための文化人類学、生活と環境、家族論を設定した。また、自己成長を目指す科目として感性を磨きコミュニケーション能力や対応能力、表現力、創造性や主体的な行動力を育成するため、哲学、教育学、音楽と芸術、運動と健康、英語Ⅰ、英語Ⅱを設定した。

進度は、学習全体の進捗状況と学生の経験による人間的成長を考慮して1年次から3年次に配置した。1年次・2年次には、人の暮らし・環境の理解のための科目を配置し、看護師としての自己成長を目指す科目を3年次に配置した。3年次には、臨地実習の体験と並行させながら人間の尊厳や自己の人生観を考える哲学、教育の意義と生涯教育の必要性を学ぶ教育学、看護の実践場面における英会話を身につけるための英語Ⅱ、感性を育み豊かな表現力の育成につながる音楽と芸術、健康生活と運動の関連を理解し健康生活への支援に役立てられる運動と健康を設定し、レクリエーションの実際を学び、看護実践で活用できると同時に自己の健康生活に役立てられるようにした。

2) 専門基礎分野

専門基礎分野は、看護学を学ぶために必要な基礎知識と科学的な根拠に基づいた看護実践に向けて必要な基礎的専門知識を習得できるよう構築した。

教育内容は、(1)人体の構造と機能、(2)疾病の成り立ちと回復の促進、(3)健康支援と社会保障制度の三つの内容から構成されている。

「人体の構造と機能」では、人体機能構造論Ⅰ～Ⅴで人体の構造と機能を系統立てて学び、人間の生命現象について理解し、臨床判断能力が修得できるように設定した。人体機能構造論ⅤはⅠ～Ⅳまでの学びを統合させ、人間の生命活動や行動における人体の構造と機能を理解し説明できるような課題学習とした。

生化学では、化学物質の性状と代謝の仕組み・代謝産物の排泄の仕組みについての理解、それと同時に栄養学を加えて生命現象と関連付けて栄養療法の理解が得られるように設定した。

「疾病の成り立ちと回復の促進」では、人体の諸機能の障害されている部分の病態を理解し、障害部位の回復を促進するために必要な検査・治療・処置を系統別に学ぶ

ため、疾病治療論Ⅰ～Ⅵを設定した。薬理学Ⅰ・Ⅱでは基礎的な薬理作用や薬物について学び、微生物学では微生物が人体に与える影響を知り感染予防についても理解が深められるように設定した。

「健康支援と社会保障制度」では、保健医療論で保健・医療の原点及び包括的な医療のあり方と社会全体の保健・医療システムを学習すると同時に学習方法としてプロジェクト学習を実施する。公衆衛生学では、環境や日本の健康政策との関連から、健康の保持・増進の為の取り組みを学ぶ。関係法規では、医療・看護に関する法の基礎的知識を学び、医療従事者としての法的責任が自覚できることをねらいとした。社会保障と社会福祉では人権を尊重しそれを保障する施策と活動を学び、他の医療・保健・福祉との連携のあり方が理解できるように設定した。

3) 専門分野

専門分野は、看護の対象である人々の暮らしの多様性の理解を基盤にするため、すべてに共通する科目として「地域・在宅看護論」を位置付けた。科目は人々の暮らしを理解する「地域と暮らし」と概論、方法論で構成し、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ内容とした。終末期看護も含め、在宅での基礎的技術を身につけ多職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とした。

基礎看護学では基礎分野・専門基礎分野をもとに、看護を学ぶ専門職業人として、科学的思考に基づいた看護実践が行えるための基礎となる事柄を学習する。また、看護を学ぶ初学者のため、看護の知識、技術、倫理的態度を身につけ、発展的に学び続けていくための動機づけの役割を担う。

看護の主要概念、看護の対象を理解し、あらゆる健康のレベルにある人々に心を傾けることができる看護の専門職業人としての態度を形成していける基礎的知識を概論で、基本的看護を構成する諸活動を実践できるための技術を共通基本技術Ⅰ～Ⅲ、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ、診療補助技術Ⅰ～Ⅲで習得するよう構成した。また、臨床判断能力を強化するためのフィジカルアセスメント、経験を通して自らの学びを深められ主体的学習に繋がられる方法としてリフレクションを科目とした。看護技術は演習を多く取り入れ、事例に基づき、対象の個別性に応じた看護展開ができるように、学習、実践、振り返りにより自ら考え、主体的に学習する習慣を身につける方法とした。看護の目的を果たすためのコミュニケーション能力、アセスメント能力、問題解決能力が養えるような内容とした。

看護の対象の各発達段階や領域で共通する内容について重複を避け、本質的な援助を学習するため、領域横断科目として「健康状態別看護」7科目を置いた。各発達段階における発達課題と健康問題およびその支援を「健康支援論」、健康回復過程各期の支援を「健康回復支援論」、「薬物療法と看護」、「周手術期と看護」、「終末期と看護」、「臨床判断」、「看護過程」とした。科目の内容は各領域の対象を取り上げた学習とする。

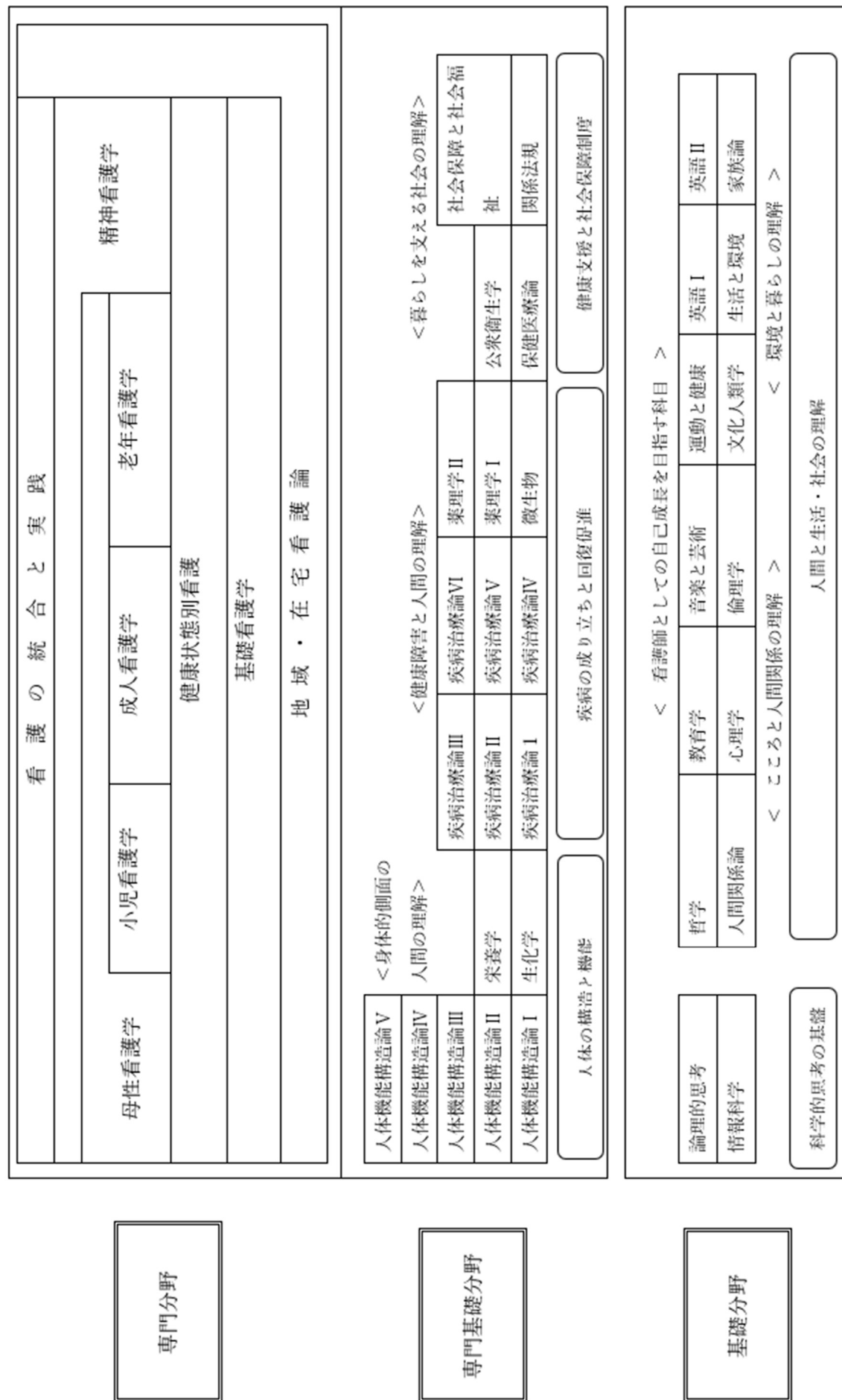
成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の看護の対象の特性と看護を理解する5つの領域を設定した。臨地場面での看護に必要とされる知識・技術について学ぶため概論と方法論で構成する。

看護の統合と実践は基礎分野、専門基礎分野、専門分野と、積み上げて学習した内容

を統合し、看護師として専門性を高め、さらに成長していくための学習をする領域と設定した。保健・医療・福祉の連携の中で看護の役割が拡大する中、チーム医療における多職種連携・協働する上でマネジメントする能力を身に付け、国際的な看護活動や、災害時あるいは救急医療現場において看護の知識や技術が求められることを踏まえ、それらに必要な知識・技術の修得することを目指した。さらに臨地での質の高い看護を提供する上で必要なエビデンスをふまえた看護実践を構築する能力の育成や、生涯学習の観点から看護研究について学ぶ機会とした。看護実践能力を高めるために臨地での看護実践に近い形で知識・技術を統合し、実践するため「臨床看護の実践」では学内演習の充実を図ることとした。同時に多職種連携・協働の意識を高め対象を多様的にとらえることを学ぶために、他職種を目指す学生との協同学習の機会を設定した。

臨地実習では、早期に看護の対象である人々の暮らしの場の理解、看護の実践の場の理解を通し、学習の動機づけにする。小児看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰを臨床での実習の前に配置し、地域で生活する小児・老年を理解することを目的に2年次に設定した。実習全体は知識・技術を実際の場面で応用・発展させ、看護の理論と実践を結び付けて理解できるよう配置した。「看護の統合と実践」では複数の患者を受け持ち、チームの一員としての役割を学びながら一勤務帯を通した実習を行い、臨地での看護実践により近い形の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験的に学べるよう設定した。各看護学実習において、多職種連携・協働の場면을体験できる機会をつくることとした。

4.教育課程構造図



専門分野

専門基礎分野

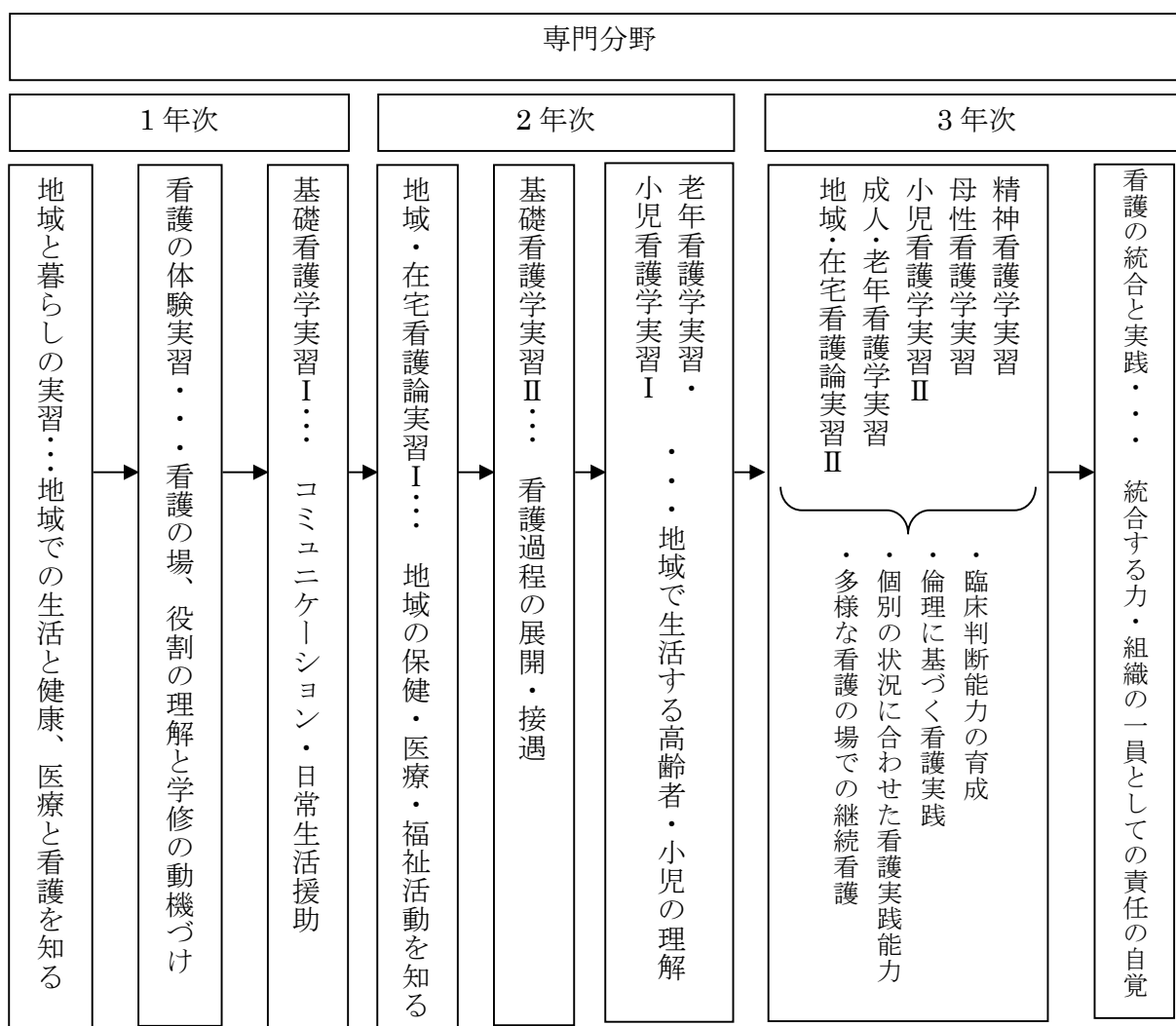
基礎分野

5. 臨地実習の基本的考え方

臨地実習は看護学の学習の一形態であり、それぞれの分野はカリキュラム上専門科目のひとつとして位置づける。看護学教育における臨地実習とは、あらゆる健康レベルにある対象に対して、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する看護実践の場において、学内で学習した知識・技術・態度を統合・体得する学習活動である。その学習活動は、看護学生にとってさまざまな人々に出会い、人間関係を確立し発展させるコミュニケーション能力を身につけることが求められる。人間関係を確立するには相手の気持ちを「知る」「わかる」「感じる」「気づく」といった興味や関心を示す感性を養うことが必要である。その感性をもとにして、さまざまな人々と協調しながら関係性を形成していく中で、相手の個性を尊重できる豊かな人間性を養う。そのことを通じて学生自身の自己成長や自己研鑽が図られると考える。

臨地実習においては、看護の専門職として必要な科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための知識・技術・態度を身につけるとともに、人間を生命ある存在として尊重し相手の立場に立った倫理に基づく誠実な態度を育成する人間的成長の場として位置づける。

【臨地実習の構成図】



別表第1 (学則第10条関係)

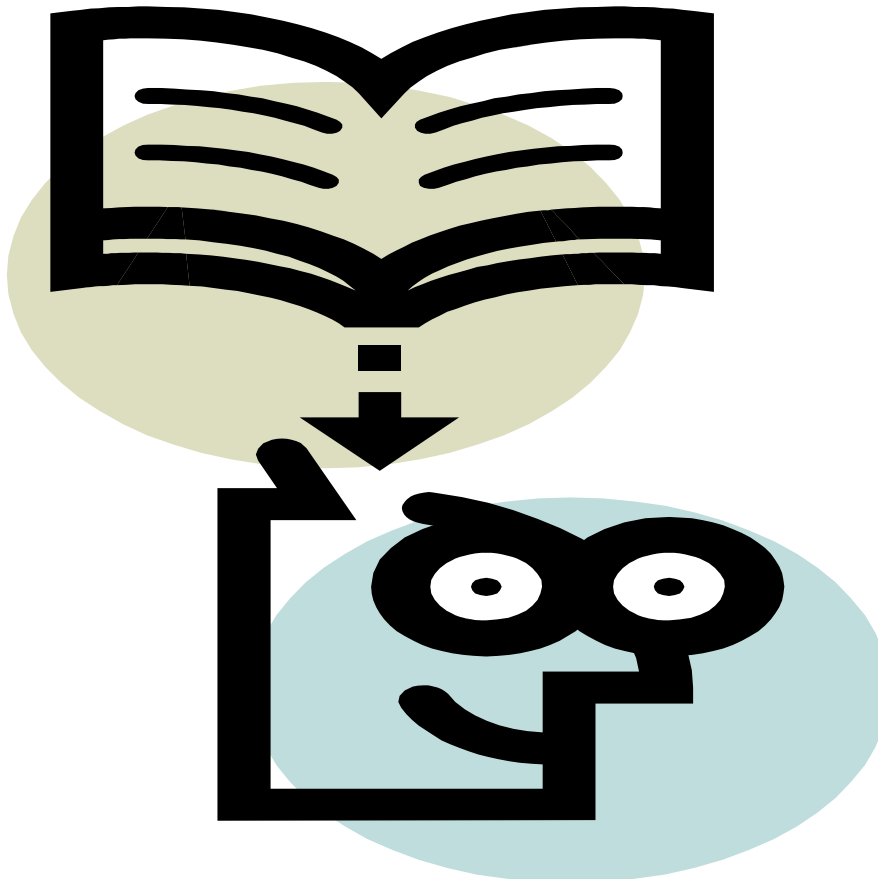
教育課程進度表

区分	教育内容	科目	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基 礎 分 野	科学的思考の基盤	論理的思考	1	15	15					
		情報科学	1	30	30					
	人間と生活・社会 の理解	生活と環境	1	30		30				
		哲学	1	30						30
		教育学	1	15						15
		心理学	1	15	15					
		倫理学	1	15		15				
		音楽と芸術	1	30						30
		文化人類学	1	15		15				
		家族論	1	15			15			
		人間関係論	1	30	30					
		運動と健康	1	30						30
		英語 I	1	15				15		
		英語 II	1	30						30
小計			14	315	150		30		135	
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能	人体機能構造論 I	1	30	30					
		人体機能構造論 II	1	30	30					
		人体機能構造論 III	1	30	30					
		人体機能構造論 IV	1	30	30					
		人体機能構造論 V	1	15		15				
		生化学	1	15	15					
		栄養学	1	15		15				
	疾病の成り立ちと 回復の促進	疾病治療論 I	1	15	15					
		疾病治療論 II	1	30	30					
		疾病治療論 III	1	30	30					
		疾病治療論 IV	1	30		30				
		疾病治療論 V	1	30		30				
		疾病治療論 VI	1	30			30			
		薬理学 I	1	15		15				
薬理学 II	1	30			30					
健康支援と社会保障 制度	微生物学	1	30	30						
	保健医療論	1	30	30						
	公衆衛生学	2	45	45						
	関係法規	1	30	30						
小計			22	555	495		60		0	

区分	教育内容	科 目	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		共通基本技術Ⅰ	1	30	30					
		共通基本技術Ⅱ	1	30	30					
		共通基本技術Ⅲ	1	30	30					
		生活援助技術Ⅰ	1	30	30					
		生活援助技術Ⅱ	1	30	30					
		診療補助技術Ⅰ	1	30	30					
		診療補助技術Ⅱ	1	30	30					
		診療補助技術Ⅲ	1	30	30					
		フィジカルアセスメント	1	30	30					
		リフレクション	1	15	15					
	健康状態別 看護	健康支援論	1	30	30					
		薬物療法と看護	1	30	30					
		周手術期と看護	1	30	30					
		終末期と看護	1	30	30					
		健康回復支援論	1	30	30					
		臨床判断	1	30	30					
		看護過程の展開	1	30	30					
	地域・在宅看 護論	地域と暮らし	1	15	15					
		地域・在宅看護概論Ⅰ	1	30	30					
		地域・在宅看護概論Ⅱ	1	15	15					
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30	30					
	成人看護学	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30	30					
		成人看護学概論	1	30	30					
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30	30					
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30	30					
	老年看護学	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	30					
		老年看護学概論	1	30	30					
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30	30					
	小児看護学	老年看護学方法論Ⅱ	1	30	30					
		小児看護学概論	1	30	30					
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30	30					
	母性看護学	小児看護学方法論Ⅱ	1	30	30					
母性看護学概論		1	30	30						
母性看護学方法論Ⅰ		1	30	30						
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	30					

区分	教育内容	科 目	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
精神看護学	精神看護学	精神看護学概論	1	30			30			
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30			30			
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30			30			
看護の統合 と実践	看護の統合 と実践	臨床看護の実践	1	30			30			
		看護の統合と実践Ⅰ	1	30					30	
		看護の統合と実践Ⅱ	1	30					30	
		看護研究	1	30					30	
臨地実習	臨地実習	看護の体験実習	1	30	30					
		基礎看護学実習Ⅰ	1	30		30				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	80			80			
		地域と暮らしの実習	1	40	40					
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	40			40			
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90						90
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90				90		
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90						90
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90						90
		老年看護学実習	1	45				45		
		小児看護学実習Ⅰ	1	45				45		
		小児看護学実習Ⅱ	1	45						45
		母性看護学実習	2	90						90
		精神看護学実習	2	90						90
看護の統合と実践	2	90							90	
小	計		66	2230	580		975		675	
合	計		102	3100	1225		1065		810	

Ⅱ シラバス



1. 基礎分野

1) 基礎分野構築の考え方

基礎分野は、学生が看護の対象を理解するために必要な知識として学習する科目と看護師としての自己成長を目指す科目と位置付けた。

教育内容は、生命の尊厳を基盤とした人間性を養い、看護職に必要な人間に理解と人間の生活・社会を深く理解し、論理的思考能力を養い、専門職業人として自ら研鑽し成長し続けていけるように構築した。

科目構成は、「科学的思考の基盤」では、事象を分析的・論理的に思考し、科学的なものの見方や表現力を身につけるため論理学、これからの社会で必要性の高まるICTが活用できるための情報科学を設定した。

「人間と生活、社会の理解」では、こころと人間関係の理解のための科目として心理学、倫理学、人間関係論を設定した。環境とくらしの理解のための科目として人間の生活や文化の多様性を幅広く理解するための文化人類学、生活と環境、家族論を設定した。また、自己成長を目指す科目として感性を磨きコミュニケーション能力や対応能力、表現力、創造性や主体的な行動力を育成するため、哲学、教育学、音楽と芸術、運動と健康、英語Ⅰ、英語Ⅱを設定した。

進度は、学習全体の進度状況と学生の経験による人間的成長を考えて1年次から3年次に配置した。1年次・2年次には、人の暮らし・環境の理解のための科目を配置し、看護師としての自己成長を混ざす科目を3年次に配置した。3年次には、臨地実習の体験と並行させながら人間の尊厳や自己の人生観を考える哲学、教育の意義と生涯教育の必要性を学ぶ教育学、看護の実践場面における英会話を身につけるための英語Ⅱ、感性を育み豊かな表現力の育成につながる音楽と芸術、健康生活と運動の関連を理解し健康生活への支援に役立てられる運動と健康を設定し、レクリエーションの実際を学び、看護実践で活用できると同時に自己の健康生活に役立てられるようにした。

2) 基礎分野の構成と科目のねらい

教育内容	科目名	単位数 (時間数)	ねらい
科学的思考の 基盤	論理的思考	1 単位 (15 時間)	身近な事象や経験から論理的に考えることを知り、文章の道筋の論理的な運びを学ぶ。また、クリティカルシンキングの方法を学ぶ。自己の考えの文章表現方法を学ぶ。
	情報科学	1 単位 (30 時間)	コンピュータの基礎知識、装置、操作の基本、およびipad操作を習得することで、情報の活用能力の向上を目指し、情報社会に柔軟に対応できる能力を養う。
人間と生活・社会の理解	生活と環境	1 単位 (30 時間)	ヒトや生物の外的条件である環境因子(物理的、化学的、生物的、社会的)が、生体とその各部の生理機能および人間の生活に与える影響について理解する。
	哲学	1 単位 (30 時間)	人間の存在、人間の生き方に関する諸課題について哲学的に考察し、これまで学んだ知識や体験を統合して自己の看護観を探求する姿勢を養う。
	教育学	1 単位 (15 時間)	人間の成長と教育の意義を理解し、家庭教育や学校教育、社会教育について学習し、人間を尊重し、人間が人間らしく生きて生活するとはどのようなことなのか等について考え、自己を探求することが出来る能力を養う。
	心理学	1 単位 (15 時間)	「こころ」の動きのメカニズムを知り、自己理解と自己統制を助け、人間の知覚・記憶・性格・感情・発達などについて学び他者や集団の心理を理解する。
	倫理学	1 単位 (15 時間)	生命、社会、看護と倫理について学ぶことで、人々の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などの人権を尊重することについて理解する。
	音楽と芸術	1 単位 (30 時間)	看護者としての感性を磨く。暮らしの中の芸術に触れ、看護の対象者と関わるための幅広い知識を身につける。
	文化人類学	1 単位 (15 時間)	他民族の人類学的特徴、生活様式、風俗習慣、宗教的儀礼、政治形態、教育制度などを知ることにより、身近な日本民族の特徴を理解する。
	家族論	1 単位 (15 時間)	地域で暮らす対象を支援するためには、各専門領域で家族看護を学ぶ必要がある。家族看護を実践するための固定観念にとらわれない家族という集団を理解し、家族の正しいアセスメント方法を学ぶ。
	人間関係論	1 単位 (30 時間)	人間が生活していく中で、他者とのかかわり、人間関係を築くことの重要性を理解し、人間関係の上に援助が成り立っていることを理解する。
	運動と健康	1 単位 (30 時間)	健康生活と運動の関連を理解し、健康生活への支援に役立てられるようにする。運動・レクリエーションの実際を学び、看護実践で活用できるようにする。運動・レクリエーションを実践することで自己の健康生活に役立てられるようにする。
	英語 I	1 単位 (15 時間)	英会話、文法の基礎知識を学習し、基本的な英会話のできる国際的看護師育成の基盤とする。
	英語 II	1 単位 (30 時間)	看護上必要な身体部位・症状など病院で日常使われる英会話の実際を学ぶ。

1.基礎分野－3) 教授内容

(1) 科学的思考の基盤

授業科目	論理的思考	講師名	山根 輝夫	単位 1 単位	時期 1 年次前期	
				時間 15 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験			
科目目標 1. 身近な事象や経験から論理的に考えることを知り、文章の道筋の論理的な運びを学ぶ。 2. クリティカルシンキングの方法を学ぶ。 3. 自己の考えの文章表現を学ぶ。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	ロジカルシンキング① 書く論理；論証の6構成要素	講義と演習問題	山根
2	ロジカルシンキング② 構文技術；語順・テンの原則、パラグラフィティング	講義	
3	ロジカルシンキング③ 起承転結・レポートの原則	講義	
4	ロジカルシンキング④ 引用法・書き言葉と話し言葉・接続詞について 事実と意見の違い・区別法	講義と演習問題	
5	クリティカルシンキング方法論① クリティカルシンキングとその方法論	講義	
6	クリティカルシンキング方法論② 論理展開のチェックポイント	講義	
7	クリティカルシンキング方法論③ 因果関係を正しく捉えるためのポイント 何を考えるべきかの特定；イシューと枠組み	講義と演習問題	
8	課題レポート		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 資料を配布する
評価の方法	演習 40 点 課題レポート 50 点 グループワーク 10 点
アドバイス ・その他	今後の学習及び自分自身の生活に必要な物事の考え方、表現の仕方を身近な テーマから楽しく学んでいく。普段から新聞や本を読む習慣をつけておくと よい。

授業科目	情報科学	講師名	稲見 聡 五十嵐 稔 中村 正明	単位	1 単位	時期 1 年次前期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	第 2 種情報処理技術者		
科目目標 1. 情報倫理・個人情報・セキュリティについて理解できる。 2. IT 機器の基本操作について理解できる。 3. インターネットを利用して情報収集ができる。 4. 情報科学の演習を通して、レポート作成ができる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	iPad の基本操作	講義・演習	稲見 五十嵐
2	iPad の基本操作		
3	iPad のアプリやクラウドシステムの活用		
4	iPad のアプリやクラウドシステムの活用		
5	iPad 内の電子テキストの活用		
6	iPad 内の電子テキストの活用		
7	コンピュータの基礎	講義・演習・ 動画視聴	中村
8	病院情報システム（医療現場で扱う情報、IT 機器、 コミュニケーション）		
9	情報倫理、		
10	情報セキュリティ（個人情報の扱いなど）		
11	情報リテラシー（著作権、ネット検索、文献検索）		
12	Word の基本操作、レポートの作成演習		
13	Excel の基本操作、統計の基礎		
14	PowerPoint の基本操作、スライドの作成と発表のグ ループ演習		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 随時資料を配布します
評価の方法	全講師で筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	

1.基礎分野－3) 教授内容

(2) 人間と生活
・ 社会の理解

授業科目	生活と環境	講師名	茅島 綾	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験			
科目目標 1. 病気の関係性を理解する。 2. 環境の構造を理解する。 3. 環境因子が人間の身体・生活に与える影響について理解する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	ガイダンス 1. 「生活と環境」で何を学ぶか 2. SDGs とは何か	講義	茅島
2	健康と環境 1. 健康の定義 2. 健康を規定する因子 3. 環境因子の種類と健康への影響		
3	物理的環境と健康への影響		
4	1. 地球温暖化による健康への影響① ・地球温暖化の現状と抑制への取り組み ・熱中症 2. 地球温暖化が及ぼす健康への影響② ・地球温暖化による感染症の流行		
5	生物的環境と健康への影響		
6	1. 生活環境中に潜む感染症 ・冬の食中毒（ノロウイルス） ・お風呂の感染症（レジオネラ） ・身近な危険感染症（結核の現状） 2. 環境化学物質がアレルギーに及ぼす影響 ・アレルギーの現状と課題		
7	化学的環境と健康への影響		
8	1. 大気汚染と水質汚染		
9	・代表的な大気汚染と水質汚染の要因		
10	2. 土壌汚染と食品汚染 ・代表的な土壌汚染と食品汚染の要因 3. 毒と薬、有害化学物質による中毒 4. タバコによる健康被害		
11	社会的環境と健康への影響		
12	1. 住環境と健康		

13	<ul style="list-style-type: none"> ・シックハウス症候群 ・住宅内のアレルゲン <p>2. 食環境と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料の生産と流通 ・食料問題 <p>3. 労働環境と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生法 ・過労死 <p>4. 社会環境と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会経済状況 ・教育環境 <p>5. 科目のまとめ</p>			
14				
15		筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト： 資料を配布する</p>
評価の方法	<p>授業への参加度（15%）、リフレクションの内容（30%）、筆記試験（55%）で評価します。</p> <p>授業への参加度は、自分の意見を発表したり、グループでの話し合いに協力したりと、授業に積極的に関わろうとする姿勢を評価します。</p> <p>リフレクションの内容は、授業での学びを自身の経験と結びつけ、そこから得られた新たな気づきや今後の課題について記載できているかを評価します。</p>
アドバイス ・その他	<p>先行する「地域と暮らし」や「地域とくらしの実習」等で人の生活を知り、「微生物学」では病原と感染についての知識を得ました。これらの知識をもとに、この授業では生活と環境について詳細に理解していきます。</p> <p>また、並行する「公衆衛生学」では、これらの理解をもとに、人々へのアプローチを理解していきますので、科目を関連させながら学修していきましょう。</p>

授業科目	哲学	講師名	田中 見太郎	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験			
科目目標 1. 哲学の概要を理解する。 2. 人間の尊厳を考えることができる。 3. 自己の人生観を考えることができる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	総論	講義	田中
2	パーソナリティ障害		
3	古代ギリシャ哲学から近代哲学まで		
4	・心の理論研究 ・乳児研究		
5	認識論		
6	・社会脳研究		
7	・ミラーニューロン		
8	・知覚的自己		
9	・暗黙の知識		
10	・概念的自己		
11	・人格的自己		
12	・ASD と自己		
13	・自己の障害 (1)		
14	・自己の障害 (2)		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 毎回資料を配布する。
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	これまでの実習で、様々な人と関わり看護実習をしてきました。また生活の中で様々な人間関係を築いてきました。この授業では、あらためて人間の存在、生き方を哲学的に学修していきます。そして自己の看護観にも繋げていってください。

授業科目	教育学	講師名	小原一馬	単位	1 単位	時期
				時間	15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験			
科目目標 1. 教育と遊びを通して、教育の意義を学び、教え育てることの価値を理解する。 2. 教育と人間形成の過程を学び、教育が人間の成長発達に影響を与えていくことを理解する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	なぜ教育を学ぶのか	講義・演習	小原
2	面白さの多様性		
3	遊びと集中		
4	遊びと集中：神経学的基礎		
5	集中と意味・環境 1		
6	集中と物語構造		
7	効率的学び方		
8	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 毎回資料を配布
評価の方法	筆記試験 80 点、授業参加 20 点
アドバイス ・その他	

授業科目	心理学	講師名	稲見 聡	単位 1単位	時期 1年次前期
			山本 果奈	時間 15時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	精神保健福祉士	
科目目標 1. 精神の分類（知覚、記憶、思考、情緒、意思、人格）について理解できる。 2. 精神の測定（人格テスト）について理解できる。 3. 精神の発達と老化について理解する。 4. 精神と脳について理解する。 5. カウンセリングについて理解できる。 6. アンガーマネジメントの基礎を知り、人の感情や自己効力感について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	心理学の問題、知覚の心理	講義 動画視聴 演習 グループ ワーク	稲見
2	記憶の心理、思考想像・言語の心理、		
3	知能の心理、学習の心理		
4	適応の心理、発達心理		
5	カウンセリング、医療と心理学		
6	アンガーマネジメント	講義 演習	山本
7	1. 感情と動機付け 1) 怒りの感情、感情表現の言葉 2) 動機付け、葛藤と欲求不満 3) 自己効力感 2. 性格と心理 3. 社会と集団 1) 対人知覚 2) 態度とコミュニケーション 3) 対人関係と親密さのレベル		
8	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 山村豊他：系統看護学講座 基礎分野 心理学第6版, 医学書院, 2021.
評価の方法	A+B=100点 A：80点=稲見担当：筆記試験 80点 B：20点=山本担当：レポート 20点
アドバイス ・その他	

授業科目	倫理学	講師名	星 昇次郎	単位	1 単位	時期	1 年次後期
				時間	15 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○		実務経験			
科目目標 1. 倫理学の由来と本質を古代ギリシア哲学を通して学ぶ 2. 近代の倫理思想を社会と個人の関係のあり方として理解する。 3. 生命倫理と医療・看護における倫理について考え、自己の倫理観を高める。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	倫理学入門、ソクラテス	講義	星
2	プラトンとアリストテレス		
3	近代イギリスの倫理思想		
4	フランス啓蒙思想とルソー		
5	近代ドイツの倫理思想		
6	生命倫理と倫理原則	講義・演習	
7	医療・看護の倫理		
8	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 必要に応じて資料を配布する。
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	授業に集中・傾聴し、テキストをよく読み「自分で考える」よう努めよう。

授業科目	音楽と芸術	講師名	澤村香織 岡部耕太郎	単位 1 単位	時期 3 年次通年
			中村臣一 野中淳児 小野栄二 クラス担当	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験		
科目目標 1. 看護者としての感性を磨く。 2. 日本の伝統文化や暮らしの中の芸術に触れ、看護の対象者と関わるための 幅広い知識を身につける。					

授業内容と方法

回数	授業内容	方法	担当
1	音楽	講義 実技	澤村
2	・人と音楽の関係		
3	・音楽と癒し		
4	・音楽の影響		
5	・音楽の体験		
6			
7	陶芸	講義 実技	岡部
8	・陶芸の魅力 ・陶芸の鑑賞の仕方		
9	園芸	講義 実技	中村
10	・園芸療法とは		野中
11	・園芸活動の実際		
12	能楽	講義 実演	小野
13	・能との出会い ・日本伝統文化の理解		
14	絵画鑑賞	宇都宮美術館	クラス
15	・宇都宮美術館にて絵画の鑑賞と鑑賞の方法 ※学芸員からのレクチャーを受けたあと鑑賞	講義・GW	担当

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト：必要に応じて資料を配布する。
評価の方法	授業講師ごとの出席状況、授業態度、課題・レポート内容等による配点を音楽 40 点、陶芸 15 点、絵画 15 点、園芸 15 点、能楽 15 点の合計 100 点で総合的に評価する。
アドバイス ・その他	各科目の芸術の愉しさに触れ、それを看護師として対象者との関わりの中でどのように活かし、よりよい看護に繋げていけるかを考えていってください。

授業科目	文化人類学	講師名	松山 啓	単位	1 単位	時期	1 年次後期
				時間	15 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験				
科目目標 1. 文化や価値観の違いを理解し、幅広く人間をとらえることができる。 2. 多民族の特徴や生活様式、風俗習慣、宗教的儀式等を知り日本文化を理解する。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	文化人類学的視点	講義	松山
2	日本の家族・親子関係、親族について、文化人類学的理解		
3	親子・親族関係と生殖医療の関わりの理解		
4	出産をめぐる文化と医療の関係 1		
5	出産をめぐる文化と医療の関係 2		
6	医療をめぐる安心・安全の多様性を理解		
7	病気と治療、死をめぐる人類学		
8	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 波平恵美子他：文化人類学, 系統看護学講座 基礎分野, 医学書院, 2021.
評価の方法	筆記試験 70 点 出席点 30 点
アドバイス ・その他	

授業科目	家族論	講師名	降籬 幹子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の定義と家族機能の理解ができる。 2. 現代社会における家族の様相とその課題を理解する。 3. 家族を理解する理論と介入方法について理解する。 4. 家族看護の特徴と実践の場を理解する。 5. 家族看護過程の視点と枠組みを理解する。 6. 家族看護アセスメントを、対象の特性をふまえて事例展開できる。 					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 家族とは 2 家族の機能・構造	講義 ディスカッション	降籬
2	1. 現代の家族の様相 (1) 家族構造・形態の変化 (2) 家族の多様性 2. 現代の家族の課題 (1) 家族内のジェンダーの役割の課題 (2) 子育て家族・高齢者家族がかかえる課題	講義	降籬
3	1. 家族を理解するための理論 (1) 家族発達理論 (2) 家族システム論 (3) 家族ストレス対処理論 2. 家族への介入方法 (1) 家族療法 (2) 家族を支える介入	講義	降籬
4	1. 家族看護の特徴と目指すもの 2. 家族看護の実践場面	講義 ディスカッション	降籬
5	1. 家族看護過程の視点と枠組み 2. 様々な家族アセスメントモデル 3. 領域ごとの家族看護の特徴 4. 家族看護過程の演習	講義 個人ワーク グループワーク	降籬
6	家族看護過程の演習 個人ワーク	個人ワーク	降籬
7	家族看護過程の演習 グループ内発表	プレゼンテーション	降籬
8	筆記試験 (45 分)		降籬

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 上別府圭子他：系統看護学講座 別巻 家族看護学 第2版, 医学書院, 2024. 参考書： 1. 鈴木和子他：家族看護学 理論と実践第5版, 日本看護協会出版、2020.
-------	---

評価の方法	筆記試験 70 点 課題 30 点
アドバイス・ その他	1 年生までに学習してきた心理学等をよく復習しておいてください

授業科目	人間関係論	講師名	小原 一馬 クラス担当	単位 1 単位	時期 1 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. ケアの基礎をなす人間関係の在り方、特に感情と人間関係の関係を学ぶ。 2. 医療チームとして働く上での人間関係の在り方を学ぶ。 3. ワークショップを通して、人間関係の作り方を学ぶ。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	二宮尊徳の人間関係の在り方・リーダーシップを学ぶ	グループワーク プレゼンテーション	クラス 担当
2	1) 二宮尊徳の足跡、報徳訓を理解する		
3	2) 二宮尊徳の人間関係の在り方を考察する 3) プレゼンテーションに参加 テーマ「二宮尊徳の人間関係の在り方」 4) 再構築した自己の考えを指定日までにレポートに まとめる		
4	看護と感情	講義 ワークショップ	小原
5	怒ることと叱ること		
6	協力と罰、いじめ		
7	感情表現と他者性		
8	システムと感情、家族システム論		
9	アサーショントレーニングのワークショップ		
10	感情と解釈、吊り橋理論		
11	感情の深層演技、表層演技、クレーム対処の方法		
12	看護と共感		
13	チームとリーダーシップのワークショップ		
14	レジリエンス強化のワークショップ		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1～3 : 必要な資料を検索し活用する。 4～14 : 資料を適宜配布する。
評価の方法	A+B=100 点 A: 20 点=クラス担当: 20 点 (授業参加・提出レポートで総合評価する) ※報徳研修での学びも含めてレポートを作成する。

	B : 80 点 = 小原担当 : 80 点 (筆記試験 80%、授業参加 20%)
アドバイス ・その他	

授業科目	運動と健康	講師名	村山 晴夫	単位 1 単位	時期 3 年次通年
			相田 美智子 飯塚 弘美 早川 久子	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目			実務経験		
<p>科目目標</p> <p>1. 運動生活と運動の関連を理解し、健康生活への支援に役立てられるようにする。</p> <p>2. 運動・レクリエーションの実際を学び、看護実践に活用できるようにする。</p> <p>3. 運動・レクリエーションを実践することで自己の健康生活に役立てられるようにする。</p>					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1 2 3	<p>体育理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康生活と運動の関連について ・ 運動の効果について ・ 健康的なウォーキング・ランニングと筋力トレーニング 	講義 実技	村山晴夫
4 5 6 7 8	<p>病院や施設でできる高齢者を対象としたレクリエーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションの種類、方法を知り、病院および施設実習でレクリエーションの企画・実施をする時に役立つ。 ・ 実施時の留意点ができる。 ・ 実施することで気分転換になる。 ・ 実施するなかでチームワークを学ぶ ・ ホスピタリティゲームとアイスブレイキングゲーム ・ 活動の選択とハードルの設定 ・ プログラムの立案・演習 	講義 実技	相田美智子 (栃木県レクリエーション協会)
9 10 11	<p>ヨガの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己のからだに意識を向けてアサナ（ポーズ）を行う。 ・ 呼吸法を取り入れアサナを行う。 ・ 心と体の調和を目的とする健康法としてのヨガを学ぶ。 	講義 実技	飯塚弘美 (NPO 法人国際ヨガ協会)
12 13 14 15	<p>笑いヨガ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症予防、改善のためスリーA手法を学ぶ ・ 笑ヨガで深呼吸の効果を学ぶ ・ 笑ヨガで呼吸筋、横隔膜などの訓練法を学ぶ 	講義 実技	早川久子

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 必要時資料配布
-------	------------------

評価の方法	<p>各単元の配点：体育理論 30 点、笑いヨガ 15 点、レクリエーション 40 点、 ヨガ 15 点＝合計 100 点</p> <p>授業講師ごとの出席状況、授業態度、課題・レポート内容等による配点を 総合的に評価する。</p>
アドバイス ・その他	<p>科目の目標に示したように、看護の対象者への看護実践と自己の健康維持の 両面から学修していきましょう。</p> <p>準備するもの</p> <p>各授業は実技があるので、運動できる服装で臨んでください。</p> <p>ヨガ：ヨガマット又はバスタオルを準備してください。</p>

授業科目	英語 I	講師名	マーク ウォー バートン	単位 1 単位	時期 2 年次後期	
				時間 15 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験			
科目目標 1. 英語の基本的な文法が理解できる。 2. 日常生活で使われる基本的な英会話ができる。 3. 演習を通して簡単な英会話ができる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	テーマ	方法	担当
1	Unit 1 It's nice to meet you. Unit 2 Who are they talking about?	私とあなたはどんな人？ 誰の話をしているの？	講義 発音練習	
2	Unit 3 When do you start? Unit 4 Where does this go?	私とあなたの行動 状態を説明する	リスニング スピーチ練 習	
3	Unit 5 How do I get there? Unit 6 What happened?	それはどこ？ なにが起こっていたの？		
4	Unit 7 I'd love that job. Unit 8 What's playing?	趣味と仕事 私の好きな事		
5	Unit 9 What are you going to do? Unit 10 How much is this?	計画する 買い物をする		
6	Unit 11 How do you make it? Unit 12 Listen to the music.	どうやって作る？ My Music, My Life		
7	1 minute speech	1 分間スピーチ		
8	Final Exam	終講テスト		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown: ENGLISH FIRSTHAND 1, Pearson
評価の方法	筆記・リスニング・スピーチで 100 点
アドバイス ・その他	授業は講義だけではなく、英語を少しでも自然に話すための発音練習、 また教科書を読むのではなく実際のシチュエーションを組みながらのロ ールプレイなどを行います。1 分間スピーチでは、1 回から 6 回までの 英語学習の中で、一番話しやすいトピックで発表をします。

授業科目	英語Ⅱ	講師名	マーク ウォーバー トン	単位 1 単位	時期 3 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験		
科目目標 1. 簡単な医学・看護用語の英語バージョンを理解する。 2. 看護場面において、英語を使って簡単なコミュニケーションがとれる。 3. 英語で文章が書ける。					

授業内容と方法

回数	Class Topic & Textbook Unit	テーマ	方法	担当
1	Self-Introductions Explanation of course and expectations	自己紹介 コースの説明	講義	
2	看護英会話 Unit I “Please speak more slowly.”	英語で言うとおっさの 一言	発音練習	
3	看護英会話 Unit II “Where are you from?”	基本的な個人情報を得る	ロールプレイ	
4	看護英会話 Unit III “Could you tell me your address, please?”	体重・身長・住所な どを聞く	リスニング	
5	看護英会話 Unit IV “What department do you want to visit?”	初診患者に対する質 問（診療科名）		
6	看護英会話 Unit V “Where is the X-ray department?”	院内での道案内 （地図）		
7	看護英会話 Unit VI “What are your symptoms?”	症状の尋ね方		
8	Review Unit I~VI Group Discussion	Unit1~6 の復習 グループ演習		
9	看護英会話 Unit VII “Where does it hurt?”	症状の状態を尋ねる （体の部位名）		
10	看護英会話 Unit VIII “Have you ever had any serious illnesses?”	病歴の尋ね方 （病名）		
11	看護英会話 Unit IX “Take one tablet, four times a day.”	薬の服用法の説明 （薬の種類）		
12	看護英会話 Unit X “Let me make an appointment for your test.”	検査予約時の表現 （日程や検査名）		
13	看護英会話 Unit XI “Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.”	手術に関する表現		

14	看護英会話 Unit XII “How are you feeling today?”	入院患者に接する際 の言い回し		
15	<i>Final Examination</i>	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 知念クリスティーン，上瀧真紀恵：クリスティーンのやさしい看護英会話，医学書院，2020.
評価の方法	筆記とリスニングで 100 点
アドバイス ・その他	授業は講義だけではなく、英語を少しでも自然に話すための発音練習、また教科書を読むのではなく実際のシチュエーションを組みながらのロールプレイなどを行います。 8 回目の復習・グループディスカッションでは、ユニット 1 から 6 までの内容の演習、もしくは英語のアクティビティを行う予定です。

2. 專門基礎分野

1) 専門基礎分野構築の考え方

専門基礎分野は、看護学を学ぶために必要な基礎知識と科学的な根拠に基づいた看護実践に向けて必要な基礎的専門知識を習得できるよう構築した。

教育内容は、(1)人体の構造と機能、(2)疾病の成り立ちと回復の促進、(3)健康支援と社会保障制度の三つの内容から構成されている。

「人体の構造と機能」では、人体機能構造論Ⅰ～Ⅴで人体の構造と機能を系統立てて学び、人間の生命現象について理解し、臨床判断能力が修得できるように設定した。人体機能構造論ⅤはⅠ～Ⅳまでの学びを統合させ、人間の生命活動や行動における人体の構造と機能を理解し説明できるような課題学習とした。

生化学では、化学物質の性状と代謝の仕組み・代謝産物の排泄の仕組みについての理解、それと同時に栄養学を加えて生命現象と関連付けて栄養療法の理解が得られるように設定した。

「疾病の成り立ちと回復の促進」では、人体の諸機能の障害されている部分の病態を理解し、障害部位の回復を促進するために必要な検査・治療・処置を系統別に学ぶため、疾病治療論Ⅰ～Ⅵを設定した。薬理学Ⅰ・Ⅱでは基礎的な薬理作用や薬物について学び、微生物学では微生物が人体に与える影響を知り感染予防についても理解が深められるように設定した。

「健康支援と社会保障制度」では、保健医療論で保健・医療の原点及び包括的な医療のあり方と社会全体の保健・医療システムを学習すると同時に学習方法としてプロジェクト学習を実施する。公衆衛生学では、環境や日本の健康政策との関連から、健康の保持・増進の為の取り組みを学ぶ。関係法規では、医療・看護に関する法の基礎的知識を学び、医療従事者としての法的責任が自覚できることをねらいとした。社会保障と社会福祉では人権を尊重しそれを保障する施策と活動を学び、他の医療・保健・福祉との連携のあり方が理解できるように設定した。

2) 専門基礎分野の構成と科目のねらい

教育内容	科目名	単位数 (時間数)	ねらい
人体の構造と機能	人体機能構造論Ⅰ	1単位 (30時間)	人体を構成する細胞と組織、人体の指示と運動(骨・筋肉)の機能と構造、神経系の機能と構造について理解する。
	人体機能構造論Ⅱ	1単位 (30時間)	生命現象の基本となる血液の組成、循環と呼吸の機能と構造を理解する。
	人体機能構造論Ⅲ	1単位 (30時間)	生命現象の基本となる栄養の消化と吸収、感覚器、皮膚や体温調整の機能と構造を理解する。
	人体機能構造論Ⅳ	1単位 (30時間)	体液の調節と尿の生成、内分泌系による調節の機能と構造、人間存続に必要な生殖・発生と老化に関する機能と構造を理解する。
	人体機能構造論Ⅴ	1単位 (15時間)	I～IVで学んだ知識を活用し、人間が生活するうえでの行動(食べたものが栄養になる、不要なものが排泄される、吸った息が酸素として運搬される等)に関係する各器官の構造と機能を統合させてプレゼンテーションすることで理解を深める。
	生化学	1単位 (15時間)	人体を構成している内部環境である化学物質の性状・その分布及び代謝のしくみについて理解する。
	栄養学	1単位 (15時間)	人体の栄養摂取機構について学び、健康障害時の食事療法の基本を学ぶ。
疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅰ	1単位 (15時間)	人体の諸機能の障害されている部分についての生命現象の基礎的知識と基本的な病態を理解する。
	疾病治療論Ⅱ	1単位 (30時間)	呼吸器・循環器疾患の病態生理及び検査・治療・予防法を理解する。
	疾病治療論Ⅲ	1単位 (30時間)	消化器・血液・造血・自己免疫・アレルギー疾患の病態生理及び検査・治療・予防法を理解する。
	疾病治療論Ⅳ	1単位 (30時間)	内分泌・代謝、腎・泌尿器・男性生殖器、皮膚、精神疾患の病態生理及び検査治療・予防法を理解する。
	疾病治療論Ⅴ	1単位 (30時間)	脳・神経、運動器疾患および、耳鼻咽喉疾患、眼疾患の病態生理及び検査・治療・予防法を理解する。
	疾病治療論Ⅵ	1単位 (30時間)	女性生殖器の疾患、新生児・小児の異常・疾患について理解する。
	薬理学Ⅰ	1単位 (15時間)	主な薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。
	薬理学Ⅱ	1単位 (30時間)	種々の疾患の治療と予防のために用いられる主な医薬品の生体への薬理作用と看護への活用について理解する。
	微生物学	1単位 (30時間)	病原微生物の特徴と人体への影響を知り、病原微生物の感染予防方法を理解する。
社会保障制度と生活者の健康	保健医療論	1単位 (30時間)	保健、医療の原点について学び、現在の保健・医療の在り方や問題点に気づき、地域における包括的な保健、医療、社会全体の人々の健康を守るシステムを理解する。自ら疑問をもち解決し、提案する。
	公衆衛生学	2単位 (45時間)	健康と環境の関連性についての認識を深め、集団の健康を維持するための基本的知識を理解する。 人間集団の健康を守るための公衆衛生活動の具体的な活動を理解する。
	関係法規	1単位 (30時間)	医療・看護に関する主な法規について学び、医療従事者としての法的責任の基本を理解する。
	社会保障と社会福祉	2単位 (45時間)	国民の生存権を保障するための社会的な施策および活動について理解する。 社会福祉制度の最近の動向を踏まえて、看護と福祉関連領域との連携のあり方を理解する。

2.専門基礎分野－3) 教授内容

(1) 人体の構造と機能

授業科目	人体機能構造論 I	講師名	前川正夫	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験				
科目目標 1. 人体を構成する組織と骨、筋肉の機能と構造について理解できる。 2. 生命を保つための神経系の機能と構造について理解できる。 3. 自律神経の構造と機能について理解できる。 4. 人間の身体についての的確なアセスメントができるために必要な情報を理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	人体の構成	講義	前川
2	1. 人体の構造と機能（解剖学と生理学）とは		
3	2. 人体の構造と機能を学ぶ基礎知識 1) 人体の構造と区分 2) 細胞と組織 3) 機能から見た人体		
4	3. 人体の支持と運動		
5	1) 骨の構造と機能		
6	2) 筋の構造と機能		
7	4. 体表から見た人体の機能		
8	1) 体表から触知できる骨格部分 2) 体表から触知できる大きな筋		
9	5. 神経系の構造と機能		
10	6. 脊髄と脳		
11	7. 脊髄神経と脳神経		
12	8. 運動機能と下行伝導路		
13	9. 感覚機能と上行伝導路		
14	10. 自律神経の機能と構造		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 坂井建夫他：系統看護学講座, 専門基礎分野, 解剖生理学, 人体の構造と機能①, 医学書院, 2021. 2. 江連和久他：看護学生のための解剖生理, メヂカルフレンド社第2版, 2014.
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	

授業科目	人体機能構造論Ⅱ	講師名	荒井興夫	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験				
科目目標 1. 全身を循環する血液の組成と機能が理解できる 2. 心臓から送り出された血液が全身を巡り、再び心臓に戻ってくる血液循環と、その循環を担う心臓の構造と機能、血圧・血流量の調節について理解できる。 3. 人間の身体についての的確なアセスメントができるために必要な情報を理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当		
1	1. 血液の構造と機能	講義	荒井		
2	1) 血液の組成と機能				
3	赤血球・白血球・血小板				
4	2) 血漿タンパク質と赤血球沈降速度				
5	3) 血液の凝固と繊維溶解				
6	4) 血液型				
7					
8	2. 血液の循環と心臓の調節	講義	荒井		
9	1) 血液の循環とその調節				
10	(1) 循環器系の構成				
11	(2) 心臓の構造				
12	(3) 心臓の拍出機能				
13	(4) 末梢循環系の構造				
14	(5) 血液の循環の調節				
	(6) リンパとリンパ管				
	2) 体表から見た人体の機能				
	(1) 体表から触知できる動脈				
	(2) 体表から到達できる静脈				
15	筆記試験				

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 坂井建夫他：系統看護学講座，専門基礎分野，解剖生理学，人体の構造と機能①，医学書院，2021. 2. 江連和久他：看護学生のための解剖生理，メヂカルフレンド社第2版，2014.
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	

授業科目	人体機能構造論Ⅲ	講師名	荒井興夫	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験				
科目目標 1. 呼吸がどのようにして行われているのか、その構造と機能を理解できる。 2. 食べる、そして食べたものを消化して吸収する、その消化器系の構造と機能をできる。 3. 生体内外の環境の変化を、感覚器が受容し、必要な情報を神経系に送る。その感覚器の機能と構造について理解できる。 4. 人間の身体についての的確なアセスメントができるために必要な情報を理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 呼吸のしくみ	講義	荒井
2	1) 呼吸器の構造と機能		
3	2) 呼吸		
4	(1) 内呼吸と外呼吸		
5	(2) 呼吸器と呼吸運動		
	(3) ガス交換		
	(4) 肺の循環と血流		
	(5) 呼吸運動の調節		
	(6) 呼吸器系の病態生理		
6	2. 栄養の消化と吸収		
7	2) 栄養の消化と吸収		
8	(1) 口・咽頭・食道の構造と機能		
9	(2) 腹部消化管の構造と機能		
10	(3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能		
	(4) 腹膜		
11	3. 感覚器		
12	1) 感覚器の構造と機能		
13	(1) 眼の構造と視覚		
14	(2) 耳の構造と聴覚・平衡感覚		
	(3) 味覚と嗅覚		
	(4) 痛み (疼痛)		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 坂井建夫他：系統看護学講座，専門基礎分野，解剖生理学，人体の構造と機能①，医学書院，2021. 2. 江連和久他：看護学生のための解剖生理，メヂカルフレンド社第2版，2014.
-------	---

評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	

授業科目	人体機能構造論Ⅳ	講師名	久保 房子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師			
<p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外部環境からの攻撃より身体を守っている皮膚や生体防御機構のしくみを理解できる。 2. 体内に含まれる水と電解質の量とそのバランスを調節している腎臓のはたらきが理解できる。 3. 生体内外の環境の変化に応じて様々な臓器の機能状態を変化させているホルモン（と自律神経）のはたらきについて理解できる。（自立神経はⅠで学修） 4. 生命の継続を可能にする生殖のメカニズムと、身体の変化（成長と老化）について理解できる。 5. 人間の身体についての的確なアセスメントができるために必要な情報を理解できる。 						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 身体機能の防御と適応	講義	久保
2	1) 外部環境からの防御		
3	(1) 皮膚 (2) 生体の防御機構 (3) 代謝と運動 (4) 体温とその調節		
4	2. 体液の調節と尿の生成		
5	1) 腎臓		
6	2) 排尿路 3) 体液の調節		
7	3. 内分泌機能		
8	1) 内臓機能の調節		
9	(1) 内分泌系による調節		
10	(2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞		
11	(3) ホルモン分泌の調節 (4) ホルモンによる調節の実際		
12	4. 生殖機能および発生と老化		
13	1) 生殖・発生と老化の仕組み		
14	1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 受精と胎児の発生 4) 成長と老化		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 坂井建夫他：系統看護学講座, 専門基礎分野, 解剖生理学, 人体の構造と機能①, 医学書院, 2021. 2. 江連和久他：看護学生のための解剖生理, メヂカルフレンド社第2版, 2014.
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	

授業科目	人体機能構造論 V	講師名	久保 房子	単位	1 単位	時期	1 年次後期
				時間	15 時間		
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師				
科目目標 1. 人体機能構造論 I～IVで学んだ知識を活用し、人間が生活するうえでの人体の機能・構造を統合させて理解する。 2. 課題について発表し、他者に伝え、意見交換することで学びを深める。 3. 臨床判断に役立てられる知識の学び方を修得する。 4. 人体模型を作成し人体の構造を学んだ知識と関連させて理解する。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	人間の生活の視点から見た人体の機能と構造について	個人学習 グループ学習	久保
2	提示した課題からグループで1テーマを選択し、計画的に		
3	個人学習とグループ学習を進める。5.6 回目にプレゼンテ		
4	ーションを行う 個人学習の学習ファイルを作成する。		
5	プレゼンテーション	発表	
6	プレゼンテーション内容の追加、修正や個人の追加学習等		
7	2、人体の構造の理解	個人学習 グループ学習	
8	各自が人体（臓器）模型を作成し、構造について説明する。グループ学習で理解を深める		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 坂井建夫他：系統看護学講座, 専門基礎分野, 解剖生理学, 人体の構造と機能 ①, 医学書院, 2021. 2. 江連和久他：看護学生のための解剖生理, メヂカルフレンド社第2版, 2014.
評価の方法	ループリックによる評価 100 点(別紙の評価表を参照)
アドバイス ・その他	本科目は、これまで主に臓器および系統ごとに学習した内容を人間の生活を考えた人体の機能・構造として統合させる科目である。他者に説明することで自己の知識の確実性を高められる。看護実践の場面で患者に説明することに大いに役立つ科目である。

授業科目	生化学	講師名	古田裕明	単位	1 単位	時期
				時間	15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験				
科目目標 1. 人体を構成する生体分子の構造と機能について理解できる 2. 人体の代謝の仕組みを理解し、疾患との関連性についても理解できる						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	生体分子(糖質, 脂質, タンパク質, 核酸)について	講義	古田
2	酵素とビタミン		
3	糖質代謝		
4	脂質代謝		
5	アミノ酸, タンパク質代謝		
6	ポルフィリン代謝および核酸代謝		
7	遺伝情報とホルモン		
8	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 畠山鎮次：系統看護学講座 専門基礎分野 生化学, 人体の構造と機能②, 医学書院, 2021.
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	学習の基本として, 予習・復習を継続する事. 質問は適宜いつでも, E-mail ならば毎日 24h 可能

授業科目	栄養学	講師名	古田裕明	単位	1 単位	時期
				時間	15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験				
科目目標 1. 日本人の食生活や栄養状態の現状をふまえて，健康と栄養の関連について理解できる。 2. 健康の維持，増進，回復に必要な栄養管理および健康レベルに応じた食事摂取方法について理解できる。 3. 健康状態と栄養状態に関する的確なアセスメントができ，それに必要な情報を理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	臨床栄養学の意義	講義	古田
2	食品の成分，ビタミン，ミネラル		
3	食事摂取基準，エネルギー必要量と算出法，栄養アセスメント		
4	運動と栄養		
5	人生各期の健康生活と栄養		
6	検査と食事，治療と食事		
7	経管栄養法と高カロリー輸液法		
8	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 關戸啓子：ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち④，臨床栄養学，メディカ出版 2021.
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	学習の基本として，予習・復習を継続する事。質問は適宜いつでも，E-mail ならば毎日 24h 可能。

2.専門基礎分野－3) 教授内容

(2) 疾病の成り立ち と回復の促進

授業科目	疾病治療論 I	講師名	黒須 明	単位 1 単位	時期
			山内 忍	時間 15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	医師	
科目目標					
1. 病理学の基本的概念が理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 病理学とは・先天異常 1) 看護と病理学 2) 病気の原因 3) 疾病の分類 2. 先天異常と遺伝子異常 1) 遺伝子異常・疾患・診断 2) 染色体異常・疾患・診断	講義	黒須 山内
2	3. 代謝障害 1) 細胞の損傷と適応 2) 物質沈着 3) 代謝障害と疾患		
3	4. 循環障害 1) 局所性の循環障害 2) 全身性の循環障害 3) リンパの循環障害		
4	5. 炎症 1) 炎症とは 2) 炎症の各型		
5	6. 免疫、移植と再生医療 1) 免疫 2) アレルギーと自己免疫疾患 3) 膠原病 4) 移植と免疫		
6	7. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 腫瘍の発生病理 3) 転位と進行 4) 診断・治療		
7	8. 老化と死 1) 細胞の老化と固体の老化 2) 変化 3) 死		

8	筆記試験	
---	------	--

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 大橋健一他：系統看護学講座 専門基礎分野, 疾病のなりたちと回復の促進①, 病理学, 第5版, 医学書院, 2020.
評価の方法	筆記試験 100点
アドバイス ・その他	

授業科目	疾病治療論Ⅱ	講師名	1 舟山 勝 藤田 海斗	単位 1 単位	時期 1 年次通年
			2 亀山友理子 若林 理恵	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 呼吸器疾患の病態生理と治療・検査について理解できる。 2. 循環器疾患の病態生理と治療・検査について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 呼吸器 1) 呼吸器疾患の症状と病態生理 (1) 自覚症状 ①喀痰 ②血痰 ③咯血 ④せき ⑤その他	講義	舟山
2	(2) 他覚症状 ①チアノーゼ ②ばち指 ③発熱 ④喘鳴 ⑤呼吸の異常 ⑥その他		
3	2) 呼吸器疾患の検査と治療・処置 (1) 診察と診断の流れ (2) 検査 ①血液検査 ②喀痰検査 ③胸水検査 ④画像診断 ⑤内視鏡検査 ⑥生検 ⑦肺機能検査		
4	3) 治療・処置 (1) 吸入療法(2) 酸素療法(3) 人口呼吸療法(4) 呼吸理学療法 (5) 気道確保(6) その他		
5	4) 呼吸器疾患の理解 (1) 感染症 (2) 間質性肺炎 (3) 気道疾患 (4) 肺血栓・塞栓症	講義	藤田
6	(5) 呼吸不全 (6) 呼吸調整に関する疾患 (7) 肺腫瘍 (8) 肺・血管の形成異常		
7	(9) 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 (10) 肺移植 (11) 胸部外科		
8	2. 循環器 1) 循環器疾患の症状とその病態生理 (1) 胸痛 (2) 動悸 (3) 呼吸困難 (4) 浮腫 (5) チアノーゼ (6) 失神 (7) 四肢の疼痛 (8) ショック	講義	亀山
9	2) 循環器疾患の検査と治療・処置 (1) 診察と診断の流れ		
10	(2) 検査：①心電図 ②胸部 X 線撮影 ③心エコー ④心臓カテーテル ⑤その他 (3) 治療・処置		

	①内科的治療について ②外科的治療について ③補助循環装置		
11	3) 循環器疾患の理解	講義	若林
12	(1)虚血性心疾患 (2)心不全 (3)血圧異常 (4)不整脈		
13	(5)弁膜症 (6)心膜炎 (7)心筋疾患 (8)肺性心		
14	(9)先天性心疾患 (10)動脈系疾患 (11)静脈系疾患 (12)リンパ系疾患 (13)高脂症		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 呼吸器 川村雅文他：系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器第 15 版, 医学書院, 2019.</p> <p>2. 循環器 吉田敏子他：系統看護学講座 成人看護学 3 循環器第 15 版, 医学書院, 2019.</p>
評価の方法	<p>筆記試験 A+B=100 点</p> <p>A：呼吸器 50 点（舟山 30 点・藤田 20 点）</p> <p>B：循環器 50 点（亀山 20 点・須藤 30 点）</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	疾病治療論Ⅲ	講師名	1 久保房子	単位 1 単位	時期 1 年次通年
			2 金子 香織	時間 30 時間	
			3 塩谷 美希		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 消化器疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。 2. 血液・造血、自己免疫・アレルギー疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1 2	1. 消化器 1) 消化器疾患の症状と病態生理 (1) 消化器疾患の症状とその病態生理 ①嚥下困難 ②嘔吐 ③腹痛 ④吐血・下血 ⑤便秘 ⑥その他 (2) 肝臓疾患の症状とその病態生理 ①腹水 ②黄疸 ③門脈圧亢進 ④肝性脳症	講義	久保
3 4 5	2) 消化器疾患の検査と治療・処置 (1) 診察と診断の流れ (2) 検査 ①胃液・十二指腸液検査 ②肝機能検査 ③放射線検査 ④内視鏡検査 ⑤肝生検 ⑥その他 (3) 治療・処置 ①薬物療法 ②食事療法 ③手術療法 ④放射線療法		
6 7 8	3) 消化器疾患の理解 (1) 食道の疾患、 (2) 胃・十二指腸疾患、 (3) 腸および腹膜疾患 (4) 肝臓・胆嚢の疾患 (5) 膵臓の疾患 (6) 急性腹症 (7) 腹部外傷		
9 10 11	2. アレルギー/膠原病 1) アレルギー疾患/膠原病 (1) 免疫の仕組みとアレルギー (2) 自己免疫疾患とその機序 (3) 症状と病態生理 (4) 検査と治療 (5) 主な疾患	講義	金子
12 13	3. 血液 1) 血液造血器疾患	講義	塩谷

14	(1)主な症状と病態生理 (2)主な検査・治療・処置 (3)主な疾患		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器) 南川雅子他：成人看護学 5 消化器 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2019. 2. アレルギー・膠原病) 岩田健太郎他：成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症、系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2020. 3. 血液) 飯野京子他：成人看護学 4 血液・造血器 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2019.
評価の方法	<p>筆記試験 A+B=100 点</p> <p>A. 消化器：60 点</p> <p>B. アレルギー・膠原病：20 点 + 血液：20 点 = 40 点</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	疾病治療論Ⅳ	講師名	1. 落合 秀樹	単位 1 単位	時期 1 年次後期
			2. 岡本 智恵		
			3. 岡本 早弥花	時間 30 時間	
			4. 國谷 聡		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
<p>科目目標</p> <p>1. 内分泌・代謝疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。</p> <p>2. 腎・泌尿器、男性生殖器疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。</p> <p>3. 皮膚疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。</p> <p>4. 精神科疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。</p>					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 内分泌・代謝 1) 内分泌・代謝疾患の検査 (1) 内分泌疾患の検査 (2) 代謝疾患の検査	講義	落合
2	2) 内分泌・代謝疾患の理解 (1) 内分泌疾患 ① 視床下部系疾患 ② 甲状腺疾患 ③ 副甲状腺疾患 ④ 副腎疾患 ⑤ 性腺疾患 ⑥ 内分泌腫瘍		
3	(2) 代謝疾患 ① 糖尿病 ② 高脂血症 ③ 肥満症 ④ 尿酸代謝障害		
4	2. 腎・泌尿器 1) 腎泌尿器疾患の症状と病態生理 (1) 尿の異常 (2) 排尿の異常 (3) 浮腫 (4) 脱水 (5) 高血圧 (6) 水と電解質の異常 (7) その他	講義	岡本 智恵
5	2) 泌尿器疾患の検査と治療 (1) 診察 (2) 検査 ① 尿の検査 ② X線検査 ③ 経尿道的操作・内視鏡検査 ④ 生検 ⑤ 精液・分泌物の検査 (3) 治療 ① 血液透析 (HD) ② 腹膜透析 (PD) ③ 腎移植		
6	3) 腎・泌尿器疾患の理解 (1) 腎不全 (2) 糸球体腎炎 (3) 全身性疾患による腎障害 (4) 尿路・性器の感染症 (5) 尿路の通過障害と機能障害		
7	(6) 尿路結石 (7) 尿路・性器の腫瘍 (8) 男性不妊症・男性性 機能障害・その他の男性生殖器疾患 (9) その他		

8	3. 皮膚	講義	岡本
9	1) 皮膚疾患 (1) 症状と病態生理 (2) 検査と治療 (3) 主な疾患		
10	4. 精神	講義	國谷
11	1) 精神の主な疾患		
12	(1) さまざまな精神症状 (2) 精神障害の診断と分類 (3) 主な疾患		
13	2) 精神科の治療		
14	(1) 精神療法 (2) 環境療法・社会療法・リエゾン精神医学		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌) 吉岡成人他：成人看護学 6 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2019. 2. 腎・泌尿器) 大東貴志他：成人看護学 8 腎・泌尿器 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2019. 3. 皮膚) 渡辺晋一他：成人看護学 12 皮膚 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2020. 4. 精神) 武井麻子他：精神看護学 [1] 精神看護の基礎 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2021.
評価の方法	<p>筆記試験 A+B+C=100 点</p> <p>A：35 点=①内分泌・代謝 20 点 + ②皮膚 15 点</p> <p>B：30 点=腎・泌尿器 30 点</p> <p>C：35 点=精神 35 点</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	疾病治療論 V	講師名	1. 小竹裕紀 2. 藤田裕明 3. 平林秀樹 4. 千葉矩史	単位 1 単位	時期 1 年次後期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	医師・看護師	
科目目標 1. 運動器疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。 2. 脳・神経疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。 3. 感覚器疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 運動器	講義	小竹
2	1) 運動器疾患の症状と病態生理		
3	(1) 疼痛 (2) 形態の異常 (3) 関節運動の異常		
4	(4) 異常歩行または跛行 (5) 神経の障害 2) 運動器疾患の診断と治療・処置 (1) 診察・診断の流れ (2) 検査 ①画像診断 ②関節鏡検査 ③その他 (3) 治療・処置 ①保存療法 ②理学療法と作業療法 ③手術療法 ④義肢と装具 3) 運動器疾患の理解 (1) 先天性疾患 (2) 骨折 (3) 脱臼 (4) 捻挫および打撲 (5) 骨関節の炎症性疾患 (6) 筋および腱の疾患 (7) 麻痺性疾患 (8) 脊椎の疾患 (9) その他の疾患		
5	2. 脳・神経	講義	藤田
6	1) 脳・神経疾患の症状と病態生理 (1) 意識障害 (2) 高次脳機能障害 (3) 運動機能障害 (4) 感覚機能障害 (5) 反射性運動の障害 (6) その他 2) 脳・神経疾患の診断と治療・処置 (1) 検査 ①神経学的検査 ②補助的検査法 (2) 外科的治療法 (3) 3. 内科的治療法		
7	3) 脳・神経疾患の理解	講義	
8	(1) 末梢神経疾患 (2) 神経・筋疾患 (3) 脳・神経系の感染症 (4) 中毒 (5) てんかん (6) 痴呆		
9	(7) 脳疾患 (8) 脊髄疾患		

10			
11	3. 耳鼻咽喉	講義	平林
12	1) 耳鼻咽喉疾患 (1) 症状と病態生理 (2) 検査と治療 (3) 主な疾患		
13	4. 眼		
14	1) 眼疾患 (1) 症状と病態生理 (2) 検査と治療 (3) 主な疾患	講義	千葉
15	筆記試験 (90 分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 運動器) 田中栄他：成人看護学 10 運動器 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2019.</p> <p>2. 脳・神経) 井出隆文他：成人看護学 7 脳・神経 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2019.</p> <p>3. 耳鼻咽喉) 小松浩子他：成人看護学 14 耳鼻咽喉 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2020.</p> <p>4. 眼) 大鹿哲郎他：成人看護学 13 眼 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院, 2020.</p>
評価の方法	<p>筆記試験 A+B=100 点</p> <p>A：30 点=運動器 30 点</p> <p>B：42 点=脳・神経 42 点</p> <p>C：28 点=①耳鼻咽喉 14 点+②眼 14 点</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	疾病治療論Ⅵ	講師名	1. 角田 美咲	単位 1 単位	時期 2 年次前期
			2. 中本 妙佳	時 30 時間	
			3. 竹澤恵美子		
			4. 川上 有美		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 女性生殖器疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。 2. 新生児を含む、小児特有の疾患の病態生理・治療・検査について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 女性生殖器 女性生殖器疾患の主要症状とその病態生理および主な検査 1. 主要症状とその病態生理 2. 主要な検査	講義	角田
2	女性生殖器疾患の主な処置および治療 3. 主要な処置 4. 主要な治療の原理とその実際		
3	女性生殖器疾患の病態生理と検査および治療 5. 主な疾患の理解 (疫学的特徴・病態生理・検査・治療・合併症・予後)		
4			
5			
6			
7	2. 小児 小児特有の疾患・病態・治療 1. 代謝性疾患・内分泌疾患	講義	川上
8	2. 感染症・免疫・アレルギー疾患		
9	3. 循環器・呼吸器疾患		
10	4. 消化器疾患・腎・泌尿器疾患		
11	5. 血液・造血器疾患・悪性新生物		
12	6. 神経・筋・運動器疾患		
13	7. 小児の感覚器疾患		
14	8. 精神疾患・こども虐待		
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 女性生殖器：末岡浩他：成人看護学 9 女性生殖器 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院，2019. 2. 小児：奈良間美保他：小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門Ⅱ，医学書院，2020.
-------	---

	奈良間美保他：小児看護学 2 小児臨床看護各論 系統看護学講座 専門 II, 医学書院, 2020.
評価の方法	筆記試験 A+B=100 点 A：女性生殖器 45 点 B：小児 55 点
アドバイス ・その他	

授業科目	薬理学 I	講師名	林啓太郎	単位	1 単位	時期
				時間	15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験			
科目目標 1. 疾病に対する薬理作用の特徴作用機序、人体への影響を理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	薬理学総論	講義	林
2	1. 薬理学の概論		
3	1) 薬理学とはなにか		
4	2) 薬物療法の目的		
	3) 薬理作用と作用機序		
	4) 薬物動態と薬効		
	5) 副作用と有害作用		
	6) 薬物相互作用		
	7) 毒		
	8) 薬物療法に影響を与える因子		
	9) 薬物送達システム		
	10) 新薬の開発		
	11) 医薬品の安全な使用		
5	2. 小児、妊婦、高齢者の薬物治療		
	1) 小児		
	2) 妊婦		
	3) 高齢者		
6	3. 医薬品の管理		
7	1) 医薬品と法規		
	2) 医薬品の管理と取り扱い		
	3) 処方箋と調剤		
	4) 医薬品添付文書		
8	筆記試験 (45 分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 吉岡充弘他：疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 系統看護学講座 専門基礎，医学書院，2018. 2. 井上智子他：臨床薬理学 系統看護学講座 別巻，医学書院，2017.
評価の方法	筆記試験 100 点 (45 分)
アドバイス ・その他	

授業科目	薬理学Ⅱ	講師名	林啓太朗	単位	1 単位	時期	2 年次前期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験					
科目目標 1. 治療に使用される主な薬物の作用・副作用を理解できる。 2. 薬物治療時の観察点と管理方法を理解できる。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	薬理学各論	講義	林
2	1. 末梢神経系作用薬		
3	2. 中枢神経系作用薬		
4	3. 心臓・血管作用薬		
5	4. 抗炎症薬		
6			
7	5. 呼吸器系作用薬		
8	6. 消化器系作用薬		
9			
10	7. ホルモン系・生殖系作用薬		
11	8. 抗感染症薬		
12	9. 抗悪性腫瘍薬		
13	10. 胆・肝・脾疾患治療薬		
14	11. 漢方薬		
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 吉岡充弘他：疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 系統看護学講座 専門基礎，医学書院，2018. 2. 井上智子他：臨床薬理学 系統看護学講座 別巻，医学書院，2017.
評価の方法	筆記試験 100点(90分)
アドバイス ・その他	

授業科目	微生物学	講師名	藤澤隆一	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験				
<p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの疾病の原因となる細菌、真菌、ウイルス及び原虫・寄生虫の構造や基本的性状を説明する。 2. 病原微生物の感染経路、感染のメカニズム及び感染様式を説明する。 3. 病原微生物が疾病を引き起こす機序を説明する。 4. 微生物の感染に対する人体の生体反応や防御機構、免疫応答について説明する。 5. 代表的な病原微生物について、それらが引き起こす疾病を挙げる。 6. 代表的な感染症について、それらの原因となる微生物を挙げる。 7. 感染症の診断、治療及び予防について概説する。 8. 院内感染や日和見感染症について説明する。 9. 医療現場での感染対策の基本について概説する。 						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	微生物学序論 原核生物と真核生物、微生物学の歴史、 感染症の現状と問題、新興・再興感染症	講義	藤澤
2	細菌学総論 真菌学総論 細菌の形態と分類、構造、増殖様式、常在細菌叢 真菌の形態と構造、増殖様式、命名法		
3	ウイルス学総論 ウイルスの特徴・基本構造、増殖様式、分類、プリオン		
4	感染と感染症 I 定義、感染源と感染経路、感染の成立、宿主-病原体関係、 感染症の種類		
5	感染と感染症 II 微生物の違いによる感染機構の特徴		
6	感染と免疫 I 免疫の意義、免疫システムの概略、 自然免疫と獲得免疫、MHC、免疫反応のメカニズム		
7	感染と免疫 II 液性免疫、抗体と補体、細胞性免疫、 免疫応答と免疫寛容、移植免疫、粘膜免疫、アレルギー		
8	原虫・寄生虫感染症 原虫・寄生虫学総論：特徴、構造、分類 主な原虫・寄生虫感染症		

9	感染症の診断と治療法 感染症の検査法・診断 感染症に対する化学療法の基礎、薬剤耐性（AMR）		
10	感染症の予防 滅菌と消毒、感染制御、ワクチンと受動免疫療法 感染症法、検疫		
11	病原細菌と細菌感染症Ⅰ グラム陽性球菌（GPC）、グラム陰性球菌（GNC） グラム陽性桿菌（GPR）		
12	病原細菌と細菌感染症Ⅱ グラム陰性桿菌（GNR）、呼吸器感染症を起こすグラム陰性 桿菌、抗酸菌		
13	主なウイルスとウイルス感染症Ⅰ DNA ウイルス、RNA ウイルスⅠ		
14	主なウイルスとウイルス感染症Ⅱ RNA ウイルスⅡ、レトロウイルス、肝炎ウイルス		
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 吉田眞一他：疾病のなりたちと回復の促進 4 微生物学，系統看護学講座， 専門基礎分野，医学書院，2018.
評価の方法	評価 100 点 定期試験、授業参加度（出席状況など）により評価します。
アドバイス ・その他	

2.専門基礎分野－3) 教授内容

(3) 健康支援と 社会保障制度

授業科目	保健医療論	講師名	降籬 幹子	単位 1 単位	時期 1 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 1. 看護学を学ぶ上で医療の全体像を理解することができる。 2. 現代医療の課題を見出すことができる方法を取得することができる。 3. 多様な視点から命について思考することができる。 4. 自分が問題意識をもった医学・看護の分野について、プロジェクト学習（PBL）の手法にて資料・文献を収集整理しまとめ、発表することができる。 5. リレー・フォー・ライフへの参加することで、がん患者の支援を考えることができる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	医療コミュニケーションの原点 医療と看護の原点—命と死・病と癒し	講義	降籬
2	医療の歩みと医療観の変遷 現代医療の最前線と新たな課題	講義	
3	心の傷を癒すということ	講義・個人ワーク	
4	「命とは」を考察する① 医療ドラマから	講義・動画視聴 グループワーク	
5	「命とは」を考察する② 絵画から	講義・絵画鑑賞 グループワーク	
6	プロジェクト学習（PBL）の展開方法 プロジェクト学習（PBL）とポートフォリオ	講義	
7	PBL①テーマ・問い・仮説の設定 【課題 1】 PBL	PBL	
8	PBL②レビュー・調査	PBL	
9	PBL③レビュー・調査	PBL	
10	PBL④結果・考察	PBL	
11	PBL⑤発表原稿作成	PBL	
12	PBL⑥プレゼンテーション・振り返り	PBL	
13	リレー・フォー・ライフ (RFL) への参加	体験学習	
14	・リレー・フォー・ライフについて調べて参加する		
15	・課題レポート：がん患者やがん経験者、家族支援のあり方について考える。 【課題 2】 レポート		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 小泉俊三他著：系統看護学講座 別巻 総合医療論 第2版, 医学書院, 2022 参考書：
-------	---

	<p>1. 鈴木敏江:ポートフォリオとプロジェクト学習, 医学書院、2017年.</p> <p>2. 鈴木敏江:アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する, 医学書院, 2016年</p> <p>3. 宮地尚子:安克昌 心の傷を癒すということ 傷の回復とは, NHK テキスト 100分名著, NHK 出版, 2026年1月</p>
評価の方法	【課題1】70点 【課題2】30点
アドバイス・その他	<p>アドバイス:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目を通して、医学全般の諸様と課題を学修し、医学における看護の役割を省考する。

授業科目	公衆衛生学	講師名	三浦 善憲	単位	2 単位	時期
				時間	45 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		実務経験				
科目目標 1. 公衆衛生と健康の概念について理解できる。 2. 健康に係る統計データから、集団における健康状態を判断する視点を養う。 3. 人々の疾病の予防・改善および健康増進につながる公衆衛生活動が理解できる。 4. 地域の公衆衛生活動における看護師の役割について考えることができる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	健康の概念と公衆衛生学	講義	三浦
2	人口統計と保健統計		
3	疫学		
4	環境保健		
5			
6	産業保健		
7			
8	感染症		
9			
10	食品衛生		
11			
12	国民栄養		
13			
14	母子保健		
15	学校保健		
16	成人保健		
17	高齢者保健		
18	社会保障と社会福祉 (公衆衛生活動との関連を考える)		
19	精神保健と障害者保健		
20	衛生行政と地域保健		
21	国際保健		
22	まとめ		
23	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松木英明編：よくわかる専門基礎講座 公衆衛生, 金原出版, 2021. 2. 一般財団法人厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2021/2022, 2021.
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	<p>先行する「地域と暮らし」や「地域とくらしの実習」等で人の生活を知り、「微生物学」では病原と感染についての知識を得ました。これらの知識をもとに、この授業では、地域社会の人々の健康を保持するための組織的な衛生活動を理解していきます。</p> <p>また、並行する「生活と環境」では、健康に影響を及ぼす環境因子について、「社会保障と社会福祉」では、すべての人々が健康な生活を送るための制度やその展開方法を学修していきます。本授業と関連させながら学修していくとより理解が深まるでしょう。</p>

授業科目	関係法規	講師名	降籬 幹子	単位 1 単位	時期 1 年次後期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 1. 医療保健福祉に関する主な法規について理解できる。 2. 看護職の基本となる保健師助産師看護師法及びそれに関する法規が説明できる。 3. 医療従事者としての法的責任の基本を理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	法規の概念	講義	降籬
2	1. 法規の概念 2. 衛生法規分類 看護法 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律		
3	医事法① 医療法	講義	降籬
4	医事法② 医療関係資格法 医師法、薬剤師法、歯科医師法等	講義	降籬
5	保健衛生法	講義	降籬
6	1. 地域保健法 2. 健康増進法 3. 分野別：母子保健法、精神保健福祉法、 学校保健安全法、がん対策基本法、自殺基本法等		
7	予防衛生法 1. 感染症法 2. 予防接種法 3. 検疫法 課題1「感染症法と看護学生としての行動と教育」	講義	降籬
8	薬務法：毒物及び劇薬取締法等 環境衛生法①〈食品衛生〉 1. 食品衛生法 2. 食品安全基本法	講義 課題レポート「私の 考える感染症対策」	降籬
9	環境衛生法②〈生活関係〉 1. 水道法 2. 下水道法 3. 墓地埋葬法等 環境衛生法③〈環境法〉 1. 環境基本法 2. 地球温暖化対策推進法等	講義	降籬
10	社会保険法	講義	降籬
11	1. 社会保険 2. 医療保険の関係法 3. 介護保険法 4. 年金		
12	福祉法 1. 福祉の基盤：社会福祉法、生活保護法 2. 分野別：老人福祉法、障害者基本法、 障害者総合支援法等	講義	降籬

13	労働法 1. 労働基準法 2. 労働安全衛生法等 社会基盤関係の法	講義 ディスカッション「児童虐待を考える」	降簇
14	法と医療のつながりの実際	グループワーク	降簇
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト 1. 森山幹夫：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令, 第 57 版, 医学書院, 2025 2. 一般財団法人厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2025/2026
評価の方法	筆記試験 80 点 課題レポート 20 点
アドバイス・その他	アドバイス： 現代社会で起こっている事象や課題に興味をもつこと。

授業科目	社会保障と 社会福祉	講師名	大森 秀樹 稲見 聡 黒子 千代子	単位 2 単位	時期 1 年次後期
				時間 45 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	精神保健福祉士・社会福祉士	
科目目標 1. 社会福祉の理念について理解する。 2. 社会福祉・社会保障制度について理解する。 3. 社会福祉サービスを必要としている対象者に、どのように施策を展開しているかを理解する。 4. 各サービスを担う専門職の役割を理解し、保健・医療・福祉の連携について認識する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 社会保障制度と社会福祉	講義	大森
2	1) 社会保障制度について 2) 社会福祉の法制度について 3) 社会福祉の歴史 (1) イギリスの社会福祉の歴史 (2) 日本の社会福祉の歴史		
3	2. 現代社会の変化と社会保障制度・社会福祉の動向 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向		
4	3. 医療保障	講義	
5	1) 医療保障制度		
6	2) 健康保険と国民健康保険 3) 高齢者医療制度 4) 保険診療のしくみ 5) 公費負担医療 6) 国民医療費		
7	4. 介護保障	講義	大森
8	1) 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史		
9	2) 介護保険制度の概要		
10	5. 所得保障	講義	野口
11	1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度 3) 社会手当 4) 労働保険制度		
12	6. 公的扶助		

13	1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保護制度のしくみ 3) 低所得者対策		
14	7. 社会福祉の分野とサービス	講義 講義	黒子 黒子
15	1) 高齢者福祉		
16	2) 障害者福祉		
17	3) 児童家庭福祉		
18	4) 少子化対策と子育て支援 5) 子どもの人権と虐待・貧困		
19	8. 社会福祉の実践と医療・看護	講義	稲見
20	1) 社会福祉援助とは		
21	2) 個別援助技術		
22	3) 集団援助技術		
	4) 間接援助技術と関連援助技術		
	5) 社会福祉援助の検討課題 6) 社会福祉の実践と医療・看護との連携		
23	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 福田素生他：系統看護学講座，専門基礎分野，社会保障・社会福祉，健康支援と社会保障制度③，医学書院。
評価の方法	筆記試験 100点（90分） ※23回目 45分+教科外 45分=90分とする
アドバイス ・その他	

3. 専門分野

1) 専門分野の構築の考え方

専門分野は、看護の対象である人々のくらしの多様性の理解を基盤にするため、すべてに共通する科目として「地域・在宅看護論」を位置付けた。科目は人々のくらしを理解する「地域とくらし」と概論、方法論で構成し、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ内容とした。終末期看護も含め、在宅での基礎的技術を身につけ多職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とした。

基礎看護学では基礎分野・専門基礎分野をもとに、看護を学ぶ専門職業人として、科学的思考に基づいた看護実践が行えるための基礎となる事柄を学習する。また、看護を学ぶ初学者のため、看護の知識、技術、倫理的態度を身につけ、発展的に学び続けていくための動機づけの役割を担う。

看護の主要概念、看護の対象を理解し、あらゆる健康のレベルにある人々に心を傾けることができる看護の専門職業人としての態度を形成していける基礎的知識を概論で、基本的看護を構成する諸活動を実践できるための技術を共通基本技術Ⅰ～Ⅲ、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ、診療補助技術Ⅰ～Ⅲで習得するよう構成した。また、臨床判断能力を強化するためのフィジカルアセスメント、経験を通して自らの学びを深められ主体的学習に繋がられる方法としてリフレクションを科目とした。看護技術は演習を多く取り入れ、事例に基づき、対象の個別性に応じた看護展開ができるように、学習、実践、振り返りにより自ら考え、主体的に学習する習慣を身につける方法とした。看護の目的を果たすためのコミュニケーション能力、アセスメント能力、問題解決能力が養えるような内容とした。

看護の対象の各発達段階や領域で共通する内容について重複を避け、本質的な援助を学習するため、領域横断科目として「健康状態別看護」7科目を置いた。各発達段階における発達課題と健康問題およびその支援を「健康支援論」、健康回復過程各期の支援を「健康回復支援論」、「薬物療法と看護」、「周手術期と看護」、「終末期と看護」、「臨床判断」、「看護過程」とした。科目の内容は各領域の対象を取り上げた学習とする。

成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の看護の対象の特性と看護を理解する5つの領域を設定した。臨地場面での看護に必要とされる知識・技術について学ぶため概論と方法論で構成する。

看護の統合と実践は基礎分野、専門基礎分野、専門分野と、積み上げて学習した内容を統合し、看護師として専門性を高め、さらに成長していくための学習をする領域と設定した。保健・医療・福祉の連携の中で看護の役割が拡大する中、チーム医療における多職種連携・協働する上でマネジメントする能力を身につけ、国際的な看護活動や、災害時あるいは救急医療現場において看護の知識や技術が求められることを踏まえ、それらに必要な知識・技術の修得することを目指した。さらに臨地での質の高い看護を提供する上で必要なエビデンスをふまえた看護実践を構築する能力の育成や、生涯学習の観点から看護研究について学ぶ機会とした。看護実践能力を高めるために臨地での看護実践に近い形で知識・技術を統合し、実践するため「臨床看護の実践」では学内演習の充実を図ることとした。同時に多職種連携・協働の意識を高め対象を多様的にとらえることを学ぶために、他職種を目指す学生との協同学習の機会を設定した。

臨地実習では、早期に看護の対象である人々のくらしの場の理解、看護の実践の場の理解を通し、学習の動機づけにする。小児看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰを臨床での実習の前

に配置し、地域で生活する小児・老年を理解することを目的に2年次に設定した。実習全体は知識・技術を実際の場面で応用・発展させ、看護の理論と実践を結び付けて理解できるよう配置した。「看護の統合と実践」では複数の患者を受け持ち、チームの一員としての役割を学びながら一勤務帯を通した実習を行い、臨地での看護実践により近い形の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験的に学べるよう設定した。各看護学実習において、多職種連携・協働の場면을体験できる機会をつくることとした。

2) 専門分野の構成

	領域名	単位数	科目名
専門分野 領域 59 単位 (2020 時間) + 領域横断科目 7 単位 (210 時間)	基礎看護学	15 単位 (455 時間)	看護学概論 共通基本技術Ⅰ 共通基本技術Ⅱ 共通基本技術Ⅲ 生活援助技術Ⅰ 生活援助技術Ⅱ 診療補助技術Ⅰ 診療補助技術Ⅱ 診療補助技術Ⅲ フィジカルアセスメント リフレクション 看護の体験実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
	健康状態別看護	7 単位 (210 時間)	健康支援論 薬物療法と看護 周手術期と看護 終末期と看護 健康回復支援論 臨床判断 看護過程の展開
	地域・在宅看護論	9 単位 (290 時間)	地域と暮らし 地域・在宅看護概論Ⅰ 地域・在宅看護概論Ⅱ 地域・在宅看護方法論Ⅰ 地域・在宅看護方法論Ⅱ 地域と暮らし実習 地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域・在宅看護論実習Ⅱ
	成人看護学	4 単位 (120 時間) + 下記実習	成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ
	成人・老年看護学 共通実習	6 単位 (270 時間)	成人・老年看護学実習Ⅰ実習 成人・老年看護学実習Ⅱ実習 成人・老年看護学実習Ⅲ実習
	老年看護学	4 単位 (135 時間) + 上記実習	老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ 老年看護学方法論Ⅱ 老年看護学実習
	小児看護学	5 単位 (180 時間)	小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学実習Ⅰ 小児看護学実習Ⅱ
	母性看護学	5 単位 (180 時間)	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学実習

	精神看護学	5単位 (180時間)	精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学実習
	看護の統合と実践	6単位 (210時間)	臨床看護の実践 看護の統合と実践Ⅰ 看護の統合と実践Ⅱ 看護研究 看護の統合と実践実習

3.専門分野－3) 教授内容

(1) 基礎看護学

基礎看護学構築の考え方

基礎看護学では基礎分野・専門基礎分野をもとに、看護を学ぶ専門職業人として、科学的思考に基づいた看護実践が行えるための基礎となる事柄を学習する。また、看護を学ぶ初学者のため、看護の知識、技術、倫理的態度を身につけ、発展的に学び続けていくための動機づけの役割を担う。

看護の主要概念、看護の対象を理解し、あらゆる健康のレベルにある人々に心を傾けることができる看護の専門職業人としての倫理的態度を形成していける基本的知識を看護学概論で、対象に心からの関心をもち、相手の思いを感じとることができ、対象との人間関係構築しながら、あらゆる看護実践に共通する感染予防、安全・安楽を確保できるための技術を共通基本技術Ⅰ～Ⅲ、多様な場で生活する対象の、その人らしい生活を営むうえでの条件を整えることができるための技術を生活援助技術Ⅰ～Ⅱ、診察・検査・治療、症状・生体管理技術を診療補助技術Ⅰ～Ⅲで習得するよう構成した。また、臨床判断能力を強化するためのフィジカルアセスメント、自己理解・他者理解をし、看護実践の多様性を受け入れ、自らの経験を通して学びを深められ主体的学習に繋がられる方法としてリフレクションを科目とした。看護技術は演習を多く取り入れ、事例に基づき、対象の個性に応じた看護展開ができるように、学習、実践、振り返りにより自ら考え、主体的に学習する習慣を身につけられる方法とした。また看護の目的を果たすためのコミュニケーション能力、アセスメント能力、問題解決能力が養えるような内容とした。

目的

対象を生活者として理解し、その人の「生きる力」、「生きようとする力」を引き出し、その人らしい生活を支援していくための看護の知識、技術、倫理的態度を養う。

目標

- ① 看護の対象を理解し、人間関係構築のための基本的な方法を学び、実践していくことができる。
- ② 看護を展開していくための基本となるヘルスアセスメントの実際について学び、ケアに結び付けていく技術・倫理的態度を養う。
- ③ 看護を実践するための基本となる安全・安楽確保の技術を習得する。
- ④ 看護を実践するための基本的援助方法を学び、援助方法の選択と、実践したことを評価していく能力を養う。
- ⑤ 対象のその人らしい生活を支援するために連携・協働していく多職種を理解し、その中で看護師の果たす役割を考え、実践につなげる能力を養う。
- ⑥ 経験を通して自らの学びを深められるようリフレクションの方法を学び、主体的に学んでいく習慣を身に付けていくことができる。

基礎看護学の構成

	科目名	単位数 (時間数)	内容
基礎看護学 15単位 455時間	看護学概論	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護理論、看護倫理 ・看護の役割と機能 ・看護提供のしくみ ・看護をめぐる制度と政策
	共通基本技術Ⅰ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・感染防止の技術 ・安全確保の技術 ・苦痛緩和・安全確保の技術
	共通基本技術Ⅱ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調整技術 ・活動・休息援助技術
	共通基本技術Ⅲ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアセスメント 健康歴とセルフケア能力のアセスメント ・フィジカルアセスメントに必要な技術
	生活援助技術Ⅰ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事援助技術 ・排泄援助技術
	生活援助技術Ⅱ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔援助技術 ・病床での衣生活の援助技術
	診療補助技術Ⅰ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・与薬の技術 ・経静脈栄養 ・輸血管理
	診療補助技術Ⅱ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・症状・生体機能管理技術 ・医療機器 ・診察・検査・処置における技術
	診療補助技術Ⅲ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環を整える技術 ・創傷管理技術
	フィジカルアセスメント	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・系統別フィジカルアセスメント ケアにつなげるフィジカルアセスメント
	リフレクション	1単位 (15時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるリフレクション ・リフレクションの基本スキル
	看護の体験実習	1単位 (30時間)	臨地実習：4日間 看護活動の場を知る
	基礎看護学実習Ⅰ	1単位 (30時間)	病院実習：4日間 日常生活援助
	基礎看護学実習Ⅱ	2単位 (80時間)	臨地実習：8日間 看護過程の展開

授業科目	看護学概論	講師名	降籬 幹子	単位 1 単位	時期 1 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 1. 看護とは何かについて自分の言葉で述べることができる。 2. 看護の対象となる人間について述べるができる。 3. 看護の役割や機能について説明できる。 4. 看護専門職としての基本的な態度について説明できる。 5. 各看護理論の特徴について説明できる					

授業内容と方法

回数	授業内容	方法	担当
1	看護とは 1. 看護の役割と機能 2. 看護実践とその質保証に必要な要件	講義 グループワーク	降籬
2	看護の対象とその理解 1. 人間とは 2. 健康とは	講義	降籬
3	看護の活動の場 看護ケアの基本的役割	講義	降籬
4	看護における倫理と価値	講義	降籬
5	看護の提供者 1. 看護の変遷 2. 看護教育制度 3. 看護職キャリア開発	講義	降籬
6	看護の提供のしくみ 1. 看護管理システム 2. 医療安全 看護活動の展開 1. 災害看護 2. 国際看護	講義	降籬
7	看護実践の基盤となる理論① 1. 看護理論とは 2. F. ナイチンゲール「看護覚え書」	講義 グループワーク	降籬
8	看護実践の基盤となる理論② 2. F. ナイチンゲール「看護覚え書」	講義 グループワーク	降籬
9	看護実践の基盤となる理論③ 2. F. ナイチンゲール「看護覚え書」他	講義 グループワーク	降籬
10	看護実践の基盤となる理論④ 3. V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講義 グループワーク	降籬
11	看護実践の基盤となる理論⑤ 4. D. E. オレム「オレム看護論」	講義 グループワーク	降籬
12	看護実践の基盤となる理論⑥ 5. C. ロイ「ロイ看護論」	講義 グループワーク	降籬

	6. ロジャース 7. キング		
13	看護実践の基盤となる理論⑦ 8. ペプロウ「人間関係の看護論」 9. トラベルビー 10. ウィーデンバック 11. オーランド	講義 グループワーク	降簇
14	看護実践の基盤となる理論⑧ 12. ベナー「ベナー看護論」 13. ホール 14. ワトソン	講義 グループワーク	降簇
15	筆記試験 (90 分)		降簇

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 第17版, 医学書院, 2020. 2. フロレンス ナイチンゲール/薄井坦子他訳：看護覚え書-看護であること 看護でないこと- 第8版, 現代社, 2023. 3. ヴァージニア・ヘンダーソン 著/湯楨ます他訳：看護の基本となるもの最新装版第7版, 日本看護協会出版会, 2023 4. 樋口京子他著:改訂3版 やさしい看護理論—現場で活かせるベースの考え方, メディカ出版, 2024 5. 手島恵監修：看護者の基本的責務 2025年版 定義・概念/基本法/倫理, 日本看護協会出版会, 2025. <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金井一薫著：新版 ナイチンゲールの『看護覚え書』 イラスト・図解でよくわかる, 西東社, 2021.
評価の方法	筆記試験 60 点 課題 40 点
アドバイス ・その他	<p>課題：看護実践の基盤となる理論の講義 8 回分を毎回、指定シートに学んだ事を記載し、グループで振り返る。</p> <p>アドバイス：本科目を通して、今後、展開される看護学全体への興味を高め、自己の看護とは何かの「問い」を考える一歩とする。</p>

6	1. 感染防止技術の実際 (1)手指衛生 (2)PPE の着脱	演習	
7	1. 洗浄・消毒・滅菌 2. 無菌操作 3. 感染性廃棄物の取り扱い 4. 針刺し事故防止	講義	
8	1. 感染防止技術の実際 (1)無菌操作	演習	
9	(2)消毒		
10	1. 医療施設における感染管理 (1) 演習後の振り返り	講義 グループワーク	
11	1. 安全確保の技術（事例から考える） (1) 患者誤認防止	講義	
12	(2) チューブ類の自己抜去 (3) 転倒・転落防止 (4) 薬剤・放射線暴露の防止	講義 グループワーク	
13	1. 苦痛の緩和 (1) 体位保持（ポジショニング） (2) 電法 (3) 身体ケアを通じてもたらされる安楽 ・リラクゼーション法 ・熱布バックケア	講義	
14	1. 苦痛の緩和の実際 (1) 体位保持 (2) 電法	演習	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 19 版, 医学書院, 2023. 2. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第 3 版, 医学書院, 2021. <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉田みつ子他：写真でわかる基礎看護技術アドバンス, 初版, インターメディアカ, 2021.
評価の方法	<p>筆記試験 60 点、レポート・演習・GW・振り返り 40 点 レポート提出状況（未提出・提出期超過）により減点あり</p>
アドバイス	<p>・単元毎に具体的な事前課題を提示する。</p>

・その他

- ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。
- ・演習後はグループで振り返りをし、その後、個人で振り返りシートに記入し提出する。

授業科目	共通基本技術Ⅱ	講師名	小熊 陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病床の環境調整の援助技術を習得する。 2. 基本的活動の援助を行うための基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解する。 3. 基本的活動の援助技術（体位変換, 歩行, 移乗・移送）を習得する。 4. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠の援助方法を学ぶ。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 看護師が行う環境調整	講義	小熊
2	2. 病床の環境調整の援助の基礎知識	ディスカッション	
3	1. 人間にとっての睡眠と休息	講義	
4	2. 睡眠・休息の援助の基礎知識 3. 睡眠・休息援助の方法	ディスカッション	
5	1. 病床の環境調整の援助の実際	演習	
6	(1) 病床の環境整備		
7	(2) ベッドメイキング		
8	(3) 臥床患者のシーツ交換 2. 演習後の振り返り		
9	1. 看護師が行う活動援助とは	講義	
10	2. 日常生活活動が障害されるということ 3. 基本的活動の基礎知識 (1) 姿勢 (2) 身体不活動による影響とその予防 (3) ボディメカニクス (4) ポジショニング (5) 基本的活動援助の方法	ディスカッション	
11	1. 基本的活動援助の実際	演習	
12	(1) 体位変換		
13	(2) 歩行の援助		
14	(3) 移乗・移送の援助 車椅子, ストレッチャー, スライディングボード 2. 演習後の振り返り		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 第19版, 医学書院 2. 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 第19版, 医学書院 3. 宮脇美保子編：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 第3版 メヂカルフレンド社 4. 任 和子・井川 順子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 第3版, 医学書院 5. 金井一薫：ナイチンゲールの『看護覚書』イラスト・図解でよくわかる 東西社, 2021.
<p>評価の方法</p>	<p>筆記試験 80%、演習・振り返り用紙 20%</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通基本技術Ⅰのコミュニケーション, 安全確保の技術を復習しておく。 ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後に看護援助についてディスカッションし、その後、個人で振り返り用紙を記入し提出する。

授業科目	共通基本技術Ⅲ	講師名	井上 南子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 生命維持の基本となる生理的変化を把握するための基本的技術を習得する。 2. バイタルサインの正常値や変動因子がわかる。 3. バイタルサインを正確に測定することができる。 4. フィジカルアセスメントの意義がわかる 5. フィジカルアセスメントに必要な技術を習得する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. ヘルスアセスメント (1)ヘルスアセスメントが持つ意味 (2)ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性 (3)ヘルスアセスメントにおける視点	講義	井上
2	1. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント (1)問診の技術 (2)健康歴聴取の目的と実際 (3)セルフケア能力のアセスメントの目的	講義	
3	1. セルフケア能力のアセスメントの実際 (1)ヘンダーソンの理論の枠組みを利用 (2)情報の整理	演習	
4		グループワーク	
5	1. 情報の関連性の分析 演習後の振り返り	講義 グループワーク	
6	1. フィジカルアセスメントに必要な技術 (1)質・量を兼ね備えた情報 主観的情報と客観的情報の収集 (2)コミュニケーション技術を活用した視診、触診、聴診、打診の方法 (3)全身状態、全体印象の把握	講義 グループワーク	
7	1. バイタルサインの観察とアセスメント (1)体温、脈拍、呼吸、血圧の基礎知識 (2)意識に関する基礎知識 JCS、GCS	講義 演習	
8	1. バイタルサイン測定の実際（事例から考える） (1)体温、脈拍、呼吸、血圧測定 (2)意識の観察の方法	演習	
9			
10			
11			
12			

13			
14	1. バイタルサインの観察とアセスメント 演習後振り返り	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 19 版, 医学書院, 2023. 2. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 第 3 版, 医学書院, 2021. 3. 守田美奈子他：写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント, 初版 インターメディカ, 2020
評価の方法	<p>筆記試験 70 点、演習状況 10 点、振り返りシート 10 点、 グループワーク 10 点 ※レポート提出状況（未提出・提出期超過）により減点あり</p>
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後はグループで振り返りし、その後、個人で振り返りシートを記入し提出する。

授業科目	生活援助技術 I	講師名	鈴木 昌代 森本深青子 横山奈保子	単位	1 単位	時期 1 年次前期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解し、対象に合わせた方法での食事援助の具体的方法を習得する。 2. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解し、対象に合わせた方法での排泄援助の具体的方法を習得する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 人間にとっての栄養・排泄の意義 2. 栄養・排泄が障害されるということ 3. 栄養・排泄の障害が日常生活に及ぼす影響 栄養・排泄に障害があるある患者への看護	講義 ディスカッション	鈴木
2	1. 食事援助にともなうアセスメントの視点とアセスメントに必要な知識 2. 摂食・嚥下 摂食・嚥下の解剖と摂食嚥下の過程	講義	
3	1. 食事援助の基礎知識	演習	
4	2. 食事援助の実際(嚥下障害のある患者を除く) (事例から考える)		
5	1. 非経口的栄養摂取 (1) 援助の基礎知識 (2) 経鼻経管栄養 (3) 胃ろうからの栄養剤注入	講義	
6	1. 非経口的栄養摂取の実際(モデル人形で実施) (1) 経鼻経管栄養チューブの挿入 (2) 経鼻経管栄養における栄養剤注入	演習	
7	(3) 胃ろう管理の実際 (4) 胃ろうからの栄養剤注入 (液状・とろみ状・半固形流動食)		
8	1. 排泄援助にともなうアセスメントに必要な知識 (1) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム (2) 排尿・排便のアセスメント (3) 移動動作のアセスメント (4) 心理・社会状態のアセスメント	講義	森本 横山
9	1. 排尿・排便を促す援助 (1) 自然排尿・自然排便を促す援助の基礎知識 (2) トイレ、ポータブルトイレにおける排泄介助	講義	

10	(2) 床上排泄援助 (3) おむつによる排泄援助 (おむつ交換) (4) 排泄援助の方法と基礎知識 導尿、摘便、浣腸		
11	1. 自然排尿・自然排便を促す援助の実際 (事例から考える)	演習 ディスカッション	
12	(1) トイレ・ポータブルトイレでの排泄援助 (2) 床上での排泄援助 (3) おむつによる排泄援助		
13	1. 導尿での排泄援助の実際 (モデル人形) (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿 (3) 膀胱留置カテーテル挿入中の管理		
14	1. 浣腸・摘便での排泄援助の実際 (モデル人形) (1) 浣腸での排泄援助 (2) 摘便での排泄援助	演習 ディスカッション	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 任 和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版, 医学書院, 2024. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 第 3 版, 医学書院, 2021. 宮脇美保子他：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 第 3 版 メヂカルフレンド社, 2025. 關戸啓子他：ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ちと回復の促進④ 臨床栄養学 第 6 版, メディカ出版, 2025
評価の方法	<p>A+B+C=100 点</p> <p>A：25 点＝食事筆記試験 15 点＋演習、振り返りシート 10 点</p> <p>B：25 点＝食事筆記試験 15 点＋ 演習、振り返りシート 10 点</p> <p>C：50 点＝排泄筆記試験 30 点 + 演習、振り返り 20 点</p>
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・共通基本技術 I のコミュニケーション, 安全確保の技術を復習しておく. ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後は看護援助についてディスカッションし、その後、個人で振り返りシートを記入し提出する。

授業科目	生活援助技術Ⅱ	講師名	森本 深青子		単位	1 単位	時期
					時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、対象に合わせた清潔援助技術を習得する。 2. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、対象に合わせた衣生活を整える援助技術を習得する。							

授業内容と方法

回数	授業内容	方法	担当
1	1. 清潔援助の基礎知識 (1) 皮膚・粘膜の構造と機能 (2) 口腔内の構造と機能 (3) 清潔援助の効果 (4) 対象に合わせた援助方法の決定と留意点 2. 病床での衣生活についての基礎知識 (1) 熱生産と熱放散 (2) 被服気候 (3) 衣生活に関するニーズのアセスメント (4) 対象に合わせた衣服の選び方 (5) 寝衣交換の方法	講義	森本
2	1. 入浴・シャワー浴援助の基礎知識 2. 全身清拭援助の基礎知識 3. 陰部洗浄の援助の基礎知識	講義	
3	1. 手浴・足浴援助の基礎知識 2. 洗髪援助の基礎知識 3. 整容（洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、ひげそり）の基礎知識 4. 口腔ケア援助の基礎知識	講義	
4	1. 全身清拭、寝衣交換、陰部洗浄の実際	講義・演習	
5	1. 全身清拭、寝衣交換、陰部洗浄の実際 (事例から考える)	演習	
6			
7			全教員
8			
9	1. 洗髪の実際	演習	
10	1. 手浴の実際	演習	
11	1. 足浴の実際（事例から考える）	演習	全教員
12			

13	1. 口腔ケアの実際（事例から考える）	演習 グループワーク	
14	2. 整容の実際		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第19版, 医学書院, 2025. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 第3版 医学書院, 2021
評価の方法	<p>筆記試験 60 点、レポート・演習・GW・振り返り 40 点 ※レポート提出状況（未提出・提出期超過）により減点あり</p>
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後はグループで振り返りを行い、その後、個人で振り返り記入し提出する。

授業科目	診療補助技術 I	講師名	森本 深青子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 薬物の効果が安全に生体に作用するための与薬に関する基本的知識を習得する 2. 正確で安全な与薬を行うための援助方法が理解できる 3. 薬物療法における看護師の役割が理解できる						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物の基本的性質 3. 薬物療法における看護師の役割	講義	森本
2 3 4 5	1. 経口与薬・口腔内与薬・吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬	講義 演習	
6 7 8 9	1. 注射法の実際 1) 注射の基礎知識 2) 注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射） 【演習内容】 皮下注射・筋肉内注射の援助の実際,アンプルカット	講義 演習	
10 11 12 13	1. 静脈内注射の援助の実際 1) ワンショット援助の実際 2) 点滴静脈内注射 3) 中心静脈カテーテル留置の介助 4) 経静脈栄養 【演習内容】 静脈内注射の援助の実施,バイアルの薬品の吸い上げ	講義 演習	
14	1. 輸血管理 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版， 医学書院，2025. 2. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，第 3 版 医学書院，2021
-------	--

評価の方法	筆記試験 70 点、レポート・演習・振り返り 30 点 ※レポート提出状況（未提出・提出期超過）により減点あり
アドバイス ・その他	・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。

授業科目	診療補助技術Ⅱ	講師名	田中 享子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 検体検査について理解し、検査を受ける対象の援助技術を習得する。 2. 生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。 3. 医療機器を必要とする対象の援助技術を習得する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	4. 医療機器の種類とその進歩 5. 医療機器の安全管理 6. 医療機器を必要とする患者の日常生活の援助	講義	田中
2～4	1. 心電図検査 2. 心電図モニター 3. パルスオキシメーター 4. 血管留置カテーテルモニター	講義 演習	
5～8	1. 診察の介助 検査・処置の介助	講義・発表 グループワーク	
9 ～ 13	1. 血液検査 2. 尿検査 3. 便検査 4. 喀痰検査	講義 演習	
14	1. 輸液ポンプの使用方法和基本的操作 2. シリンジポンプの使用方法和基本的操作	講義 演習	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 2. 宮脇美保子他著：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論，メジカルフレンド社 3. 任 和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 4. 本庄恵子，吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術②アドバンス，インターメディカ
評価の方法	筆記試験 70 点 グループワーク・発表 20 点、レポート・演習等 10 点
アドバイス ・その他	

授業科目	診療補助技術Ⅲ	講師名	小熊 陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 呼吸障害、循環障害の特徴を理解することができる。 2. 呼吸・循環状態のアセスメントの方法と、呼吸・循環を整える援助の方法を習得する。 3. 体温調節機能について理解し、体温管理の援助技術を習得する。 4. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解し、対象に合わせた援助の方法を習得する。 5. 創傷管理の基本的知識・技術を理解し、対象に合わせた援助の方法を習得する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 呼吸・循環が生涯されるということ 2. 呼吸・循環障害が日常生活に及ぼす影響	講義	小熊
2	1. 気道管理の基礎知識	講義	
3	(1) 加温・加湿		
4	(2) 排痰ケア		
4	2. 酸素療法（酸素吸入療法）		
5	1. 気道管理援助の実際	演習	
6	(1) 体位ドレナージ		
	(2) 咳嗽介助, ハフティング, スクイーミング		
	(3) 吸入		
	(4) 吸引（口腔・鼻腔・気管）		
	2. 酸素療法（酸素吸入療法）の実際		
	(1) 中央配管方式による方法		
	(2) 酸素ボンベによる方法		
7	1. 体温管理援助の基礎知識	講義 演習	
8	(1) 発熱時の援助		
	(2) うつ熱時の援助		
	(3) 低体温時の援助		
	2. 循環促進援助の基礎知識		
9	1. 創傷管理の基礎知識	講義	
10	(1) 創傷治癒過程とそのメカニズム		
11	(2) 創傷治癒の種類		
	(3) 創傷治癒のための環境づくり		
	2. 創傷処置援助の基礎知識		
	3. 褥瘡予防援助の基礎知識		
	(1) 褥瘡の発生要因		
	(2) 褥瘡の好発部位		
	(3) 褥瘡のリスクアセスメント		
	(4) 体圧分散ケアの方法		
	(4) 医療関連機器褥瘡		
	(5) スキンケア（皮膚裂傷）		

12	1. 創傷処置援助の実際 (1)創洗浄と創保護	演習	
13			
14			
	3. 褥瘡予防援助の実際 (1)体圧分散ケア 体位変換, スモールチェンジ法 ポジショニング, ずれの力の排除		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 任 和子他：系統看護学講座, 専門分野, 基礎看護学〔3〕, 基礎看護技術Ⅱ 第19版, 医学書院. 任 和子・井川順子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院, 第3版, 医学書院. 宮脇美保子編：新体系看護学全書, 基礎看護学④, 臨床看護総論, 第3版 メヂカルフレンド社. 本庄恵子他：写真でわかる臨床看護技術②アドバンス, 初版, インターメディアカ.
評価の方法	筆記試験 70%、演習状況 15%、振り返りシート 15%
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 習得する看護技術については、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。 また該当する技術の動画を十分視聴する。

授業科目	フィジカル アセスメント	講師名	小熊 陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師			
科目目標 1. フィジカルアセスメントの基本技術が習得できる。 2. 正確な結果を得るための環境調整と対象者への配慮をしながら実施することができる。 3. フィジカルアセスメントで得られた情報を、看護援助に結びつけていく思考を養う。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当	
1	1. フィジカルアセスメントとは	講義	小熊	
2	1. フィジカルアセスメントに必要な技術	講義 演習		
3	1) 面接に関する技術 2) 全身状態・全体印象の把握 「気づき」のセンサーの感度をあげる 3) 身体診察 視診, 打診, 触診, 聴診			
4	1. ケアにつなげるフィジカルアセスメント			講義 演習 個人学習課題
5	2. 系統別フィジカルアセスメントの実際			
6	1) 頭頸部	6) 乳房と腋窩 7) 直腸・肛門・生殖器 8) 脳・神経系 9) 筋骨格系 10) 外皮系		
7	2) 呼吸器系			
	3) 循環器系			
	4) 腹部			
	5) 頭頸部と感覚器			
8	1. 生活者の視点で考えるフィジカルアセスメント	グループワー ク		
9	1) 生命を維持する			
10	・血液の循環			
11	・呼吸をする			
12	・食べる			
13	・排泄する			
	2) 活動する	講義		
	・感覚器官の働き ・身体を動かす			
14	1. 生命の危機 2. フィジカルアセスメントのまとめ			
15	筆記試験			

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野 香おる他：系統看護学講座, 専門分野, 基礎看護学〔2〕, 基礎看護技術 I, 第 19 版, 医学書院. 2. 任 和子・井川 順子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 第 3 版, 医学書院. 3. 守田美奈子監修：新訂第 2 版 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス, インターメディカ. 4. 医療情報科学研究所 編：看護がみえる vol. 3, フィジカルアセスメント, 第 1 版, メディックメディア.
<p>評価の方法</p>	<p>評価 筆記試験：60%, 演習等：20%, グループワーク：20%</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<p>フィジカルアセスメントは情報収集の手段の一つです。フィジカルイグザミネーションの手法を学ぶとともに、そこから得たデータをもとに対象者の状態をアセスメントしていきます。看護を行うために必要な知識と技術の基本となるのでしっかり学習して行きましょう。</p>

授業科目	リフレクション	講師名	降旗 幹子	単位	1 単位	時期
				時間	15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師・保健師			
科目目標 1. 看護実践からリフレクションをする意味を理解する。 2. 看護教育の基礎理論や経験学習の基礎を理解する。 3. 看護におけるリフレクションの方法を理解する。 4. 看護実践の場においてリフレクションすることを身につけることができる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	看護実践から学ぶ意味と教育理論 リフレクションとは	講義 演習	降旗
2	リフレクションの方法	講義	
3	リフレクションの実際【課題1】実習の場面 再構成によるリフレクション①	演習 個人ワーク	
4	リフレクションの実際【課題1】実習の場面 再構成によるリフレクション②	演習 個人ワーク	
5	リフレクションの実際【課題2】演習の場面 イメージマップ使ったリフレクション①	講義 グループワーク	
6	リフレクションの実際【課題2】演習の場面 イメージマップ使ったリフレクション②	演習 グループワーク	
7	リフレクションの実際【課題3】模擬臨床の場面 集団によるリフレクション①	演習 ロールプレイ	
8	リフレクションの実際【課題3】模擬臨床の場面 集団によるリフレクション②	演習 ロールプレイ	

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第18版, 医学書院, 2025. 参考書 1. 中井俊樹他：看護現場で使える教育学の理論と技法 第2版, メディカ出版, 2023. 2. 目黒悟：臨床看護師のための授業リフレクション-輝く明日の看護・指導をめざして-, メヂカルフレンド社, 2019 3. 鈴木敏恵: アクティブラーニングをこえた看護教育を現実化する, 医学書院, 2016.
評価の方法	課題による評価 【課題1】40点 【課題2】40点 【課題3】20点
アドバイス・その他	看護実践におけるリフレクションの重要性を理解し身につけましょう。

3.専門分野－3) 教授内容

(2) 健康状態別看護

健康状態別看護 構築の考え方

健康状態別看護では、領域横断科目として「健康状態別看護」7科目を置いた。

対象者の健康状態に対して、各発達段階・各科目で学修した知識を関連させながら問題解決法を修得し、本質的な看護実践力をつけることをねらいとしている。

各発達段階における発達課題と健康問題およびその支援を「健康支援論」、健康回復過程各期の支援を「健康回復支援論」、「薬物療法と看護」、「周手術期と看護」、「終末期の看護」、「臨床判断」、「看護過程」とした。科目の内容は各領域の対象を取り上げている。

テキストは各領域に渡る複数文献を網羅的に活用できるよう、電子書籍を有効活用しながら、必要な知識を導き出していく。情報科学で学修した ICT 能力を駆使していく機会にもなる。

健康状態別看護の構成と科目のねらい

科目名	単位数 (時間数)	ねらい
健康支援論	1単位 (30時間)	各発達段階の発達課題と健康問題、その人らしく生きることの支援を理解し、具体的な援助がわかる。
薬物療法と看護	1単位 (30時間)	健康状態が逸脱した多くの場合に行われる薬物療法が効果的なものとなるよう、各発達段階、各健康回復過程の薬物療法を受ける対象への支援を学ぶ。
周手術期と看護	1単位 (30時間)	各発達段階の対象の周手術期における身体侵襲と回復過程を理解し、各発達段階の対象に合わせた周手術期に必要な看護について理解する。
終末期と看護	1単位 (30時間)	「各発達段階の終末期の対象の身体的・精神的特徴を知り、死にゆく人やその周囲の人が望む死を迎えるための方法を考える。 緩和ケア・死の受容プロセスを知り、終末期の看護の役割について理解する。 グリーフケアについて学習する。 自己の死生観を深める。
健康回復支援論	1単位 (30時間)	各発達段階の患者の急性期、回復期、慢性期における患者及び家族の理解と看護、各健康回復過程のリハビリテーションと看護、退院支援における看護の役割を理解する。
臨床判断	1単位 (30時間)	各発達段階の患者に対する「いつもと違う」場面の気づきからの看護師の臨床判断プロセスを理解する。 臨床判断モデルを用い「苦しい」という場面の「気づき」・「解釈」、「反応」「省察」についてディブリーフィングガイドによる思考の振り返りにより、看護師のように考えることを学ぶ。
看護過程の展開	1単位 (30時間)	各発達段階の対象理解の方法、看護の思考過程（観察・アセスメント・看護問題の明確化、看護計画立案・実施・評価）について学習する。看護過程とクリティカルシンキングについて理解する。 各発達段階の対象事例の看護過程の展開を考える。

授業科目	健康支援論	講師名	福岡 真利奈	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. ライフステージ各期の発達課題と健康問題が理解できる 2. ライフステージ各期の健康を支援する必要性が理解できる						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 発達段階における課題 (1) 成熟と学習 (2) 生涯発達 (3) 発達と成熟、老年的超越 (4) 家族の発達課題	講義 グループワーク	福岡
2	1. 社会の変化 (1) 少子高齢化 (2) 家族形態の多様化 (3) 女性の就業率上昇 (4) 家族意識・役割の変化 2. メンタルヘルス 3. ヘルスプロモーション 4. 老年期の健康	講義 グループワーク	
3 4 5	1. 生活習慣獲得と健康問題 各ライフステージにおいて、どのような生活や環境が健康問題に繋がっていくのかグループで考える (1) 肥満、高血圧 (2) 歯周病、近視 (3) 自殺、ひきこもり	講義 発表	
6	1. 大人の健康行動のとらえ方 (1) 大人の学習 (2) 学習に基づく行動形成 2. 行動変容を促進するアプローチ (1) トランスセオレティカモデル (2) 自己効力感 (3) 強みを活かすためのアプローチ (4) ストレングスモデル (5) ヘルスビリーフモデル	講義 グループワーク	
7	1. 健康支援の方法 (1) 主体的な健康づくり (2) 健康づくりに関わる因子	講義 グループワーク	

	(3)主体的な健康づくりに関わる支援 (4)主体的な健康づくりのための支援 2. 集団指導と個別指導		
8	1. 働く人の健康管理 (1)ワークライフバランス (2)産業保健 2. 子どもを産み育てる人の健康管理 (1)リプロダクティブヘルス/ライツ (2)健康診査 (3)保健指導、訪問指導 (4)育児支援 (5)養育支援	講義 グループワーク	
9	1. こどもの健康管理 (1)学校保健(健康診断、健康相談、感染予防) (2)予防接種 (3)食育 2. 子どもが自分を護れる大人になるための支援 (1)生活習慣の改善 (2)教育(安全、性)と予防教育(生活習慣病、疾病、事故)	講義 グループワーク	
10	1. 老いを生きる (1)スピリチュアリティ (2)エンドオブライフケア (3)死生観 2. 老いをその人らしく生きるための支援 (1)生活と健康を支える職種 (2)ソーシャルサポート	講義 グループワーク	
11 12 13 14	1. 主体的に健康を保持していくための具体的な支援 を考える。 (1)肥満、高血圧にならないための支援 (2)歯周病、近視にならないための支援 (3)自殺、ひきこもりにならないための支援 ※健康な状態を保持増進していくために、各ライフ ステージでどのように支援していくと良いかの提 案書を作成する	講義 発表	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 基礎看護学概論 第17版, 医学書院, 2020.</p> <p>2. 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論</p>
-------	--

	<p>第 16 版, 医学書院, 2022.</p> <p>3. 北川公子他: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第 10 版, 医学書院, 2025.</p> <p>4. 奈良間美保他: 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 15 版, 医学書院, 2025</p> <p>5. 森恵美他: 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 第 14 版, 医学書院, 2021.</p> <p>6. 武井麻子他: 系統看護学講座 専門分野 II 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第 6 版, 医学書院, 2021.</p> <p>7. 上別府圭子他: 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基礎 第 6 版, 医学書院, 2022.</p> <p>8. 一般社団法人厚生労働省 国民衛生の動向 2025/2026</p>
評価の方法	筆記試験 80 点 ルーブリック評価(授業・グループワークの参加状況、課題等の内容)20 点 ※課題提出状況(未提出・提出期限超過)により減点あり
アドバイス ・その他	<p>健康支援論で学んだ内容は、各専門領域で詳しく学習する。知識の活用できるよう</p> <p>参考資料・課題関連資料はメールで共有する。授業参加の際は、必ず iPad を充電し持参すること。</p> <p>※テキストは各領域を含むので、電子書籍を中心に活用する。</p>

授業科目	薬物療法と看護	講師名	井上 南子	単位	1 単位	時期	2 年次通年
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師				
科目目標 1. 発達段階の特徴から薬物療法が対象へ及ぼす影響を理解できる。 2. 健康状態（経過）に応じた薬物療法の特徴を理解できる。 3. 薬物療法を受ける対象への支援のあり方を考えられる。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物が対象へ及ぼす影響 （薬物動態・作用・副作用・相互作用等） 3. 薬物療法における看護師の役割 4. コンプライアンス、アドヒアランス	講義	井上
2	【切迫流早産を例に】	講義	
3	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過 に応じた薬物療法の実際とその支援）		
4	【小児の喘息発作を例に】	講義	
5	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過 に応じた薬物療法の実際とその支援）		
6	【成人の心筋梗塞を例に】	講義	
7	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過 に応じた薬物療法の実際とその支援）		
8	【老年の肺炎を例に】	講義	
9	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過 に応じた薬物療法の実際とその支援）		
10	【統合失調症を例に】	講義	
11	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過 に応じた薬物療法の実際とその支援）		

12	1. 退院および在宅療養に向けた薬物療法および在宅療養中における薬物療法の支援を紙上事例からグループで学習し共有する。 (事例：・高齢患者の心不全 ・成人患者の悪性腫疾患等)	グループワーク	
13			
14			
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉岡充弘他：系統看護学講座、専門基礎分野、薬理学、疾病のなりたちと回復の促進〔3〕、医学書院. 2. 任和子他：系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護学〔3〕、医学書院. 3. 森恵美他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、母性看護学各論、母性看護学2、医学書院. 4. 奈良間美保他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、小児看護各論、小児看護学②、医学書院. 5. 吉田俊子他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、循環器、成人看護学③、医学書院. 6. 鳥羽研二他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、老年看護 病態・疾患論、医学書院. 7. 武井麻子他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護の基礎、精神看護学①、医学書院.
評価の方法	筆記試験 80 点 グループワーク 20 点
アドバイス ・その他	

授業科目	周手術期と看護	講師名	境 敏一	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 周手術期における身体侵襲と回復過程を理解する。 2. 対象に合わせた周手術期看護について理解する。 3. 周手術期の患者の特徴を理解し、術前・術後の経過マップを作成する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 手術侵襲と生体反応（第1章） 創傷治癒過程と管理、促進技術	講義	境
2	2. 麻酔法と呼吸、体液、栄養管理（第3章）	講義	
3	3. 周手術期看護の概要と看護師の役割（第6章） 安全管理、感染予防	講義	
4	4. 手術前患者の看護（第7章） 術前オリエンテーション 胸・腹式呼吸／咳嗽・喀痰喀出／呼吸訓練／離床指導	講義	
5	5. 手術中患者の看護（第8章） 手術室における看護の展開と環境管理	講義	
6	6. 手術後患者の看護（第9章） 術後合併症の発生機序 手術後の回復を促進するための看護 術直後の観察／ドレーンの挿入と観察 創管理／術後離床の実際 【演習：DIV／ドレーン挿入中患者の寝衣交換】 【演習：ドレーン挿入部の処置】 【演習：呼吸訓練・術後の咳嗽・喀痰喀出、離床】	講義 演習 レポート	
7			
8	7. 集中治療を受ける患者の看護（第10章） 人工呼吸器の操作・管理	講義	
9	8. 手術を受ける高齢者の看護（第11章） 術後せん妄スクリーニング、廃用症候群	講義	
10	9. 手術を受ける小児とその家族の看護（第12章および臨 床外科看護各論第6章 II 小児の外科患者の看護） 1) 小児のアセスメント 2) 年齢に合わせたインフォームド・アセント／プレパ レーション 10. 帝王切開を受ける産婦の看護	講義	
11	11. 対象に合わせた術前・術後マップ作成	グループワ	

12		ーク	
13			
14	術前・術後マップ発表	プレゼンテーション	
15	筆記試験 (90 分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>使用テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 矢永勝彦・芦塚修一他著：系統看護学講座 別冊 臨床外科看護総論 医学書院 2017. 2. 北島政樹・江川幸二他編著：系統看護学講座 別冊 臨床外科看護学各論 医学書院 2017. 3. 北川公子・荒木亜紀他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2018. 4. 奈良間美保・丸光恵他著：系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2020. 5. 森重美著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 2021. 6. 武井麻子著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 2021.
評価の方法	<p>筆記試験 60 点 術前・術後マップ評価表、レポート、学習参加を総合して評価 40 点</p>
アドバイス ・その他	<p>学習したことを活用し、グループで協同しながら探究的・主体的に取り組むことを期待する。</p>

授業科目	終末期と看護	講師名	降旗 幹子	単位 1 単位	時期 2 年次後期
			山崎 敦子	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 1. 緩和ケアの現状と特徴を知り、全人的なケアについて理解する。 2. 死にゆく人やその周囲の人が望む全人的なケアの方法を理解する。 3. 終末期の家族の支援やグリーフケアについて理解する。 4. 死の受容過程を理解し、支援のあり方を考えることができる 5. 緩和ケアを行う看護師のセルフケアを理解する。 6. 死生観を深めることができる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	死を直視する 人生の終末期と ACP	講義 グループワーク	降旗
2	緩和ケアの現状 緩和ケアにおけるチームアプローチ	講義	山崎
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション 緩和ケアにおける倫理的課題	講義	山崎
4	全人的ケアの実践① 1. 身体的ケア 2. トータルペイン 3. 薬物療法と看護	講義	山崎
5	全人的ケアの実践② 1. 心理的ケア 2. 社会的ケア 3. スピリチュアルケア 4. 家族・遺族ケア	講義	山崎
6	緩和ケアの広がり 1. ライフサイクルにおける広がり 2. さまざまな疾患における広がり 3. 療養の場における広がり	講義 事例検討	降旗
7	臨死期のケア 1. 臨死木における全人的苦痛の緩和 2. 死亡前後のケア	講義	降旗
8	家族のケア 1. 家族への支援 2. グリーフと遺族ケア	講義	降旗
9	医療スタッフのケア 1. ストレスマネジメント	講義 体験	降旗

	2. マインドフルネス		
10	アクティブ・ブック・ダイアログ（輪読会）① E・キューブラー・ロス「死ぬ瞬間」	講義 グループワーク	降籬
11	アクティブ・ブック・ダイアログ（輪読会）② E・キューブラー・ロス「死ぬ瞬間」	グループワーク	降籬
12	アクティブ・ブック・ダイアログ（輪読会）③ E・キューブラー・ロス「死ぬ瞬間」	グループワーク	降籬
13	死生観① 文献を引用し、死生観を論じる【課題】	文献検索	
14	死生観② 文献を引用し、死生観を論じる【課題】	個人ワーク	降籬
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 恒藤悟他：系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第3版, 医学書院, 2022.</p> <p>参考書：</p> <p>1. エリザベス・キューブラー・ロス著, 鈴木晶訳：死ぬ瞬間 死とその過程について, 中央公論新社, 2020.</p> <p>2. 島園進：E・キューブラー・ロス 死ぬ瞬間「その時」のために, NHK テキスト 100 分名著, NHK 出版, 2025 年 10 月</p>
評価の方法	<p>A+B=100 点</p> <p>A：70 点=降籬（筆記試験 40 点、課題 30 点）</p> <p>B：30 点=山崎（筆記試験）</p>
アドバイス・その他	<p>緩和ケアでの看護師の役割を熟考し、更に、自分の死生観を深めましょう。</p>

授業科目	健康回復支援論	講師名	鈴木 弘子	単位	1 単位	時期	2 年次 前期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師				
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> 健康回復に向けて各期にある対象の特徴を理解し、健康状態に応じた看護の考え方が分かる。 急性期にある対象の症状及び看護の基本について理解できる。 回復期にある対象の症状及び看護の基本について理解できる。 慢性期にある対象の症状及び看護の基本について理解できる。 リハビリテーションの必要な対象の症状及び看護の基本について理解できる。 看護師の退院支援方法について理解できる。 							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 健康障害のレベルとしての「経過」とは 2. 各発達段階や症状と健康回復各期の対象の理解	講義	鈴木
2	1. 健康の急激な破綻から回復を促す看護 (1)健康の急激な破綻の急性期の状態にある患者と家族の特徴 (2)急性期にある患者の看護 (3)救急医療を必要とする人々	講義 事例課題学習	
3	2. 各発達段階や症状の急性期にある患者・家族の特徴と看護 1) 成人期 2) 老年期 3) 小児期 4) 精神症状のある患者		
4	1. 回復期にある患者と家族の看護 1) 身体機能回復の促進と機能拡大の援助 2) 病を抱えて生きること、再発や悪化のおそれ	講義 事例課題学習	
5	2. 各発達段階や症状の回復期にある患者・家族の特徴と看護 1) 成人期 2) 老年期 3) 小児期 4) 精神症状のある患者		
6	1. 慢性期にある患者と家族の看護 1) 慢性期をたどる疾患および治療の特徴 2) 慢性期を経験している患者・家族の特徴 3) 疾病の受容過程	講義 事例課題学習	
7	2. 各発達段階や症状の慢性期にある患者・家族の特徴と看護 1) 成人期 2) 老年期 3) 小児期 4) 精神症状のある患者		
8			
9	1. リハビリテーションとは 2. リハビリテーションに用いられる主要な概念	講義 事例課題学習	
10	3. 障害がある人の生活を支援するリハビリテーションの看護 4. 各発達段階や症状の慢性期にある患者・家族の特徴と看護 1) 成人期 2) 老年期 3) 小児期 4) 精神症状のある患者		
11			
12	1. 退院支援の必要性和退院支援看護師の役割	講義 事例課題学習	
13	2. 多職種連携カンファレンス		
14	3. 退院計画と看護		
	4. 退院支援の実際		

	1) 成人期 2) 老年期 3) 小児期 4) 精神症状のある患者		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①，医学書院，2022. 2. 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学概論 成人看護学①，医学書院，2022. 3. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院，2022. 4. 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学総論 小児看護学①，医学書院，2001. 5. 宇都宮宏子他：退院支援ガイドブック，学研，2021. <p>電子書籍を活用する。</p> <p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎和子他：改訂版 観察のキーポイント 精神科Ⅱ，中央法規，2021. 2. 落合慈之他：リハビリテーション ビジュアルブック 第3版，学研，2021.
評価の方法	筆記試験 80 点 課題レポート 20 点
アドバイス ・その他	基礎看護学概論、地域と暮らし、小児看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論で学んだ学習を想起させて、個人課題を電子図書を活用して行う。

授業科目	臨床判断	講師名	小熊 陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 臨床判断モデルの構成要素である「気づき」「解釈」「反応」「省察」に基づいて、「看護師のように考える」ことを目指す。 2. 観察をして気づき、知識を活用してそれを解釈し、とるべき看護行動を決め、行動した一連のプロセスを省察する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1 2 3	1、臨床判断とは 2、臨床判断のプロセス 3、気づきから解釈をして反応する 気づきから看護師として何をするのか考える 1) 主要症状に気づく 2) 様々な状況における臨床判断 成老年のケース 小児のケース、母性のケース 精神のケース 3) 地域、在宅における臨床判断	講義 個人ワーク グループワーク	小熊
4 5 6 7 8 9	臨床判断に基づくシミュレーション学習 事例1について課題の取り組み、グループ討議 学習進度に合わせてまとめ（講義）を行いながら進めます。	個人ワーク グループ討議、講義	
10 11 12 13 14 15	臨床判断に基づくシミュレーション学習 事例2について課題の取り組み、グループ演習 学習進度に合わせてまとめ（講義）を行いながら進めます。	個人ワーク グループ討議、講義	

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 事例にあわせて、テキストや授業資料を自分で選択して使っていくこと。
評価の方法	100 点満点 ルーブリック評価表を参照。 1 事例を 50 点満点とし、2 事例の合計点数で評価します。

アドバイス ・その他	<ol style="list-style-type: none">1. 基礎看護学の「共通基本技術Ⅲ」・「フィジカルアセスメント」の積み上げ学習となります。2. グループ討議では、自由に意見を出してください。何を言ってもよい、間違えからの新たな気づきがあった、と思えるような、達成感のある学修活動にしていきましょう。
---------------	--

授業科目	看護過程の展開	講師名	森本深青子 井上南子 複数教員	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 各発達段階の対象の看護を実践するための基盤となる思考過程を理解する。 2. 看護の対象を全体的な存在として捉え、科学的な知識に基づいた看護実践方法を理解する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 看護過程とは 看護の基盤となる考え方 看護過程の各段階	講義	森本
2	章末資料参照 (1) アセスメント (情報の収集と解釈・判断) (2) 全体像の把握 (関連図) (3) 看護問題の明確化 (4) 看護計画の立案 (5) 看護計画の実施・評価	講義 個人ワーク	森本
3	1. 看護記録 (1) 看護記録とは (2) 記載・管理における留意点 (3) 看護記録の構成 基礎情報、看護計画、経過記録 (SOAP) 看護サマリー	講義 個人ワーク	森本
4	事例提示	(1)～(4)までを個人 ワーク グループ内発表 ディスカッション	複数 教員
5	(1) 事例提示		
6	情報収集と調べ学習		
7	※学習ファイルを作成 (活用) しながら進めて行く		
8	(2) アセスメント (3) 全体像の把握 (関連図) (4) 看護問題を明確にし、優先順位を決定 (5) 看護問題発表		
9	1. 看護目標の設定と看護計画立案	個人ワーク	
10	1. 看護計画の発表と実践	グループ内発表 グループごとに一場 面を選んで実践準備 実践発表、その後グ ループワーク	
11	2. 看護実践の記録・評価 (SOAP)		
12	3. サマリー作成		

13	精神看護学と小児看護学の看護過程 捉え方の特徴について	講義	森本
14	母性看護学の看護過程 捉え方の特徴について	講義	井上 森本
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 19 版, 医学書院, 2023. 2. 石川ふみよ他：看護過程の解体新書 学研メディカル秀潤社, 2015. 3. 山口瑞穂子他：経過がみえる疾患別病態関連マップ 第 2 版, 学研メディカル秀潤社, 2016. 4. 山口瑞穂子他：疾患別看護過程の展開 学研メディカル秀潤社 第 6 版 2020. <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 金井一薫：ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる 西東社, 2014. 3. ヴァージニア・ヘンダーソン著, 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016.
評価の方法	<p>筆記試験 51 点</p> <p>ループリック評価表を用いての評価 49 点</p>
アドバイス ・その他	<p>・個人ワークで事例についてアセスメントを行い、その後、グループワークを中心に学習を進める。主体的に学習が進められるようグループで学習計画を立てる。</p>

3.専門分野－3) 教授内容

(3) 地域・在宅看護論

地域・在宅看護論の構築の考え方

地域・在宅看護は、あらゆる健康レベル、あらゆるライフステージにある人々とその家族等、地域に暮らす全ての人を対象としている。少子化・超高齢社会、医療の高度化・専門化、在院日数の短縮化などにより、在宅医療・看護に対する社会のニーズは高まり、看護師の活動は地域の人々が暮らすあらゆる場に拡大している。

地域・在宅看護論は、療養者の地域生活や暮らしに応じた看護の提供の理解が行え、地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしが継続できるよう支援する能力を養うことを目的としている。そのため、段階的に分けて学習を行う必要があるために、地域と暮らし、地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱに分けて構成した。地域と暮らしでは、地域で暮らす人々や暮らしぶりは多様であること、地域の生活環境や暮らしぶりが健康に影響することを学ぶ。暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響について理解する。地域・在宅看護概論Ⅰでは、地域・在宅看護の理念と目的、変遷及び現状、地域の保健・医療・福祉活動について学ぶ。実際については、看護師の主たる活動である訪問看護について理解する。地域・在宅看護概論Ⅱでは、対象者とその家族の特徴や家族の意義や介護上の役割について、地域・在宅看護の視点をふまえて理解する。さらに、生命の尊厳や人間尊重を基本に、対象者の人権の保障と在宅看護における倫理的問題について理解する。地域・在宅看護方法論Ⅰでは、生活の場で看護を展開するために必要な看護技術を学ぶ。地域・在宅看護に必要な技術は、療養環境の整備から生活行動の直接的援助に伴う支援技術、医療処置に伴う支援技術、家族への介護指導とその範囲は広い。対象者の生活背景や暮らしに応じて様々であり、その場でアセスメントをして必要な技術を提供することが求められるため、生活環境や暮らしを考慮し、基礎看護技術を応用した看護技術について演習を通して理解する。地域・在宅看護方法論Ⅱでは、対象者の背景や疾患・障害の経過に応じた看護の実際を学ぶ。看護の提供方法の学習は、事例を通して、療養環境ならびに家族背景などの対象の暮らしを考慮し、疾患の経過や主要症状を捉えた上で、その人がその人らしく地域で療養できるよう状況に応じた看護の検討と援助方法について理解する。

在宅医療に対するニーズが増大している今日、在宅看護活動の重要な役割を担う看護職の役割と責任は拡大し、これまで以上に的確な判断力と技術力に加え、対人関係能力、倫理的判断能力、また多職種との調整力が求められている。地域・在宅看護論では地域で暮らす人々、そして地域で療養する人々に対応できる臨床看護能力や社会福祉に関する知識や保健・医療・福祉の調整について学ぶものとする。

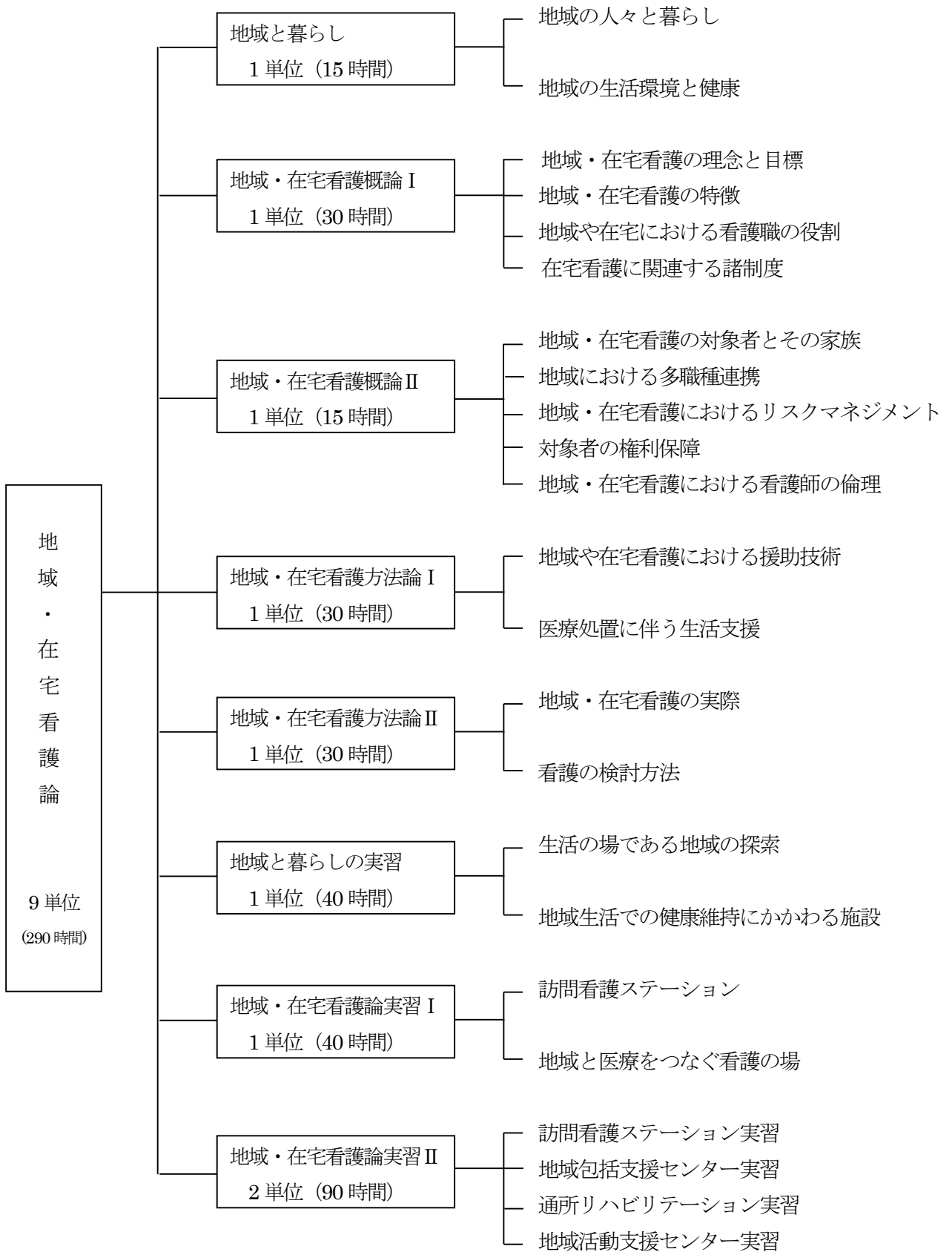
目的

地域で生活するすべての人々を対象とし、対象がセルフケア能力を高めるための支援、およびその人がその人らしく住み慣れた地域で療養生活を継続できるニーズに基づく支援方法を学ぶとともに、社会資源の活用とそのための調整の必要性や、地域における保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。

目標

1. 地域・在宅看護の変遷と現状を踏まえ、看護の役割を理解する。
2. 地域・在宅看護における対象者を理解できる。
3. 地域で療養する人の望む生活を支えるための社会資源の活用方法が理解できる。
4. 在宅看護における保健・医療・福祉の連携や調整について理解できる。
5. 基本的な看護技術を応用し、暮らしの場で行われる援助技術の工夫について理解できる。
6. 地域で生活する人々に対して提供される看護の提供方法について理解できる。

地域・在宅看護論の構成



授業科目	地域と暮らし	講師名	降旗 幹子	単位 1 単位	時期 1 年次前期
				時間 15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 1. 人々の暮らしの多様性を理解する。 2. 暮らしの基盤としての地域の理解をする。 3. 地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。 4. 暮らしと健康を支えるための支援と看護を理解する。 5. 地域の暮らしをみる視点を理解し、地域の探索ができる。					

授業内容と方法

回	授 業 内 容	方 法	担当
1	地域・在宅看護を学ぶ背景・ガイダンス 暮らしということ 1. 暮らしと生活 2. 暮らしと看護の役割	講義 デスカッション 「自分の暮らしとは」	降旗
2	暮らしと健康 1. 健康とは 2. 暮らしの中の健康の課題	講義	降旗
3	暮らしの基盤としての地域 1. 地域とは 2. 地域の理解 3. 地域包括ケアシステム 4. 自助・互助・共助・公助	講義 デスカッション 「自分の地域はどんな ところでしょうか」	降旗
4	暮らしを支えるための看護 1. 地域の看護の対象 2. 暮らしと健康を支えるしくみ 人々が暮らす地域を理解する① 1. 地域の暮らしを理解する視点 2. 地域の探索の説明	講義 フィールドワーク準備	降旗
5	人々が暮らす地域を理解する② 地域の探索「学校周辺を歩いてみよう」	フィールドワーク	降旗
6	人々が暮らす地域を理解する③ 地域の探索「学校周辺を歩いてみよう」	フィールドワーク ポスター作成	降旗
7	人々が暮らす地域を理解する④ 地域の探索「学校周辺を歩いてみよう」	プレゼンテーション (ポスターツアー)	降旗
8	筆記試験		降旗

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 河原加代子他：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護
-------	--

	<p>の基盤 第6版, 医学書院, 2022.</p> <p>2. 河原加代子他: 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版, 医学書院, 2022.</p> <p>参考書:</p> <p>1. 渡辺裕子監修: 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第5版, 日本看護協会出版社, 2021.</p> <p>2. 池西静江編著: 基礎からわかる地域・在宅看護論, 照林社, 2021.</p>
評価の方法	筆記試験 60点 フィールドワーク 40点
アドバイス ・その他	<p>アドバイス:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域と暮らしの実習」では、本講義で学習した内容を確認・実践し、看護の対象を生活者としてとらえる視点を更に確実とする。 ・学校周辺のフィールドワークをする。地域探索することで、地域で人々が健康に暮らすことができる要因を把握し、その結果をまとめ、ポスターツアーによるプレゼンテーションをする。

授業科目	地域・在宅 看護概論 I	講師名	降籬 幹子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
			上杉 敬一	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護を取り巻く社会背景を基に、在宅看護の理念と目的が理解できる。 2. 地域・在宅看護の実際を踏まえて、地域・在宅看護の位置づけ・特徴が理解できる。 3. 地域・在宅看護での療養者、家族の支援のあり方を理解し、地域・在宅看護を実践する看護職の役割が理解できる。 4. 地域や在宅で療養する人々を支える社会資源の種類や関連する保健・医療・福祉制度及び訪問看護制度について理解できる。 					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	地域・在宅看護の目的と特性 地域・在宅看護を学ぶにあたって	講義	降籬
2	地域・在宅看護の対象者	講義	降籬
3	地域における暮らしを支える看護 暮らしの中の緩和ケア	講義	降籬
4	地域・在宅療養への支援 1. 地域・在宅看護の提供方法 2. 療養の場の移行 3. 入退院時の連携	講義	降籬
5	訪問看護制度 訪問看護システム	講義	降籬
6	訪問看護サービス 1. 訪問看護サービスの特徴と規定 2. 訪問看護ステーションの利用方法	講義	降籬
7	在宅医療を支える社会資源と活用方法	講義	上杉
8	仕組みとサービス利用の手続き		
9	ケアマネジメント		
10	介護サービスの種類と内容 関係職種との連携		
11	地域で暮らす療養者とその家族 在宅看護で起こりうる事故	講義	降籬
12	地域医療の実際 在宅看護活動の創造	講義	降籬
13	在宅における訪問看護師の役割①【課題】	講義・グループワーク	降籬
14	在宅における訪問看護師の役割②	プレゼンテーション	降籬
15	筆記試験 (90 分)		

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト： 1. 河原加代子他：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版, 医学書院, 2022. 2. 河原加代子他：系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版, 医学書院, 2022. 3. 押川真喜子監修：訪問看護アドバンス, インターメディカ, 2023.</p>
<p>評価の方法</p>	<p>A+B=100 点 A：70 点=降旗（試験 50 点、課題 20 点） B：30 点=上杉（筆記試験）</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<p>・アドバイス： この科目は、1 年生までに学習してきた内容を更に深める。今まで学んできたことをよく復習しておくこと。</p>

授業科目	地域・在宅 看護概論Ⅱ	講師名	降籬 幹子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
			上杉 敬一	時間 15 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師・社会福祉士	
科目目標 1. 在宅看護の対象者の特性及び支援のあり方について理解できる。 2. 在宅看護の対象者の家族の特性及び支援のあり方について理解できる。 3. 在宅看護におけるリスクと安全確保について理解できる。 4. 在宅看護の対象者の権利保障について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	地域・在宅における日常生活を支える援助 課題：地域・在宅看護の活動を支えるコミュニケーションについて	講義	降籬
2	地域・在宅看護におけるリスクへの支援 1. 在宅看護における感染対策 2. 在宅療養者や家族への災害時の支援	講義	降籬
3	地域・在宅看護の倫理的問題 看護者の倫理規定	講義	降籬
4 5	人権の権利保障 1. 基本的人権と個人の尊厳 2. 自己決定権、インフォームド・コンセント 3. 個人情報の保護・成年後見制度 4. 高齢者の虐待の防止	講義	上杉
6	課題『近未来の在宅医療・在宅看護の姿』	講義 個人ワーク	降籬
7	報告	グループワーク	降籬
8	筆記試験 (90 分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト 1. 河原加代子編著:地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 第 6 版, 医学書院, 2022. 2. 河原加代子編著:地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 第 6 版, 医学書院, 2022. 3. 押川真喜子監修:訪問看護アドバンス, インターメディカ, 2023.
評価の方法	A+B=100 点 A: 75 点=降籬 (筆記試験 50 点、グループワーク 25 点) B: 25 点=上杉 (筆記試験)
アドバイス	・アドバイス:

・その他

この科目は、1年生までに学習してきた内容を更に深めていきます。今まで学んできたことをよく復習しておいてください。

授業科目	地域・在宅看護方法論 I	講師名	田中 享子	単位 1 単位	時期 2 年次後期
			小山 美雪	時間 30 時間	
実務経験のある講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 地域・在宅看護を展開するために必要な基本的な援助技術を理解できる。 2. 地域・在宅療養の特性を踏まえ、対象の生活の質の向上を目指した援助方法を理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 地域・在宅療養を支える援助技術① 2. 訪問時のマナー・コミュニケーション	講義 演習	田中
2	在宅で看護を提供するための技術の実際 1) 在宅における援助技術 ① 食事 ② 入浴 ③ 全身清拭・陰部洗浄 ④ 移動動作・機能訓練 ⑤ 内服管理の工夫、指導 2) 援助技術のグループ発表と検討会	グループワーク 演習 発表会	田中
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10	1. 在宅における援助技術のまとめ	個人ワーク	田中
11	1. 医療処置に伴う看護・生活支援 1) 在宅酸素療法 (HOT) 2) 在宅人工呼吸療法 (HMV) 3) 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) 4) 疼痛管理 5) 在宅中心静脈栄養法 (HPN) 6) 褥瘡ケア 7) ストーマケア	講義	小山
12			
13			
14			
15			

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤第 6 版, 医学書院, 2025 年 2. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・
-------	---

	<p>在宅看護の実践第6版, 医学書院, 2025年</p> <p>3. 押川真喜子監修: 写真でわかる「訪問看護アドバンス」インターメディアカ, 2025年 第2版</p> <p>4. いとう総研編: 社会保障制度指さしガイド 2025</p>
評価の方法	<p>A+B=100点</p> <p>A: 70点=田中 (提出物70点)</p> <p>B: 30点=小山(筆記試験)</p>
アドバイス ・その他	<p>基礎看護学で学んだ看護技術をもとに、地域で暮らす人々の視点を取り入れて学習を進めていく。</p>

授業科目	地域・在宅看護方法論Ⅱ	講師名	田中享子 新村智美	単位	1 単位	時期	2 年次後期
				時間	30 時間		
実務経験のある講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 地域や在宅で療養する対象の疾患や障害にあわせた看護を理解できる。 2. 地域や在宅で療養する対象にとって必要な福祉機器の実際を知る。 3. 地域・在宅看護を必要とする対象の特性を考慮した看護の検討方法を理解できる。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 地域・在宅看護の実際① 1) 認知症のある対象への援助	講義	田中
2	1. 地域・在宅看護の実際② 1) 癌疾患のある対象への援助 2) ターミナル期を迎えた対象への援助	講義 グループワーク	田中
3	1. 地域・在宅看護の実際③ 1) 難病のある対象への援助	講義	田中
4	1. 地域・在宅看護の実際④ 1) 長期臥床状態にある対象への看護	講義・演習 グループワーク	田中
5	1. 地域・在宅看護の実際⑤ 1) 精神障がいのある対象への援助	講義	新村
6	1. 地域・在宅看護の実際⑥ 1) 小児の療養者に対する援助	講義	新村
7	1. 地域・在宅看護の実際⑦ 1) 感染症のある対象への援助 2) 地域や在宅での感染管理	講義	田中
8 9	1. 残存機能を生かし ADL 維持・拡大を促すための福祉用具の実際を知る	福祉機器展見学・体験	田中
10 11 12 13 14	1. 地域・在宅看護における対象理解の特徴 1) 事例提示と説明 2) 記録方法 2. 状況に応じた看護の検討 1) 情報収集 2) アセスメント 3) 対象の課題抽出 3. まとめ	講義・個人ワーク	田中
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤第 6 版, 医学書院, 2025 年 2. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践第 6 版, 医学書院, 2025 年 3. 押川真喜子監修：写真でわかる「訪問看護アドバンス」インターメディカ, 2025 年 第 2 版 4. いとう総研編：社会保障制度指さしガイド 2025
評価の方法	<p>A+B=100 点 A：85 点=田中（筆記試験 50 点、個人ワーク・レポート・提出物：35%） B：15 点=新村（筆記試験）</p>
アドバイス ・その他	<p>看護の対象は誰なのかを意識し、生活者の視点から支援や看護について考えていく。</p>

3.専門分野－3) 教授内容

(4) 成人看護学

成人看護学構築の考え方

成人期は、ライフサイクル上、人生の重要な部分を占める時期であり、社会的に大きな役割と責任を持つ年代である。また、親から独立し、家庭を築き、子どもの育成や親世代の介護の役割も担っている。

対象者の個別性を理解するためには、社会的自立を求められながら生活し、健康を阻害する要因が増えるこの時期の特性を理解する必要がある。現代社会では様々なストレスが交錯し、健康に大きな影響を及ぼす。社会的に重要な責任を担う成人期においては、健康障害が発生しても生命に直接的にかかわらない限り、社会的責任を優先することで検査・治療に結びつかない場合もある。疾患も完治するものばかりではなく、生活習慣病のようにその病気と上手く付き合うことにより、実質的に健康な状態を維持し生活することができるようになってきている。そして国民の健康に対するニーズは、障害を持っても生活の質を向上させるものへと変化してきている。このような状況の中で変革してきたわが国の健康政策の動向を理解していく必要がある。更に、現代社会は情報が氾濫しており、自分にとって必要な情報を取捨選択する能力も求められている。

こうした背景から、成人看護学においては予防や健康政策、健康教育、セルフマネジメントおよびリハビリテーションといった視点が重要となっている。さらに、健康障害の予防、回復・改善、悪化の防止、また、障害を持ちながらもクオリティ・オブ・ライフを高くその人らしい生活を送るための看護援助について必要な知識・技術・態度を身につける必要がある。そのためには、看護師は、人間を尊重する精神を基盤として、対象の疾患のみではなく、社会的役割、家庭内における役割、対象の家族に対するサポートなどについても目を向け、思いやりの態度を持って対象及びその家族へ援助する能力を持たなければならない。

以上の観点から、成人看護学は、現代の成人期にある人の特徴とそれらの人が抱える健康問題を理解し、必要な看護の概念と倫理的態度について学ぶ成人看護学概論、対象の健康問題および機能障害の理解と援助方法を学ぶ成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲで構成する。

成人看護学概論では、成人看護のアプローチの基本としての成人教育学、成人の健康生活を促すための看護技術であるセルフマネジメントの推進、治療過程にある患者への看護技術、症状マネジメント技術等をはじめ、生命の尊厳と相手に対する思いやりを含む倫理的態度について学ぶ。各方法論においては、基礎看護学を基盤として、方法論ⅠⅡ・Ⅲで器官系統別に障害をもつ成人の看護を学ぶ。

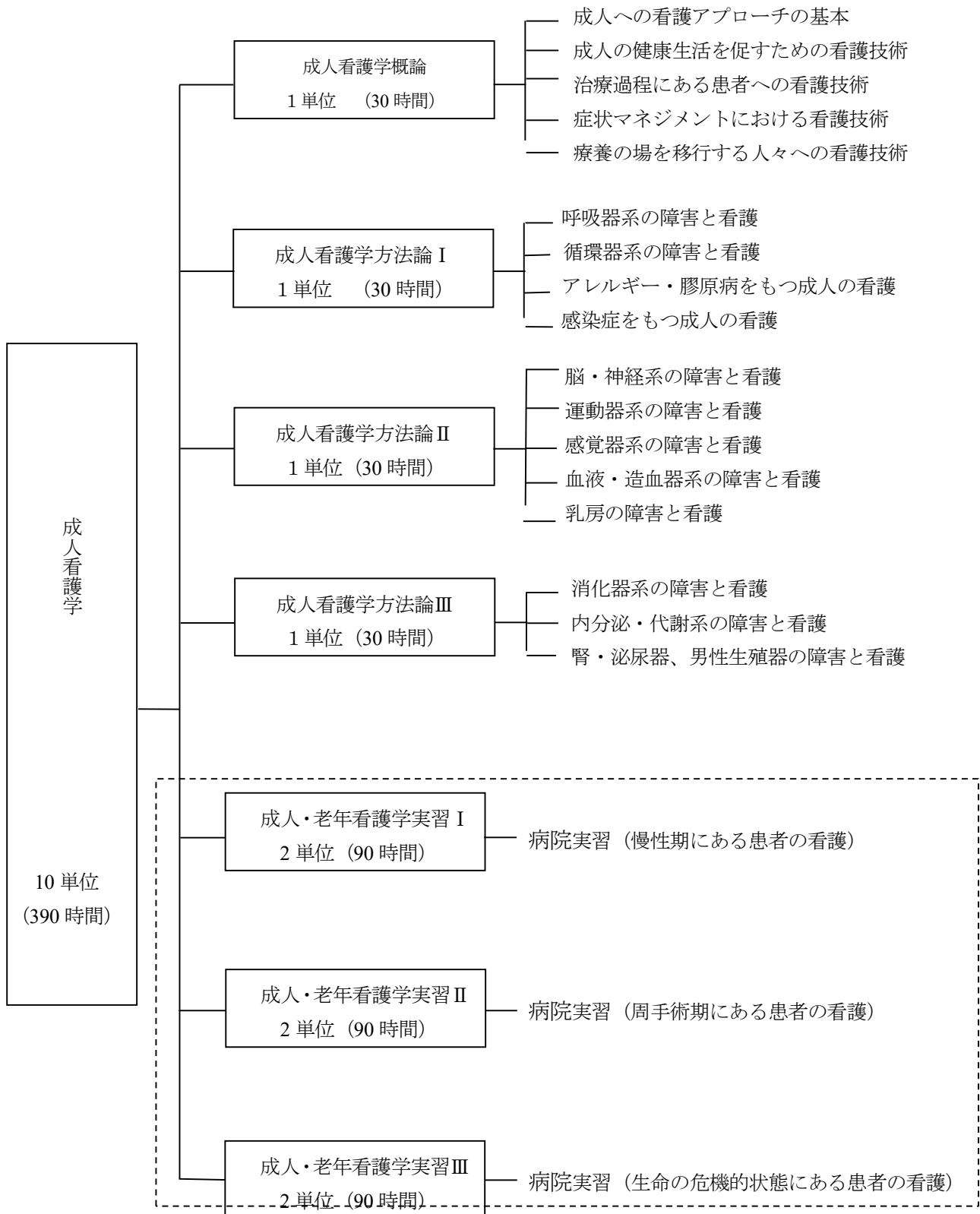
成人看護学の目的

成人期にある人々の特徴とその課題を理解し、健康に影響する様々な因子を知り、個人とその家族の健康上の問題解決に必要な看護実践能力が修得できる。

成人看護学の目標

1. 社会環境と影響し合いながら生活している、成人期にある人々の特徴と課題が理解できる。
2. 成人期にある人々の健康に影響する諸因子を理解し、成人保健の必要性が理解できる。
3. 成人保健の動向を知り、健康な生活を維持・増進するための看護の役割が理解できる。
4. 成人期における疾病とその経過をふまえ、健康障害に伴う諸問題を知り、健康状態に応じた看護実践の必要性が理解できる。
5. 健康が障害された状態にある成人期の人々を全人的に理解し、個人に応じた看護問題に対する解決能力を身につけ、実践に応用できる知識・技術・態度が修得できる。
6. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割、機能を理解し、連携・協働できる能力を身につける。

成人看護学の構成



※成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、老年看護学実習と共通項目として実施する。

授業科目	成人看護学概論	講師名	降籬 幹子	単位 1 単位	時期 1 年次後期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師・保健師		
<p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴を理解し、対象や状況に合わせた支援の基本を理解する。 2. 行動変容を促進するアプローチ方法を理解する。 3. 症状マネジメントにおける看護技術を理解する。 4. 成人期の健康生活を促すための看護技術を理解する。 5. 成人の急性期、慢性期、回復期、終末期に必要な看護を理解する。 6. 成人期の人々の主体的な取り組みができる看護技術を理解する。 7. 成人期の支援をテーマとしてプロジェクト学習による思考プロセスを身につける。 					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 成人期の対象の理解 2. 成人への看護アプローチの基本 (1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 ① 大人の健康行動のとらえ方	講義 個人ワーク 「自分の健康行動を振り返る」	降籬
2	2. 成人への看護アプローチの基本 (1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 ② 行動変容を促進するアプローチ ・ トランスセオレティカルモデル ・ エンパワメントを促すアプローチ ・ 強みをいかすためのアプローチ (2) 症状マネジメント ① 症状マネジメントモデル ② 自己効力感に着目したモデル (3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 (4) 集団における調和や変化を促す看護アプローチ (5) 看護実践における倫理的判断 (6) 意思決定支援	講義 グループワーク 「強みをいかす支援」	
3	3. ヘルスプロモーションと看護 (1) ヘルスプロモーションとは (2) 個人、地域社会、職場の健康づくり 4. 成人期の健康をおびやかす要因と看護	講義	
4	5. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 (1) 健康の急激な破綻 (2) 急性期にある人の看護	講義	
5	6. 慢性病とともに生きる人を支える看護 (1) 慢性病とともに生きる人の理解	講義 グループワーク	

	(2)慢性病とともに生きる人を支える支援 ①セルフケア・セルフケアマネジメントへの支援 ②主体的な取り組みへの支援 ・ローカスオブコントロール ・ヘルスビリーフモデル ・自己効力感	「自己効力を高める支援」
6	7. 障害がある人とその生活を支援する看護 (1)障害がある人とリハビリテーション (2)障害がある人とその生活支援	講義
7	8. 人生の最期のときを支える看護 (1)人生の最期のときの医療の現状と緩和ケア (2)看護の実際	講義
8	大切な人の健康を守ろうプロジェクト① 準備：健康の概念の意識化	プロジェクト学習
9	大切な人の健康を守ろうプロジェクト② ビジョンとゴール	プロジェクト学習
10	大切な人の健康を守ろうプロジェクト③ 計画、情報・解決策	プロジェクト学習
11	大切な人の健康を守ろうプロジェクト④ 制作	プロジェクト学習
12	大切な人の健康を守ろうプロジェクト⑤ 制作②	プロジェクト学習
13	大切な人の健康を守ろうプロジェクト⑥ プレゼンテーション	プロジェクト学習 プ
14	大切な人の健康を守ろうプロジェクト⑦ 再構築・凝縮ポートフォリオの作成・評価	プロジェクト学習
15	筆記試験	

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 第16版，医学書院，2022. 参考書 1. 松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に，医歯薬出版株式会社，2002. 2. 鈴木敏江：アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する，医学書院，2016年
評価の方法	筆記試験 60点 プロジェクト学習評価 40点
アドバイス ・その他	成人期における健康支援の理論を用いたアプローチを身につけましょう。

授業科目	成人看護学 方法論 I	講師名	安納 秀一	単位 1 単位	時期 2 年次前期
			飯野 幸枝 小林 一葉 松浦 美和	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 呼吸器系に障害をもつ成人の看護が理解できる。 2. 循環器系に障害をもつ成人の看護が理解できる。 3. アレルギー・膠原病をもつ成人の看護が理解できる。 4. 感染症疾患をもつ成人の看護が理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 呼吸器系に疾患をもつ患者の看護 1) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の看護	講義	安納
2	2) 肺血栓塞栓症患者の看護 3) 急性呼吸窮迫症候群患者の看護 4) 睡眠時無呼吸症候群患者の看護	講義	
3	5) 肺がん患者の看護	講義	
4	6) 自然気胸患者の看護	講義	
5	【演習：胸腔ドレーンの管理】	演習	
6	1. 循環器系に疾患をもつ対象の看護 1) 虚血性心疾患患者の看護 (1) 安定冠状動脈疾患患者の看護 (2) 急性冠症候群患者の看護	講義	飯野
7	2) 急性心不全患者の看護	講義	
8	3) 不整脈患者の看護 (1) 薬物療法 (2) ペースメーカー装着患者の看護	講義	
9	4) 感染性心内膜炎患者の看護 5) 動静脈系疾患患者の看護	講義	
10	2. 心臓リハビリテーションと看護	講義	
11	1. アレルギー・膠原病の疾患をもつ患者の看護 1) 気管支喘息患者の看護	講義	小林
12	2) 全身性エリテマトーデス患者の看護	講義	
13	1. 感染症疾患をもつ患者の看護 1) 免疫力の低下、易感染状態にある患者の看護	講義	松浦
14	2) HIV感染症エイズ患者の看護 3) 敗血症患者の看護	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>1. 浅野浩一郎・梅村美代志他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器, 医学書院, 2019.</p> <p>2. 松田直樹・上塚芳郎他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器, 医学書院, 2019.</p> <p>3. 岩田健太郎・川口鎮司他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病 感染症, 医学書院, 2020.</p>
<p>評価の方法</p>	<p>A+B+C=100 点</p> <p>A：35 点＝呼吸器系 25 点 + 演習 10 点</p> <p>B：35 点＝循環器系</p> <p>C：30 点＝①アレルギー・膠原病 15 点 + ②感染症 15 点</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<p>疾病治療論で学修した知識を土台に疾患をもつ患者の看護について学びを深めます。疾病治療論の復習をして講義に臨んでください。</p>

授業科目	成人看護学 方法論Ⅱ	講師名	石坂 美和 大貫由美恵 出井 千尋 篠澤 立暁 渡辺 了子 山咲 朱里 町田恵理子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標	1. 脳神経機能に障害をもつ成人の看護が理解できる。 2. 運動機能に障害をもつ成人の看護が理解できる。 3. 感覚器に障害をもつ成人の看護が理解できる。 4. 血液・造血器に障害をもつ成人の看護が理解できる。 5. 乳房に疾患のある成人の看護が理解できる。				

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 脳神経系に疾患をもつ患者の看護 1) 脳梗塞患者の看護	講義	石坂
2	2) クモ膜下出血患者の看護	講義	大貫
3	3) 脳腫瘍患者の看護 4) 下垂体腺腫の摘出術を受ける患者の看護		
4	5) 筋ジストロフィー患者の看護	講義	出井
5	6) 多発性硬化症患者の看護 7) 重症筋無力症患者の看護		
	8) 筋委縮性側索硬化症患者の看護 9) 髄膜炎患者の看護		
6	1. 運動器系の保存療法、手術を受ける患者の看護 1) ギプス固定を受ける患者の看護 2) 副子固定を受ける患者の看護 3) 牽引療法を受ける患者の看護	講義 演習	篠澤
7	2. 運動器系に疾患をもつ患者の看護 1) 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 2) 腰部脊柱管狭窄症患者の看護	講義	
8	3) 運動器系疾患を持つ患者への援助 【演習：ベッド上安静の患者への援助 異常の早期発見と拘縮予防】	講義 演習	
9	4) 骨腫瘍患者の看護	講義	
10	5) 関節リウマチ患者の看護	講義	
11	1. 感覚器に障害のある患者の看護 1) 網膜剥離のある患者の看護 2) 下咽頭がん患者の看護	講義	渡辺

12	1. 血液・造血器に疾患をもつ患者の看護 1) 白血病患者の看護 2) 悪性リンパ腫患者の看護	講義	山咲
13	3) 造血幹細胞移植患者の看護	講義	
14	乳がんで乳房切除術を受ける患者の看護とリンパ浮腫への対応	講義	町田
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 井手隆文・竹村信彦他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 2019. 田中栄・横井郁子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 医学書院 2019. 渡辺晋一・東藍子・川島弘子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学講座[12] 皮膚 医学書院 2020. 大鹿哲郎・平井明美著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13]眼 医学書院 2020. 小松浩子・生井明浩・松崎洋海他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 2020. 飯野京子・木崎昌弘他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 2019. 末岡浩・鈴木直他著：系統回語学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器 医学書院 2019.
評価の方法	<p>A+B+C=100 点</p> <p>A：35 点＝脳・神経系（石坂 7 点・小花 14 点・佐々木 14 点）</p> <p>B：30 点＝運動器系 20 点 + 演習 10 点</p> <p>C：35 点＝①感覚器 10 点 + ②血液・造血器 15 点 + ③乳房 10 点</p>
アドバイス ・その他	<p>疾病治療論で学修した知識を土台に疾患をもつ患者の看護について学びを深めます。疾病治療論の復習をして講義に臨んでください。</p>

授業科目	成人看護学 方法論Ⅲ	講師名	境 敏一 高石 駿汰 関谷由美子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 消化器に障害をもつ成人の看護について理解できる。 2. 内分泌・代謝系に障害をもつ成人の看護について理解できる。 3. 腎・泌尿器、男性生殖器に障害を持つ成人の看護について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 疾患をもつ患者の看護 1) 食道がん患者の看護	講義 演習	境
2	2) 胃がん患者の看護	講義	
3	3) 潰瘍性大腸炎とクローン病患者の看護 4) 腸閉塞患者の看護	講義	
4	4) 大腸がん（結腸がん・直腸がん）患者の看護 【演習：ストーマ管理】	講義 演習	
5	5) 急性・慢性肝炎患者の看護 6) 肝硬変患者の看護	講義	
6	7) 胆汁ドレナージを受ける患者の看護 8) 膵炎患者の看護	講義	
7	1. 内分泌系疾患患者の看護 1) 下垂体疾患患者の看護 2) 甲状腺疾患患者の看護 3) アルドステロン症患者の看護	講義	高石
8	2. 代謝疾患患者の看護 1) 糖尿病患者の看護 (1) 健康な食（食事療法）に関する援助 ・食事療法と血糖兼コントロール 【演習：単位計算と食事指導】	講義 演習	
9	(2) 薬物療法のある生活への援助 ・インスリン注射の手技 (3) 急性合併症時の看護 ・シックデイ 【演習：簡易血糖測定】	講義 演習	
10	(4) 活動的な生活（運動療法）への援助 ・フットケアの必要性和実際の方法 (5) 慢性高血糖の持続による病気の進行と看護 フットケアの実際	講義	
11	1. 疾患をもつ患者の看護 1) IgA 腎症患者の看護 2) ネフローゼ症候群患者の看護 3) 腎盂腎炎患者の看護 4) 膀胱炎患者の看護	講義	関谷
12	5) 急性腎不全・急性腎障害患者の看護	講義	
13	2. 透析療法を受ける患者の看護	講義	

14	3. 膀胱がん患者の看護 4. 前立腺がん患者の看護	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 南川雅子・永井博司他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ，成人看護学[5] 消化器 医学書院 2019. 2. 黒江ゆり子・和田典男他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 2019. 3. 今井亜矢子・内田智栄他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ，成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 2019.
評価の方法	<p>A+B+C=100 点</p> <p>A：40 点=消化器系 30 点 + 演習 10 点</p> <p>B：30 点=内分泌系 20 点 + 演習 10 点</p> <p>C：30 点=腎・泌尿器系</p>
アドバイス ・その他	<p>疾病治療論で学修した知識を土台に疾患をもつ患者の看護について学びを深めます。疾病治療論の復習をして講義に臨んでください。</p>

3.専門分野－3) 教授内容

(5) 老年看護学

老年看護学構築の考え方

加齢による生理的機能の変化は外見だけでなく機能的変化となって現れ、健康や生活に影響を与える。さらに、老いの自覚として精神的・心理的变化にも影響を与える。退職等による地位や役割の社会的つながりや伴侶や友人との別れ等から、生き甲斐や喪失感を持ちやすい。しかし、これらの変化には個人差があり個々の対応が必要である。そこで老年看護学は、老年期にある人を統合的に理解し、老年期の特徴をふまえ、高齢者とその家族に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけることを目的とする。

老年看護学概論では、老年看護の意義と役割、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴、健康と生活を支援する保健医療福祉制度実際、高齢者の人権と倫理問題について学ぶ。

老年看護学方法論Ⅰでは、高齢者に起りやすい健康障害の特徴と日常生活を支える支援、尊厳を守る排泄援助、高齢者が起こりやすい症状に合わせた清潔保持、高齢者の睡眠の特徴に合わせた援助、高齢者に特徴的なコミュニケーション援助、高齢者が闘病意欲を向上させる援助の方法を学ぶ。

老年看護学方法論Ⅱでは、高齢者特有の疾患、認知症及び手術前後の看護を高齢者の身体的・精神的な特徴を踏まえた看護援助方法を学ぶ。

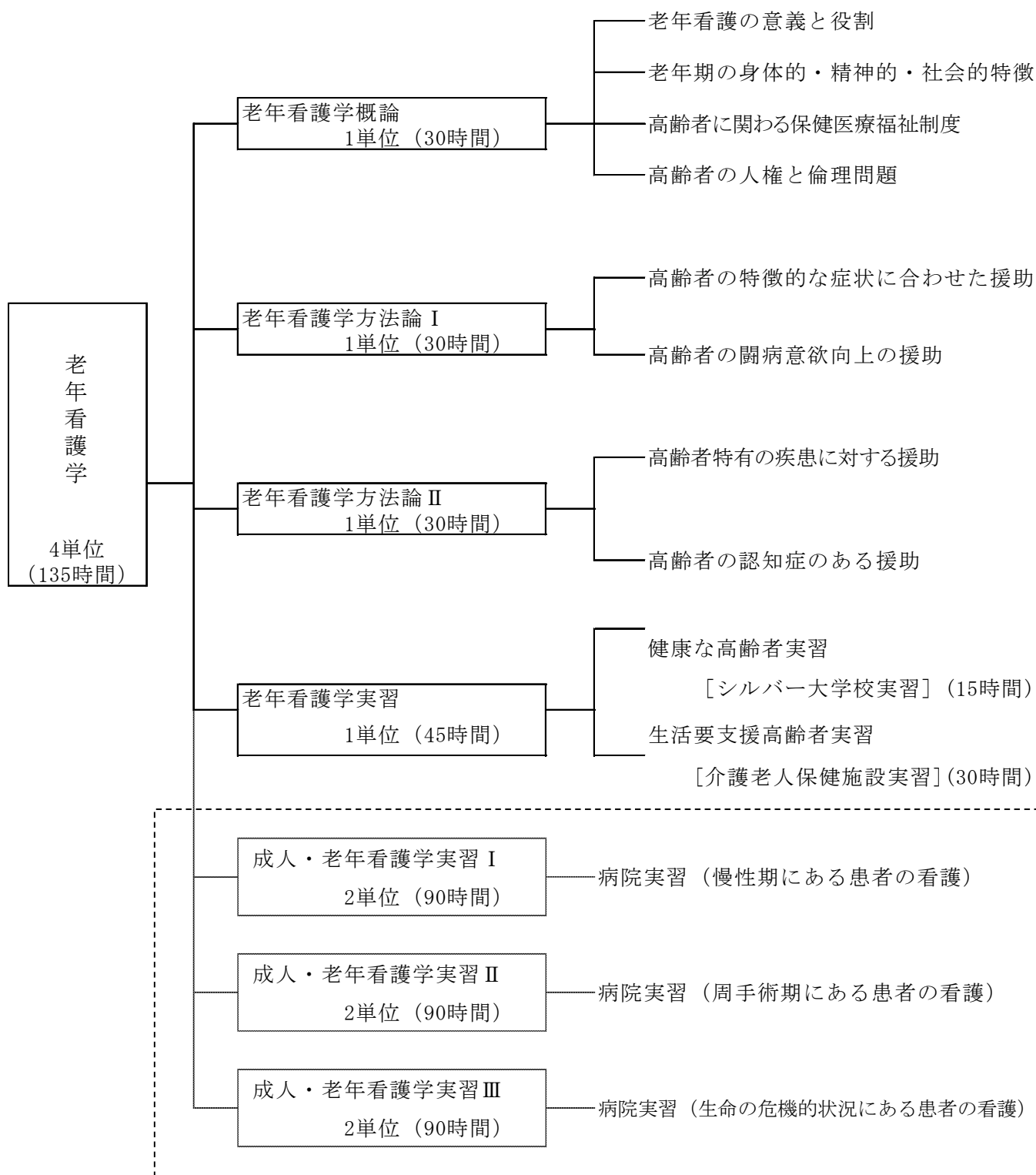
老年看護学の目的

老年期にある人を統合的に理解し、老年期の特徴をふまえ、高齢者とその家族に応じた看護を実践するための基本的能力を身につける。

老年看護学の目標

1. 加齢による身体の変化や精神的・社会的喪失感をふまえ、老年期にある人々の特徴を理解する。
2. 高齢者のライフスタイルをふまえ、援助の必要性を理解し、基本的な援助技術を身につける。
3. 高齢者とその家族を取り巻く社会の動きを把握し、保健・医療・福祉活動の必要性と看護の役割を理解する。
4. 高齢者の特徴をふまえ、加齢による変化や健康状態に応じた、家族も含めた看護が実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として老年看護の役割・責任を理解し協働できる。

老年看護学の構成



*成人・老年看護学実習 I・II・IIIは、成人看護学実習と共通科目として実施する。

授業科目	老年看護学概論	講師名	小熊 陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
<p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的な変化を発達課題や理論を通して理解することができる。 2. 高齢者を取り巻く社会状況を理解できる。 3. 高齢者を支える保健医療福祉制度について理解できる。 4. 高齢者の権利擁護について理解できる。 5. 高齢者の生活を支援する老年看護の役割を理解する。 						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1 2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老いを生きるということ 2. 老年期の発達と成熟 <ul style="list-style-type: none"> ・エリクソン ・ペック ・ハヴィガースと ・レビンソン 3. 老年期の健康と生活 2. 老年看護の役割 3. 老年看護における理論・概念 	講義	小熊
3 4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のヘルスアセスメント 2. 身体に加齢変化とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的健康のアセスメント 2) 生活の遂行状態のアセスメント 3) 心理・社会的健康のアセスメント 4) 環境のアセスメント 5) 生活史のアセスメント 	講義	
5 6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康高齢者とのコミュニケーション 2) 高齢者の日常生活の体験 	演習 個人学習課題	
7 8	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会の現況 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の健康状態 2) 高齢者と家族 3) 高齢者の暮らし <ul style="list-style-type: none"> ・家計 ・住まい ・働くこと ・社会とのかかわり 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者にかかわる保健医療福祉の制度と仕組み 2) 地域共生社会と看護活動 3. 高齢者の権利擁護 	講義	

	1) 高齢者差別 ・スティグマ ・エイジズム 2) 権利擁護と権利擁護のための制度 ・アドボカシー ・ノーマライゼーション ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 3) 高齢者虐待 4) 身体拘束		
9 10 11	1. 社会参加の現状と支援 2. 介護予防と生活支援 3. 地域共生社会 4. 居住施設における看護を考える 5. エンドオブライフケア	講義	
12 13 14	自分たちの住む地域の健康維持・介護保健サービス	グループワーク プレゼンテーション	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 北川 公子他：系統看護学講座, 専門分野, 老年看護学, 第 10 版, 医学書院, 2025. 2. 鳥羽 研二他：系統看護学講座, 専門分野, 老年看護 病態・疾患論, 第 6 版, 医学書院, 2025. 3. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子編：ナーシング・グラフィカ, 老年看護学 ①, 高齢者の健康と障害, 第 8 版, メディカ出版, 2025. 4. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子編：ナーシング・グラフィカ, 老年看護学 ②, 高齢者看護の実践, 第 7 版, メディカ出版, 2025.
評価の方法	評価 筆記試験：70%, 個人学習課題：15%, グループワーク：15%
アドバイス ・その他	人生 100 年時代といわれています。講義や高齢者疑似体験を通し、「老いを生きる」を支えていくための看護の役割について考えていきましょう。

授業科目	老年看護学 方法論 I	講師名	小熊 陽子	単位	1 単位	時期	2 年次 前期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の移動・姿勢保持の援助方法が理解できる。 2. 高齢者の食事に関する援助方法が理解できる。 3. 高齢者の排泄に援助方法が理解できる。 4. 高齢者の清潔保持をする援助方法が理解できる。 5. 高齢者の睡眠を整える援助を理解する。 6. 高齢者の背景を考慮したコミュニケーションの方法が理解できる。 7. 検査を受ける高齢者の看護が分かる。 8. 高齢者の闘病意欲を向上させる援助が理解できる。 							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 老年期の身体的・精神的・社会的特徴と発達課題	講義	小熊
2	1. 高齢者の日常生活を支える移動・姿勢保持の基本的な援助 (1) 事故防止・転倒防止の為の住環境 (2) 日常生活動作 (3) 転倒防止の為の援助 (4) 高齢者における転倒後の影響 (5) ポジショニング技術 (6) 介護予防・筋力維持・関節可動域拡大の援助	講義	
3	1. 高齢者の食事時に対する援助 (1) 栄養状態・電解質バランスの把握 (2) 食事前の嚥下訓練 (3) 食事時の体位と誤嚥防止の観察内容 (4) 食後の口腔ケア・義歯の洗浄・口腔内の観察 (5) 食後の体位と食後観察内容と援助 (6) 嚥下スクリーニング	講義	
4	1. 誤嚥の危険性のある症状のある事例演習	グループワーク	
5	1. 高齢者の尊厳を守る排泄援助 (1) 排泄リズムの把握と援助方法 (2) 高齢者の排泄状態の把握 (3) 排尿・排便障害の援助 (4) 排泄用具の活用と倫理 (5) 感染拡大防止の援助	講義	
6	1. 高齢者の清潔を保持する援助	講義	

	(1) 整容・身だしなみを整える援助の必要性 (2) 高齢者の入浴への影響 (3) 高齢者の症状を把握した清潔援助 (4) 安全な機械浴の援助 (5) 掻痒感のある高齢者への援助 (6) 入浴後の創傷のある高齢者への援助 (7) 感染拡大防止の援助		
7	1. 症状のある高齢者の清潔保持事例演習	グループワーク	
8	1. 高齢者の睡眠 (1) 健康維持の為の睡眠の援助 (2) 高齢者の睡眠の特徴 (3) 睡眠障害の高齢者の援助 (4) 生活リズムの再獲得と睡眠	講義	
9	1. 高齢者のコミュニケーションの援助（事例） (1) 高齢者へのコミュニケーション方法 (2) 高齢者の生きてきた時代を反映させる会話 (3) バリテーション・ユマニチュード・回想法 (4) 聴力障害・難聴のある高齢者の援助 (5) 失語症・構音障害のある高齢者との会話方法	講義 グループワーク	
10	1. 高齢者の人生背景を知り老年観を考える	グループワーク	
11	1. 検査・手術を受ける高齢者への援助の事例演習 (1) 老年者が受けることの多い検査事例 (2) 老年者が受けることの多い手術事例	講義	
12	1. 事例検討	グループワーク	
13	1. 闘病意欲を向上させる援助 (1) レクリエーション (2) 音楽療法 (3) アクティビティケア	講義	
14	1. 老年看護学方法論 I まとめ	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第5版，医学書院，2023. 2. 鳥羽研二他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 第5版，医学書院，2023. 3. 亀井智子他：根拠と事故防止からみた 老年看護技術 第3版，医学書院，2023.
評価の方法	筆記試験 70点+GW・レポート内容 30点=100点

アドバイス
・その他

老年看護学概論、成人看護学概論を復習しておく。

授業科目	老年看護学 方法論Ⅱ	講師名	福田 汐	単位 1単位	時期 2年次通年
			池澤 千晶 増渕 香南 佐藤巳那子 上杉 敬一	時間 30時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師・社会福祉士		
科目目標 1. 高齢者に特有な疾患に対する看護援助が理解できる。 2. 認知症のある高齢者の援助が理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 運動器疾患の看護 (1)骨粗鬆症をもつ高齢者の看護 (2)大腿骨頸部・転子部骨折の高齢者の看護	講義	福田
2	(3)手術が必要な運動器疾患をもつ高齢者の看護	講義	
3	1. 腎泌尿器疾患の看護 (1)尿失禁・排尿障害のある高齢者の看護 (2)前立腺肥大症の手術を受ける高齢者の看護	講義	池澤
4	(3)尿路感染症のある高齢者の看護 (4)泌尿器疾患における看護師の役割	講義	
5	1. 感覚器疾患の看護 (1)高齢者に多い眼科疾患の看護 <1>白内障	講義	増渕
6	<2>緑内障 <3>糖尿病性網膜症		
7	1. 脳血管障害の看護 (1)脳血管障害の後遺症(麻痺・高次機能障害)のある 高齢者の看護	講義	佐藤
8	1. 神経系疾患の看護 (1)パーキンソン病をもつ高齢者の看護 (2)神経系難病をもつ高齢者の看護	講義	
9	1. 循環器疾患の看護 (1)虚血性心疾患をもつ高齢者の看護 (2)不整脈のある高齢者の看護	講義	
10	1. 呼吸器疾患の看護 (1)誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者の看護 (2)閉塞性肺疾患のある高齢者の看護	講義	
11	1. 皮膚疾患の看護 (1)多発性褥瘡のある高齢者の看護	講義	

	(2) 疥癬をもつ高齢者の看護 (3) 白癬をもつ高齢者の看護		
12	1. 認知症高齢者の看護 (1) 認知症の症状 (2) 認知症をきたす疾患と治療・看護	講義	
13	(3) 認知症の予防 (4) 認知症高齢者と家族の支援	講義	
14	1. 認知症サポーター講習会	講義・演習	上杉
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 鳥羽研二他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護・疾病論 第5版，医学書院，2023.
評価の方法	筆記試験 100 点 1. 運動器 15 点・腎泌尿器 15 点・感覚器 15 点、42 分 2. 脳血管・神経系・循環器・呼吸器・皮膚疾患・認知症 55 点、48 分
アドバイス ・その他	老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ、疾病治療論の授業内容を復習して授業に臨む。

3.専門分野－3) 教授内容

(5) 小児看護学

小児看護学構築の考え方

全ての子どもは、心身ともに健やかに生き、生活できる権利を持っている。子どもにとっての健康とは、家族や社会とのつながりの中で、身体的・精神的・社会的な存在として、それぞれの健康レベルに応じて、健やかな成長発達をとげることである。子どもには、本来自ら学び育つ力が備わっており、その将来はあらゆる可能性にあふれている。しかし、近年、少子高齢化、核家族化が進み、地域社会との繋がりも希薄化しており、子どもを守り育てるための環境は変化している。子どもは未熟さゆえに、身体や心、環境へ問題が生じることで、さまざまな問題に波及し、将来に影響を及ぼす危険性もある。そのため、子どもの特性を十分に理解し、子どもが本題持っている能力を活かせるよう、成長発達を阻害する因子を可能な限り取り除く必要がある。

小児看護では、小児各期の成長・発達を理解し、それらを促すための看護が求められる。そのためには、子どもの健康状態や生活状況などについて、子ども自身やその家族がどのようにとらえているのかに着目し、健康の保持増進に必要な情報を日常のケアやコミュニケーションの中からアセスメントしていくことが重要である。加えて、子どもが自己の体調や健康、さらには自分自身についてどのようにとらえているのかに着目し、子どもの意志を尊重しながら成長発達の中で自ら健康の保持増進を行っていけるよう支援する力が必要となる。

現代の学生も上記で述べた環境の中で生活しており、きょうだいがいないことや親戚や地域の子どもの達と関わる機会がないことが考えられる。これは小児看護を学ぶにあたり、小児看護の対象である子どもの理解が困難な要因の一つになり、子どもに対する苦手意識にもつながる可能性がある。

これらの視点に立ち、健康な子どもをまず理解し、健康障害をもった子どもの理解、看護へと続くように小児看護学を構築した。

小児看護学概論では、小児各期の成長発達とそれを促すための日常生活援助の方法を学んでいく。また、子どもの思考や言語機能の未熟さから引き起こされる事故を理解し、各年齢に合わせた危険予測と安全対策の必要性と結び付けて考察する。

小児看護学方法論Ⅰでは、医療現場における子どもの権利や倫理について学習する。医療の場において、身体機能の回復または体力の消耗を最小限におさえるために、子どもの成長や心身の発達が阻害されることは、生涯にわたる健康の保持増進の妨げとなることを理解する。その上で、グループワークや演習を通し、子どもが治療・検査・処置を受けることや、入院により母子分離・社会との分離を受けることで及ぼされる影響について考察する。

小児看護学方法論Ⅱでは、具体的な疾患や障害からどのような看護が必要か成長発達だけでなく個別性もふまえて考察する。加えて、地域の中で子どもがその子らしく生活していくために、どのような多職種と連携しどのような環境を整える必要があるか、グループで検討していく。

子どもは、様々な部分において発達が未熟である。小児看護学全体を通し、子どもの置かれている状況は、本当にこれで良いのかと考察し、多職種と共に「その子らしさ」を最大限に発揮できる看護を行うための高い倫理観を養うことをねらいとしている。

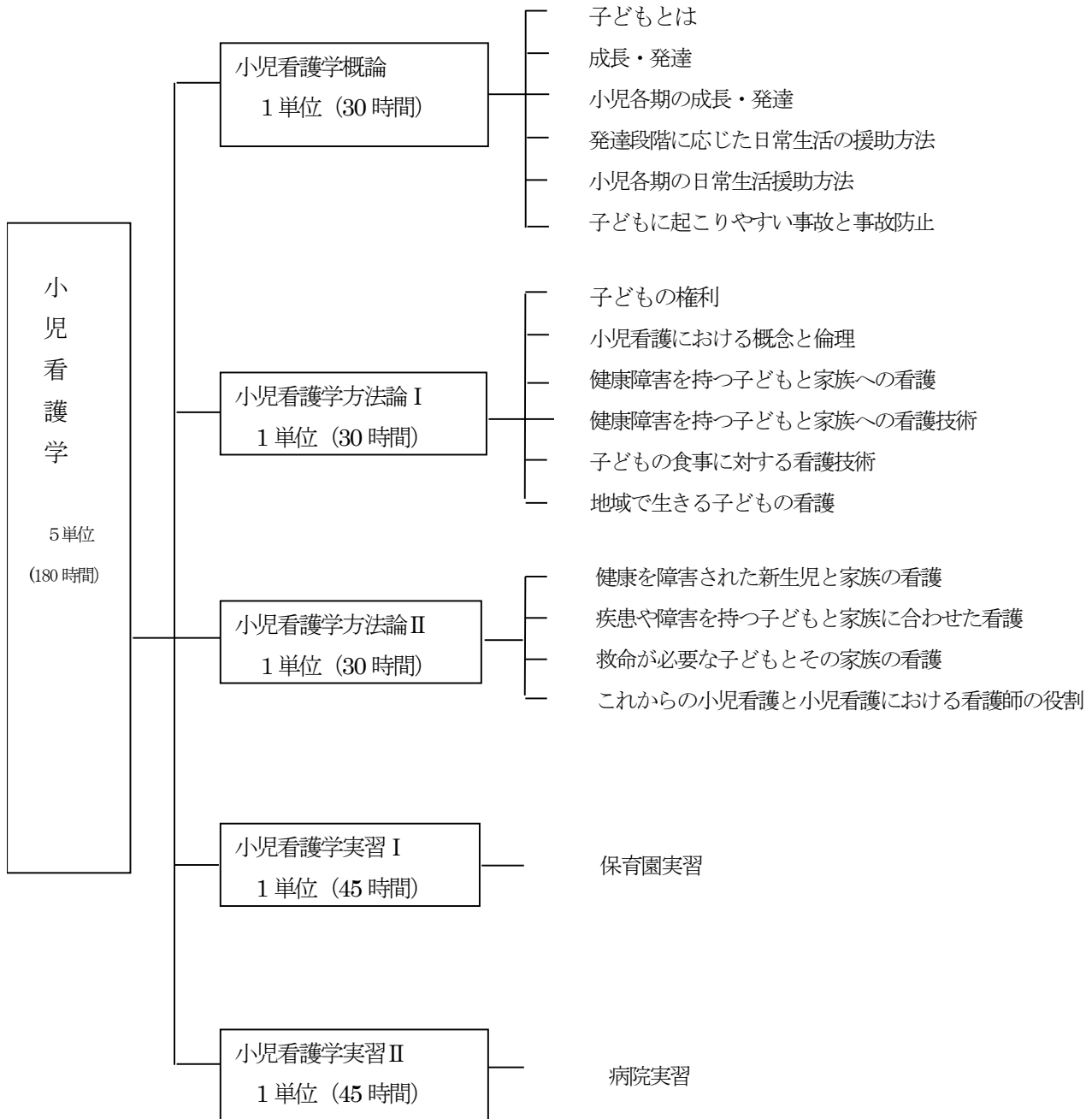
小児看護学の目的

小児各期の成長・発達段階における特徴とその課題を理解し、身体的、精神的、社会的にその子らしく成長・発達していくために、それらに対して影響をあたえる様々な因子を知り、小児とその家族を支援するために必要な看護実践能力を養う。

小児看護学の目標

1. 小児各期の成長・発達とそれに必要な日常生活支援について理解できる。
2. 小児を1人の人間として尊重し、倫理的配慮を行うための具体的行動が分かる。
3. 疾患や障害が小児と家族に与える影響について理解し、成長・発達段階と個別性に配慮した看護について具体的に考察できる。
4. 小児看護に必要な基礎的看護技術が習得できる。
5. 症状を示す子どものアセスメントするために必要な知識が習得できる。
6. 多職種と協働し、「その子らしさ」を最大限に発揮できる環境を整えることの必要性が理解できる。

小児看護学の構成



授業科目	小児看護学 概論	講師名	福岡 真利奈	単位 1 単位	時期 1 年次後期
			兵頭理枝子	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師、保育士	
科目目標 1. 小児看護の対象が理解できる。 2. 小児期の成長・発達原則が理解できる。 3. 小児各期の成長・発達に応じた日常生活援助について理解できる。 4. 小児各期の成長・発達に応じた具体的な日常生活支援の方法が理解できる					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 子どもの特徴、小児看護の対象 2. 子どもと家族、社会 3. 子どもにとっての家族とは 4. 子どもの成長発達 (1) 成長・発達とは (2) 成長・発達の進み方 (3) 成長・発達に影響する因子 (4) 成長・発達の評価	講義 グループ ワーク	福岡
2 3	1. 新生児期の成長・発達 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 日常生活援助	講義 グループ ワーク	
4	1. 乳児期の成長・発達 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 感覚機能 (4) 運動機能 (5) 知的機能 (6) コミュニケーション機能 (7) 情緒・社会的機能	講義 グループ ワーク	
5	1. 幼児期の成長・発達 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 感覚機能 (4) 運動機能 (5) 知的機能 (6) コミュニケーション機能 (7) 情緒・社会的機能	講義 グループ ワーク	

6	1. 学童期の成長・発達 (1)形態的特徴 (2)身体生理の特徴 (3)感覚機能 (4)運動機能 (5)知的機能 (6)コミュニケーション機能 (7)情緒・社会的機能	講義 グループ ワーク	
7	1. 思春期の成長・発達 (1)形態的特徴 (2)身体生理の特徴 (3)感覚機能 (4)運動機能 (5)知的機能 (6)コミュニケーション機能 (7)情緒・社会的機能	講義 グループ ワーク	福岡
8	1. 基本的な生活習慣の獲得に向けた関わり 2. 社会的な生活習慣・対人関係能力の獲得に向けた関わり	講義 グループ ワーク	兵頭
9 10 11 12 13	1. 小児各期の日常生活援助 各グループで新生児～幼児期の子どもの事例を作成し、これから習得していく日常生活を考え、支援するための援助と発達を促す玩具を作成し、プレゼンテーションを行う。 ※発表に必要な学習内容についての入力フォーマットは、事前にメールで配付する。グループ内で共有し内容を確認した上で授業に臨む。 (1)0～5 ヶ月 (2)6 ヶ月～11 ヶ月 (3)1 歳～1 歳 5 ヶ月 (4)1 歳 6 ヶ月～1 歳 11 ヶ月 (5)2 歳 (6)3 歳 (7)4 歳 (8)5 歳	講義 グループ ワーク 発表	福岡
14	1. 子どもに起こりやすい事故と事故防止 ※チャイルドビジョンを使用するので、事前に自宅で工作し持参する。 (1)幼児の視野体験 (2)各発達段階に多い事故と事故防止	講義 疑似体験 グループ ワーク	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第15版, 医学書院, 2025.</p> <p>2. 山村豊他：系統看護学講座 基礎分野, 心理学 第6版, 医学書院, 2017.</p> <p>参考書：</p> <p>1. 中野綾美他：ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護</p>
-------	---

	<p>第7版, メディカ出版, 2023.</p> <p>2. 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会著: 乳幼児健診マニュアル 第6版, 医学書院, 2019.</p>
評価の方法	<p>筆記試験(70点) + ルーブリック評価(30点) = 100点</p> <p>※ルーブリック評価(授業・グループワークの参加状況、課題等の内容)</p> <p>※課題提出状況(未提出・提出期限超過)により減点あり</p>
アドバイス ・その他	<p>参考資料・課題関連資料はメールで共有する。授業参加の際は、必ず iPad を充電し持参すること。</p>

授業科目	小児看護学 方法論 I	講師名	福岡真利奈	単位	1 単位	時期	2 年次前期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
<p>科目目標</p> <p>1. 看護の動向、小児医療・小児看護の変遷について理解できる。</p> <p>2. 疾患や障害が子どもと家族に与える影響と必要な看護について理解できる。</p> <p>3. 治療処置を受ける子どもの倫理的配慮を考え、安全・安楽な援助方法について具体的に考察できる。</p> <p>4. 子どもの倫理的課題を理解し、1人の人間として尊重するために何が必要か考察できる。</p>							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 児童観・育児観の変遷 2. 子どもにおける権利 (1)子どもの権利 (2)小児医療と子どもの権利 (3)小児看護と倫理的配慮 3. 小児看護における概念と理論 (1)ボウルビィ、ピアジェ、マラー他	講義 グループワーク	福岡
2	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (1)病気・障害が子どもと家族に与える影響 (2)小児の健康問題と看護 ※インフォームドアセント、プレパレーション含む 2. 検査・処置を受ける子どもの看護 (1)外来における子どもと家族の看護 呼吸困難症状のある子どもの外来での問診票を確認し、追加で問診する内容と観察ポイントについて考える。	講義 グループワーク	福岡
3 4 5 6 7 8	3. 子どもの状況(環境)に特徴付けられる看護 (1)入院中の子どもと家族の看護 4. 症状を示す子どもの看護とアセスメント 小児科に入院となった子どもの疑似電子カルテ、レントゲン写真、紹介状を確認し以下の内容をアセスメントする。 (1)必要な VS、観察項目 (2)呼吸困難 (3)発熱 (4)脱水 (5)成長発達 (6)家族 アセスメントした上でどのような看護が必要か根拠を交えてプレゼンテーションする ※①患児の電子カルテデータ、②紹介状、③レントゲン写真、④事例検討資料フォーマットを事前にメ	講義 グループワーク 発表	福岡

	ールで配付する。グループ内で共有し内容を確認した上で授業に臨む。		
9 10	1. 健康障害を持つ子どもへの看護技術① 入院中の子どもに対する看護をロールプレイで実践する。本人と家族への説明も検討する。 (1)VS 測定(T、P、R、BP) ※乳児の場合も考える (2)呼吸音聴取 ※乳児の場合も考える (3)点滴刺入部の観察 ※乳児の場合も考える (4)苦痛を伴う検査 吸引、採血時の固定・抑制 ※乳児の場合も考える 腰椎穿刺・骨髄穿刺 ※事前に iPad で関連する動画を確認し、授業に臨む (技術だけでなく声掛けもよくみること)	演習 リフレクション	福岡
11 12	2. 健康障害を持つ子どもへの看護技術② (2)全身清拭、更衣、オムツ交換、採尿パック貼付 ※事前に iPad で関連する動画を確認し、授業に臨む (技術だけでなく声掛けもよくみること)	演習 リフレクション	福岡
13	3. 子どもの食事に対する看護技術 (1)調乳、授乳、排気 ※タオル、哺乳瓶(家にある学生)を各自持参する (2)離乳食 (3)病院での食事	演習 グループワーク	福岡
14	1. 子どもの虐待と看護	講義 グループワーク	福岡
15	筆記試験		福岡

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第15版, 医学書院, 2025. 山村豊他：系統看護学講座 基礎分野, 心理学, 第6版, 医学書院, 2017. 浅野みどり他：根拠と事故防止からみた小児看護技術 第4版, 医学書院, 2025. <p>参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 中野綾美他：ナーシンググラフィカ 小児看護学(1) 小児の発達と看護 第7版, メディカ出版, 2023. 鴨下重彦他：こどもの病気の地図帳, 第21版, 講談社, 2002.
評価の方法	<p>筆記試験(70点)+ループリック評価(30点)=100点</p> <p>※ループリック評価(①授業・グループワークの参加状況、課題等の内容、②演習)</p> <p>※課題提出状況(未提出・提出期限超過)、授業態度により減点あり</p>

アドバイス ・その他	小児看護学概論の内容を踏まえての学習となる。各年齢における成長・発達について復習した上で授業に臨むこと。特に DENVER については、ある程度暗記していることが望ましい。 参考資料・課題関連資料はメールで共有する。授業参加の際は、必ず iPad を充電し持参すること。
---------------	--

授業科目	小児看護学 方法論Ⅱ	講師名	福岡真利奈	単位 1 単位	時期 2 年次通年
			小山こずえ	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 疾患や障害を持つ子どもと家族の看護について、成長・発達と個別性をふまえて具体的に考察できる。 2. 小児看護の目的と小児看護における看護師の役割が考察できる。 3. 多職種と協働し「その子らしさ」を最大限に発揮できる環境をグループで検討できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1 2	1. 健康を障害された新生児と家族の看護 (1) ダウン症候群のある子どもと家族の看護 (2) NICU で治療が必要な子どもと家族の看護	講義	小山
3 4 5 6 7	1. 疾患や障害を持つ子どもと家族に合わせた看護 (1) 乳幼児下痢症の子どもと家族の看護 (2) 熱性痙攣を起こした子どもと家族の看護 (3) 成長ホルモン分泌不全低身長の子どもの家族の看護 (4) 感染症を持つ子どもと家族の看護 (5) 看護先天性股関節脱臼の子どもと家族の看護 (6) I 型糖尿病の子どもと家族の看護 (7) 川崎病の子どもと家族の看護 (8) ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護 (9) 気管支喘息の子どもと家族の看護 (10) 白血病の子どもと家族の看護	講義	小山
8 9	1. 救命救急が必要な小児と家族の看護 (1) 事故・外傷 (2) 救命救急の技術	講義 演習	小山
10 11 12 13 14	1. これからの小児看護と小児看護における看護師の役割 グループで協力し、「子ども病院のパンフレット」をデザインし、プレゼンテーションする。 子どもを取り巻く環境や統計をもとに小児看護の役割について考え、これからの子どもやその家族にとって必要な病院について考える。子どもを看るために必要な職種や病院の環境、そこで必要とされる看護師の役割や、提供したい看護等についてパンフレットにまとめる。 ※パンフレットは、全員カラーで閲覧できるよう、事	講義 グループワーク 発表 製作物「子ども病院のパンフレット」	福岡

	前にメールで共有する。		
15	試験		小山

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第15版, 医学書院, 2025. 2. 山村豊他：系統看護学講座 基礎分野, 心理学, 第6版, 医学書院, 2017. <p>参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中野綾美他：ナーシンググラフィカ 小児看護学(1) 小児の発達と看護 第7版, メディカ出版, 2023.
評価の方法	<p>A+B=100 点</p> <p>A:80 点=筆記試験(授業回数1～9の内容) (小山)</p> <p>B:20 点=ループリック評価(グループワークの参加状況、パンフレット内容、発表内容)(福岡)</p> <p>※課題提出状況(未提出・提出期限超過)授業態度により減点あり</p>
アドバイス ・その他	<p>小児看護学概論、小児看護学方法論 I で学習した内容を復習し、それを活用しながら授業に臨むこと。</p> <p>福岡の授業について、参考資料・課題関連資料はメールで共有する。授業参加の際は、必ず iPad を充電し持参すること。</p>

4.専門分野Ⅱ－3) 教授内容

(7) 母性看護学

母性看護学構築の考え方

母性看護は、女性の一生を通して健康の維持、増進、疾病の予防に関わる領域である。この母性看護の領域は、次世代の健全育成のための妊産褥婦及び新生児の看護活動という、人類普遍の願いを担う分野に加え、社会の変容、医学の進歩・発展、母子をめぐる生活環境の変化など女性役割や価値観の多様化に対応する分野に拡大されて考えられている。

そのため、看護の対象を以下の3つの側面から理解し、その各側面について対象を取り巻く施策や法律、母子保健組織についても学び、看護とともに、保健・医療・福祉チームの一員として、社会資源との連携もできるように学習する必要がある。

対象を理解する3つの側面の1つは、卵巣機能から見た各ライフステージにおける理解である。特に種族維持に関わる生殖期すなわち女性の成熟期を中心にその周辺の思春期、更年期の理解は重要である。2つめは、生殖過程には両性が関与することから、「母性」とともに「父性」についての理解が深まること重要である。3つめは社会の状況と「母性」が密接に関わっていることから、医学の進歩も含めた社会の動向による生命観や倫理観、女性役割や価値観の多様化を踏まえた理解である。

学習者自身は、殆どが「次世代の健全育成」を担う世代である。このことから、健全な青年期を土台として自分自身の発達課題の認識を深めることが、対象の理解や問題点についての学びをより深めることにつながり、更に生命を尊重し倫理に基づいた母性看護の実践のための学習の必要性を理解することにつながることを期待できる。

以上の母性看護の意義と役割、母性看護の対象の理解、学生の状況とをふまえ、母性看護学の学習過程を以下のように考えた。

母性看護学概論では、社会の状況を母性機能との関連からとらえ、生命倫理を含めた女性の多様な価値観を理解し、母性看護の実践に必要な基盤となる概念を学習する。また、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した健康教育や支援について理解し、母性の健康上のニーズと必要な援助についても学習する。

母性看護学方法論Ⅰでは、母性のライフステージ各期の母性機能の変化と母性機能の保持・増進、不調あるいは逸脱した場合の健康回復に向けた支援について学習する。

母性看護学方法論Ⅱでは、妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期の経過と支援を理解し、次世代の育成をめぐる家族を含めた支援のあり方を、演習も交えて看護の展開方法を学習する。

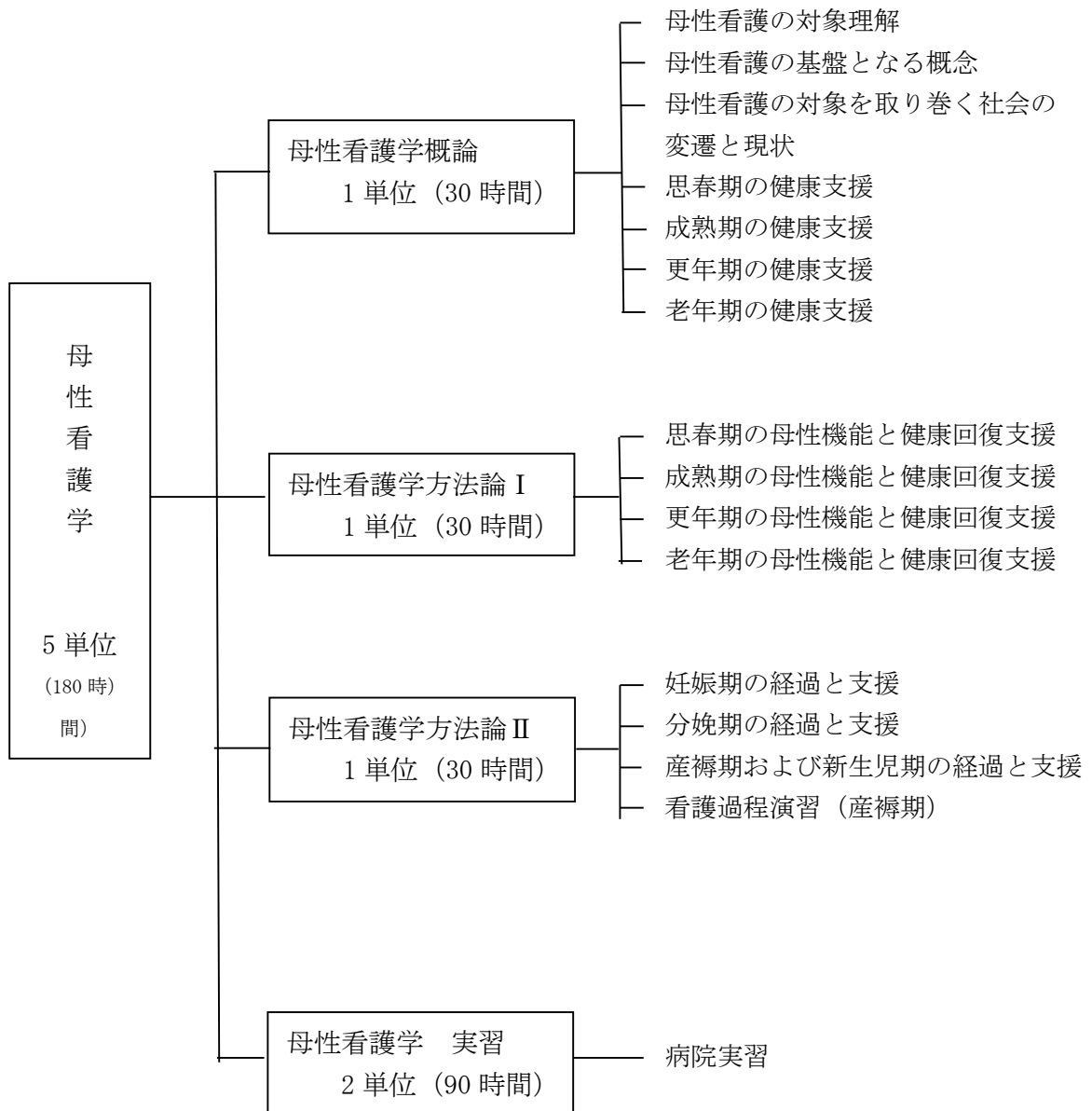
母性看護学目的

思春期、成熟期、更年期、老年期各期の母性にかかわる健康の問題を身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解し、母性及び次世代の健康の保持・増進・疾病予防・健康の回復に必要な援助ができる能力を養う。

母性看護学目的・目標

1. 母性の概念および特徴を理解する。
2. 母性各期の特徴と発達課題を理解する。
3. 母性各期の母性の健康に影響を及ぼす因子について理解する。
4. 母性各期に応じた健康の保持・増進に向けた援助について学ぶ。
5. 母性看護の役割と機能を理解する。
6. 妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族を対象に、次世代の健全な育成に向けて必要な援助について学ぶ。

母性看護学の構成



授業科目	母性看護学 概論	講師名	生田目 ルミ 柏崎 祥子 井上 南子	単位 1単位	時期 1年次後期
				時間 30時 間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	助産師・看護師	
科目目標 1. 母性看護の対象の特性を理解できる。 2. 母性看護の基盤となる概念を理解できる。 3. 母性看護の対象を取り巻く社会について理解できる。 4. 母性・父性の発達・成熟・継承について理解できる。 5. 母性機能の各段階にある対象の健康支援を理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 母性とは 1) 親になること 2) 母性の身体的・心理的・社会的特性 3) 母性看護における母性	講義	生 田 目
2	1. 母子関係 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2. セクシュアリティの概念および人間の性と性行動 1) セクシュアリティ（人間の性） 2) セクシュアリティの発達と課題	講義	
3	1. 母性看護のあり方 1) 母性看護の概念 2) 母性看護の課題と展望	講義	
4	1. 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定 2. 母性看護における安全・事故防止	講義	
5	1. 母性看護の歴史的変遷と現状 1) 母性看護の変遷 2) 母性保健統計からみた動向 3) 母性看護に関する組織と法律	講義	柏 崎
6	4) 母性保健施策からみた現状 5) 母性看護の場と職種	講義	
7	1. 母性看護の対象を取り巻く環境 1) 母性看護にかかわる社会の指標 2) 母性看護にかかわる指標の国際的動向	講義	

8	1. 母性看護の対象を取り巻く環境 3) 母子保健の国際化 4) 在日外国人の母子保健	講義	
9	1. 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 2. 女性・家族のライフサイクル	講義	
10	母性・父性の発達・成熟・継承	講義	
11	1. 性教育のありかた 2. 健全な母性の健康づくり	講義 ディスカッション	井 上
12	1. 性的健康と家族計画 2. 職業をもった女性	講義 ディスカッション	
13	更年期障害の予防への援助	講義	
14	老年期にある女性の健康づくり	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 森恵美編：母性看護学 1 母性看護学概論、系統看護学講座 専門 24、医学書院.</p> <p>参考図書：</p> <p>1. 厚生統計協会編：国民衛生の動向</p>
評価の方法	<p>A+B+C=100 点</p> <p>A (生田目)：30 点 (第 1 回～第 4 回)</p> <p>B (柏崎)：40 点 (第 5 回～第 10 回)</p> <p>C (井上)：30 点 (第 11 回～第 14 回)</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	母性看護学 方法論 I	講師名	井上 南子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 思春期にある女性の健康回復支援が理解できる。 2. 成熟期にある女性の健康回復支援が理解できる。 3. 更年期にある女性の健康回復支援が理解できる。 4. 老年期にある女性の健康回復支援が理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1・月経前症候群と健康回復支援 2. 月経困難症と健康回復支援	講義 ディスカッション 課題 (5 回・6 回)	井上
2	3. 10 代の人工妊娠中絶と健康回復支援 4. 10 代の性感染症と健康回復支援		
3	性暴力被害と健康回復支援		
4	DVD 視聴：思春期女性の性暴力被害に関する内容		
5	課題：DVD 視聴後、性暴力被害女性の対象理解と健康回復支援について考えたことをレポートする。		
6	不妊と健康回復支援 課題：レポート 不妊症の治療を受けた女性の手記を読み、対象理解と健康回復支援について考えたことをレポートする。		
7	望まない妊娠と健康回復支援		
8	育児不安と虐待の健康回復支援		
9	子宮筋腫と健康回復支援		
10	1. 更年期女性の不定愁訴の健康回復支援 2. 尿失禁と健康回復支援		
11	子宮癌と健康回復支援		
12	卵巣癌と健康回復支援		
13	子宮下垂と健康回復支援		
14	膣炎・外陰炎と健康回復支援		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森 恵美編：母性看護学 1 母性看護学概論、系統看護学講座 専門 24、医学書院 2. 末岡 浩編：女性生殖器 系統看護学講座 専門 13、医学書院
評価の方法	<p>100 点 筆記試験 90 点＋課題 10 点</p>
アドバイス ・その他	<p>健康回復支援論で学んだことを想起し、母性機能を中心とした女性特有に起こり得る健康状態の不調あるいは逸脱時の支援を学ぶ内容の科目です。</p>

授業科目	母性看護学 方法論Ⅱ	講師名	齋藤 彩	単位 1 単位	時期 2 年次通年
			小林 智亜希 井上 南子	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	助産師・看護師	
科目目標 1. 正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の経過および支援方法を理解する。 2. ハイリスクおよび異常な状況にある対象の経過および支援の方法を理解する。 3. 母性看護における看護の展開方法を理解する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 正常な妊娠期の経過と看護	講義	小林
2	1) 妊娠期にある対象の身体的・心理的・社会的特性		
3	2) 母体および胎児の健康状態のアセスメント 3) 妊娠の経過と健康管理		
	2. ハイリスク妊娠と看護		
	1) ハイリスク妊娠の病態生理・検査・治療		
	2) ハイリスク妊娠の看護 (切迫流早産を除く)		
4	1. 正常な分娩期の経過と看護	講義	齋藤
5	1) 分娩期にある対象の身体的・心理的・社会的特性 2) 分娩期にある母体および胎児の健康状態のアセスメント 3) 分娩の経過と看護		
	2. 異常な分娩期の経過と看護		
	1) 分娩異常の病態生理・検査・治療		
	2) 異常な分娩期にある産婦への看護 (帝王切開を除く)		
6	1. 正常な産褥期の経過と看護	講義	小林
7	1) 産褥期にある対象の身体的・心理的・社会的特性 2) 褥婦の健康状態のアセスメント 3) 産褥の経過と看護		
	2. 異常な産褥期の経過と看護		
	1) 異常な産褥経過の病態生理・検査・治療		
	2) 異常な産褥経過にある褥婦への看護		
8	3. 正常な新生児期の経過と看護	講義	小林

9	1) 新生児の生理 2) 新生児の健康状態のアセスメント 3) 新生児期の経過と看護 4. 新生児の異常と看護 1) 異常な経過にある新生児の病態生理・検査・治療 2) 異常な経過にある新生児への看護		
10	技術演習：新生児の全身観察（諸計測を含む）	技術演習	齋藤
11	沐浴		
12	演習・グループワーク：	課題：グループワーク前の個人学習	井上
13	対象理解の仕方および看護の視点の見出し方		
14	（正常な経過をたどる褥婦を例に検討する）		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 森 恵美編：系統看護学講座, 専門分野Ⅱ, 母性看護学各論, 母性看護学②, 医学書院, 2. 石村由利子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術, 医学書院.
評価の方法	A+B+C=100 点 A（小林）：40 点＝妊娠期、新生児期 B（齋藤）：45 点＝分娩期、産褥期 C（井上）：15 点＝演習・グループワーク・課題（第 12 回～第 14 回）
アドバイス ・その他	

3.専門分野－3) 教授内容

(8) 精神看護学

21世紀は「こころの時代」と言われている。社会構造が複雑になり、その歪みとしての心の問題が多くなり、誰もが精神の危機状況に陥る可能性があると言われている。

精神看護の対象は、精神障害の有無にかかわらず全ての人を対象とし、さらに精神に障害を持ち医療施設に通院または入院加療している人だけではなく、障害をもち地域社会で生活をしている人も対象としている。

精神看護学では、人間理解を基盤として、生命の尊厳や人権尊重など倫理的判断や態度を習得する。また、各ライフステージを人のこころの発達からとらえ、精神を病む人々やその家族、また地域社会を含めた全ての人を対象に「こころの健康」を考え、こころの健康の維持・増進の方法について学習する。精神医療・看護に関わる社会問題をとらえながら今後の精神医療・看護の課題についても考えられるように構築した。授業及び実習を通して、他者との関りを通して自己理解を深めることができるようにした。

精神看護概論では、こころの健康、ライフサイクル各期におけるこころの発達と危機状況について理解を深める。また、精神看護の機能と役割では、対象との治療的対人関係の成立、効果的なコミュニケーション技法など、あらゆる看護の基盤となる知識や技術、高度で広範な専門性が求められることを理解する。また、精神保健医療の歴史の変遷を概観し、精神保健の基本的概念、今後の精神医療のあり方について考える。法制度と社会資源の活用については、保健・医療・福祉の統合という視点に立って広く理解する。

精神看護方法論Ⅰでは、精神を病む人がその回復過程において抱える問題と、回復を助け解決するための看護援助の基本について学ぶ。

精神看護方法論Ⅱでは、精神を病むことがその人の日常に与える影響に視点をおいて理解し、生活を整えるための看護の援助の実際について理解する。また学んだ知識を統合して事例を基にその人にとって必要な看護を考える。精神看護学実習では、精神看護学の講義で学んだことを生かし、実際に精神に障害をもつ対象と関わり、対象を理解し対象のセルフケアの発揮に向けた援助を実践することとした。

【精神看護学の目的】

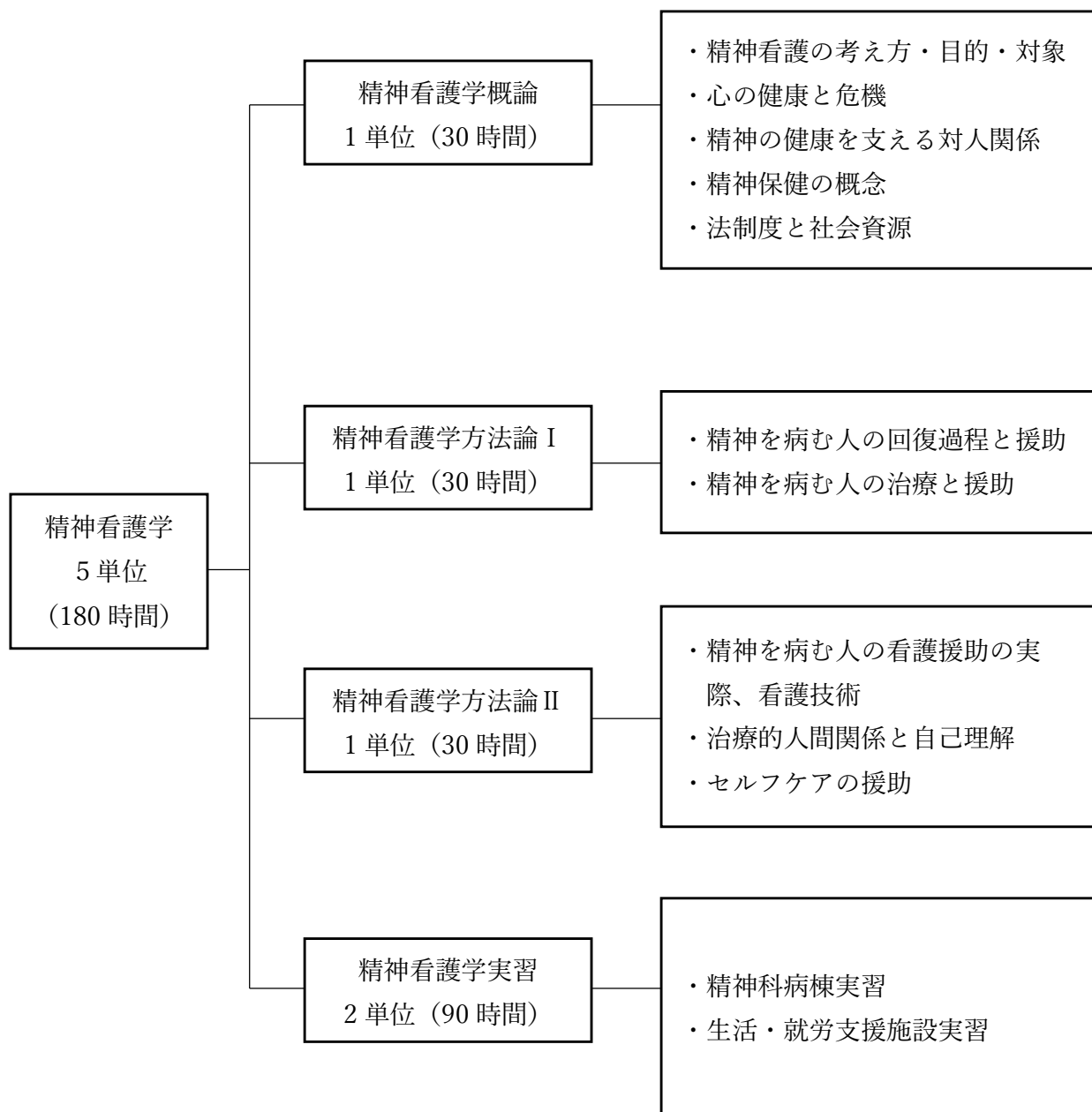
精神看護の基盤となる人間理解を目的とし、歴史的背景をふまえて、生命の尊厳や人権尊重等、倫理的判断や態度を養う。精神に病む人々やその家族、地域社会を含め、すべての人を対象に「こころの健康」を考え、その維持・増進の方法を学ぶ。また、その人らしい暮らしの実現に向け、生活と生き方に与える影響を理解し、関わりを通し支援できる看護実践能力を養う。

【精神看護学の目標】

1. 「こころの健康」は、こころの発達と環境との相互作用が起因していることがわかる。
2. 精神保健医療の歴史の変遷を学び、現在の課題から今後の方向性を考える事ができる。
3. 法制度を学び、保健・医療・福祉の統合的視点で、地域の社会資源の活用と、そこで生活をする当事者へのサポートシステムを理解する。
4. 精神保健医療福祉における多職種連携と看護師の役割がわかる。
4. 治療的人間関係と自他理解を考える事ができる。

5. 精神を病む人の生活への影響を学び、その人の強みを生かした援助方法がわかる。
6. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスを理解する。

精神看護学の構成



授業科目	精神看護学 概論	講師名	鈴木 弘子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
			稲見 聡	時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師	精神保健福祉士	
科目目標 1. 精神看護の考え方が理解できる。 2. 精神の健康を支えるために必要な基礎的知識が理解できる。 3. 精神の健康を支えるために必要な対人関係の基本がわかる。 4. 精神医療の歴史的変遷と現状を知り、法制度や社会資源について理解できる。 5. 保健医療福祉の統合的視点から、生活の場の精神保健、サポートシステムがわかる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 精神看護の目的・考え方 2. 精神看護の対象	講義	鈴木
2	1. 現代社会と心の健康	グループワーク	
3	1. 心の構造と機能、自我の構造 2. 防衛機制と行動	講義 グループワーク	
4	1. 心の発達と発達危機	講義	
5	1. ストレス対処 2. 危機を乗り越え生きる力と強さへの援助 カプランの予防の概念、レジリエンス、 リカバリ、ストレングスモデル	講義	
6	1. 精神の健康を支えるための対人関係 傾聴・共感、	演習	
7	1. 精神に障害をもつ人とのコミュニケーション 非言語的コミュニケーション、沈黙、 治療的コミュニケーション	DVD を元にグループ ワーク	
8	1. ペプロウの理論による患者 - 看護師関係 2. 患者 - 看護師関係における看護師の役割の実際	講義 事例を通して考える	
9	1. 看護師のメンタルヘルス 感情労働としての看護 2. リエゾン精神看護	講義 事例を通して考える	
10	1. 精神保健の基本的概念 2. 精神保健医療の歴史的変遷と現状	講義	稲見
11	1. 生活の場と精神保健 生活の場（家庭・学校・職場・地域）と精神保健 2. 災害と精神保健	講義	

12	1. 精神保健・医療・福祉をめぐる法制度と社会資源 1) 精神保健福祉法 2) 障害者総合支援法	講義	
13		講義	
14	1. 地域生活を支援する保健・医療・福祉の実際	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔1〕精神看護の基礎，6版，医学書院 2. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔2〕精神看護の展開，第6版，医学書院
評価の方法	<p>筆記試験 A+B=100点</p> <p>A：60点＝山根</p> <p>B：40点＝稲見</p>
アドバイス ・その他	<p>現代社会と心の問題について考える科目なので、現代社会の状況に目を向け、積極的に意見が述べられるようにしておく。また、自己について見つめる機会があるので、授業を通して辛いと感じたらすぐに申し出ること。</p> <p>この科目で精神看護学の考え方を学び、精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱに発展させる足がかりにする。</p>

授業科目	精神看護学 方法論 I	講師名	蛭田 智也	単位	1 単位	時期	2 年次後期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 精神を病む人が回復過程に抱える課題と「生きにくさ」を理解する。 2. 精神を病む人の看護援助の基本を理解する。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当	
1	1. 精神を病む人の回復過程 1) 精神を病む人を理解するためには 2) 精神を病む人の回復とは 3) 精神疾患発症から地域で暮らすまでの経過	講義	蛭田	
2	1. 精神疾患の治療と看護	講義		
3	1) 薬物療法・電気けいれん療法と看護 2) 精神療法と看護 3) 環境・社会療法と看護 4) 認知行動療法	演習		
4	1. 精神を病む人への看護援助の実際 1) 様々な精神症状と看護 思考の障害、感情障害、意欲の障害、 知覚の障害、意識の障がいと看護	講義		
5	1. 精神疾患を持つ人の治療と回復過程と看護	講義		
6	1) 統合失調症の治療に伴う回復過程と看護	DVD 視聴を通してグル ープワーク		
7	2) 気分障害患者の治療に伴う回復過程と看護			
8	3) パーソナリティ障害患者の看護 4) 依存症患者の看護 5) 強迫障害患者の看護 6) 性同一性障害の看護 7) ひきこもりの看護			
9	1. ライフステージと精神疾患			講義 グループワーク
10	1. 精神疾患と家族			講義
11	1. 入院治療の目的と意味 2. 入院患者の治療環境をつくる			講義
12	1. 精神科における行動制限を行う目的とその看護 2. 緊急事態への対処 自殺、暴力、無断離院、スタッフへのサポート			講義
13	1. 精神科における身体のケアと実際	講義		
14	1. 身体に現れる心の痛みの理解と看護	講義		

	2. 身体合併症に対する看護		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔1〕精神看護の基礎，第6版，医学書院，2021. 2. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学〔2〕精神看護の展開，6版，医学書院，2021. 3. 山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術，第3版，メヂカルフレンド社
評価の方法	筆記試験 100 点
アドバイス ・その他	1年次に履修した疾病治療論（精神）の内容を復習し授業に臨むこと。

授業科目	精神看護学 方法論Ⅱ	講師名	鈴木 弘子	単位 1 単位	時期 2 年次後期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 精神疾患をもつことによって影響された生活への看護援助の実際を理解する。 2. リハビリテーションの考え方を理解し、精神医療における作業療法や SST の目的・意義・ 実際を学ぶ。 3. 精神保健・医療・福祉における多職種連携と看護の役割がわかる。 4. 精神疾患をもつ人の生活上の課題を把握し必要な看護がわかる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 精神に障害をもつ人への看護の考え方 2. ケア的前提・原則・方法	講義 レポート	鈴木
2	1. 精神に障害をもつことの日常生活への影響	講義 グループワーク	
3	1. 精神保健福祉法における多職種連携と看護の役割	講義	
4	1 精神科リハビリテーションの考え方	講義	
5	2 集団療法と看護 1) 作業療法と看護 2) SST の理論と実際	DVD 視聴 演習	
6	1. 精神科デイケア・ナイトケアの意義と看護 2. レクリエーションの意義と計画	講義 グループワーク (計画書作成)	
7	1. 精神科病棟看護師から精神に障害を持つ人の生活支	精神科病棟看護師に よる講義・グループ ワーク 精神科病棟看護師に よるアドバイス	
8	援の現状と支援について講義・グループワーク 1) 精神疾患を抱えての生活支援の視点 2) その人らしい生活への支援の視点		
9	1. 精神看護実践におけるプロセスレコードの意義 2. プロセスレコードの記述	講義 個人ワーク	
10	1. オレムのセルフケア理論	講義 個人ワーク 事例から看護過程の 作成	
11	2. オレムのセルフケア理論を用いた事例への援助		
12	事例のセルフケアの強みと不足を考える		
13	事例のセルフケアの維持・発揮に向けての援助を考		
14	える。		
15	筆記試験、個人の学びのまとめ		

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎，第6版，医学書院， 2. 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開，第6版，医学書院， 3. 山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術，第3版，メヂカルフレンド社，
<p>評価の方法</p>	<p>筆記試験 60 点 課題レポート 40 点（課題レポート 10 点 看護過程 30 点）</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<p>ここまで学んだ、疾病治療論（精神）、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰの内容を元に、事例を中心に考え討議して深める科目である。復習の上、積極的に参加し考えを述べる事が求められる。学ぶ内容は実習で実際に体験する内容になる。</p>

3.専門分野－3) 教授内容

(9) 看護の統合と実践

看護の統合と実践 構築の考え方

わが国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢化の進展、医療技術の進化、地域医療推進に即したシステムづくりなど、大きく変化してきている。そうした中で、看護師にはより患者の視点に立った、質の高い看護の提供が求められている。一方で看護業務の複雑・多様化、医療安全に関する意識の向上等の中で、患者の安全が重視され、看護学生は看護技術の経験の機会が限定されてきている。また、看護現場では複数患者を同時に受け持ち、複数の作業を同時進行でおこなわなければならない状況にある。こうした中では、看護基礎教育においても、多重課題に向き合い、優先度を考慮し、時間を管理しながら、他者と協働して問題を解決していく看護実践能力が求められている。

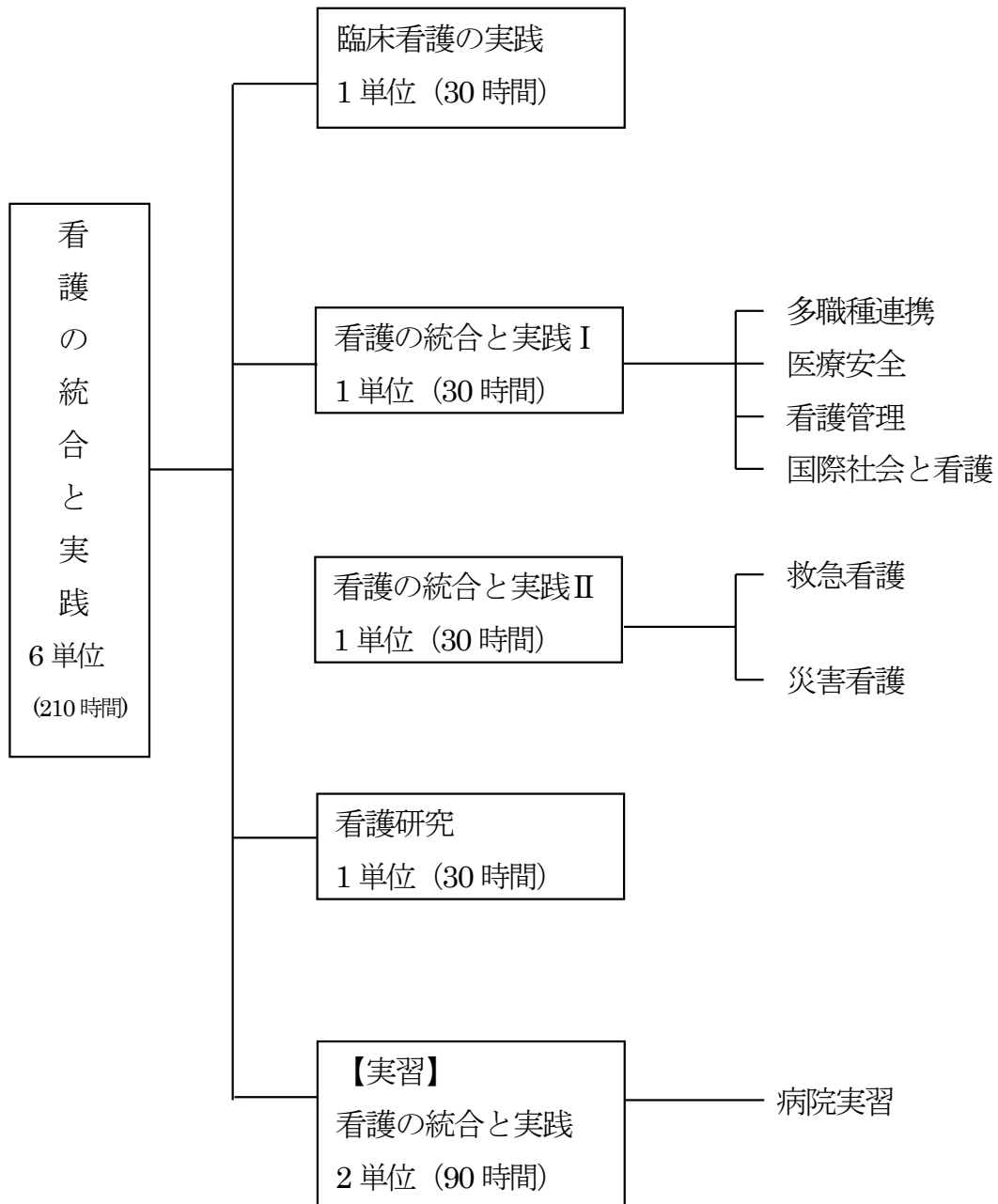
それらの現状を踏まえ、「看護の統合と実践」ではチーム医療における多職種との協働の中で看護の役割を理解し、マネジメントできる基礎的能力を身に付けること、医療安全の基礎的知識を修得すること、国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができること、災害支援や救急現場における看護の基礎的知識について理解することなどの内容を含むものとした。また、エビデンスを重視した看護実践を行うために、看護研究の知識と研究を実践する能力、既習の学習知識を、臨床実践に即した形で統合し看護提供できるようになるための学内演習の充実を図った。

看護の統合と実践の目的

看護の提供は、看護師と患者という1対1の関係性だけではない。あらゆる看護活動の場で、患者を核としてその家族・多職種が取り巻くように存在している。そうした構造を理解し、患者の視点に立った安全で質の高い看護を提供するために必要な看護の基礎的知識を理解する。その上で、看護師あるいは看護を「病院」や「地域」、「国際」という大きな枠組みでとらえ、チーム医療における多職種との協働の中での看護師の役割・責務を理解する。さらに、看護の実践においては、臨床実践に近い形で提供するという視点に立ち、これまでの様々な既習の学習知識を駆使して統合する力を養う。

看護の統合と実践の目標

1. 医療安全についての知識を深め、「安全」の取り組みが理解できる
2. 多職種が連携し、医療・看護を提供するシステムを理解し、その中で看護師が果たす役割と必要な能力が理解できる
3. 看護組織の中では、業務管理・物品管理・情報管理・人材育成があることを理解し、看護管理について考えることができる。
4. 国際看護について考えることができる
5. 看護研究の必要性和プロセスが理解できる
6. 救急看護・災害看護の場面での看護の役割と基礎的知識が理解できる
7. 実践に即した看護提供場面を想定し、既習の学習知識・技術を患者の置かれている状況に合わせて考えたうえで、行うべき看護を決定するプロセスで、「統合する力」を養う。



授業科目	臨床看護の実践	講師名	境 敏一	単位 1 単位	時期 2 年次通年
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 患者の置かれている状況をふまえ、必要な情報を収集し、患者の状態やニーズを正確に理解できる 2. 病状（根拠）を踏まえて、適切な看護援助方法を判断できる 3. 安全・安楽な「質の保障」がされた看護援助技術を実施できる 4. 多重課題時の看護の優先度・タイムマネジメントの視点にきづくことができる 5. 多職種の援助・役割を理解して多様な視点を獲得し、連携の必要性がわかる					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	事例の理解 1) 科目全体の説明 2) 事例の概要説明 各期の病状・事例理解・治療理解（クリティカルパス） 3) 他の職種者の立場、アプローチの視点を考える	講義	境
2	1) 事例の担当グループを決定する 2) 個人でビジョンとゴールを検討する 3) グループで最終的なビジョンとゴールを決定する	グループワーク	
3	場面に応じた適切な看護技術の決定	グループワーク	境
4	【グループワーク】		
5	（各個人単位でポートフォリオを作成する）	1 コマは宇都宮短期大学の学生とのグループワーク	※ 宇都宮短期大学教員 1 コマ
6	1) 事例の真のニーズ、置かれた状況をふまえた、適切な看護援助方法は何か検討していく		
7			
8	2) 正しい看護技術が提供できるよう練習を重ねる。提供技術は本当に適しているか、視点を変えて繰り返し練習していくことで、統合技術を修得していく。		
9			
10			
11			
12	※第 11 回：専門職連係教育（IPE）の実践 ①多様な視点から 1 つの回答を見出す。 ②職種が違う人々と共通の目的（対象者の問題解決）をもち、問題解決を図ることの体験をする。		
13	統合技術検討会（ロールプレイでの発表）	発表 ・全体討議	境
14	発表後全体討議し、最適な看護援助であるかを検討する。		
15	終了後は各個人で事例に必要な看護援助を最終決定する。		

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本庄恵子他：写真でわかる臨床看護技術②，インターメディカ，2021. 2. 吉岡充弘他：任和子他：系統看護学講座，専門分野Ⅰ，基礎看護技術Ⅰ，基礎看護学〔2〕，医学書院. 3. 吉岡充弘他：任和子他：系統看護学講座，専門分野Ⅰ，基礎看護技術Ⅱ，基礎看護学〔3〕，医学書院. 4. その他、グループ学習時には根拠を明確にするために必要な教材・テキストを参考にする
<p>評価の方法</p>	<p>ループリック評価とポートフォリオ：80点 レポート提出、授業参加状況の総合的判断：20点 詳細は授業で説明する。</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<p>これまで学習してきた科目の知識をつかって、今まさに目の前にいるPさん（事例の患者）に、どのような援助をすることが最善と考えるのか、深く探求していきましょう。基礎看護学で学んだ看護技術を基本ベースに、各領域で学んだ方法論の知識等を取りいれて考えていくこととなります。さらに、PさんにはPさんの病態や状況や思いがあり、それらに対して、どのような根拠を基に何を変更するのか、あるいは、突然に生じた状況をどのように判断してどのように援助を変更するのか、根拠を明確にして探求していきます。</p> <p>そして統合技術検討会では、自分が担当した事例以外に、他のグループの発表をみて技術検討していくことで、たくさんの視点に気づき、判断の仕方や援助方法を学ぶことでしょう。</p> <p>こうしてこの学習が終えた時には、自分が「より看護師に近づいている」という実感がもてることでしょう。</p>

授業科目	看護の統合 と実践 I	講師名	境 敏一	単位 1 単位	時期 3 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 2 年次「臨床看護実践」で「他の職種者」との連携について事例を通して学習した経験をもとに、病院全体あるいは地域全体での多職種連携に広げて考え、その意義を理解できる。 2. 病院全体における看護部組織、その 1 単位である病棟、そしてチーム・1 個人としての看護師、という構成が理解できる。 3. 看護チームにおける必要な能力が理解できる 4. 看護における「管理」(マネジメント) について理解できる 5. 国際社会の観点から保健・医療を考えるとともに、多様な文化に対する看護を考えることができる					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	I. 多職種連携 1. チーム医療とは 2. 多職種連携 (多職種のチームワーク) のあり方	講義	境
2 3	II. 看護師のチームワーク 1. 病院全体の中での看護部組織 2. 看護部の特徴 3. 看護チームについて (看護提供体制) 4. リーダーシップとメンバーシップ 5. 情報伝達・共有	講義	
4	7. 業務遂行のためのマネジメント 1) 1 日の業務の組み立て 2) 多重課題への対処	講義 演習	
5 6 7 8	III. 医療安全 1. 医療安全の基本的考え方 2. 組織としての医療安全対策 4. 医療事故の種類と安全対策 5. インシデント・アクシデント 6. リスクマネジメント (要因分析と再発防止)	講義 グループワーク	

9	IV. 看護管理	講義	
10	1. 看護管理とはなにか		
11	2. 管理業務（人事管理・業務管理・人材育成）		
12	3. 看護管理者が行っている組織経営の任務 ※ベッドコントロール・平均在院日数. 4. スタッフナースに求められる管理的役割		
	5. 看護チームと勤務の実際（終了後レポート）	グループワーク	
13	V. 国際看護	講義	
14	1. 国家・地域間の健康格差の現状 2. 問題解決：国際協力と SDGs（持続可能な開発目標） 3. 多様な文化と看護		
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上泉和子, 小山秀夫他：系統看護学講座, 専門分野, 看護の統合と実践 1, 看護管理, 医学書院, 2024. 2. 川上治子：系統看護学講座, 専門分野, 看護の統合と実践 2, 医療安全, 医学書院, 2023. 3. 庄野泰乃編：系統看護学講座, 専門分野, 看護の統合と実践 3, 災害看護学・国際看護学, 医学書院. 2024. 4. 厚生労働統計協会：国民衛生の動向, 厚生指針増刊, 2022/2023.
評価の方法	<p>評価 100 点</p> <p>内訳：筆記試験 80 点、グループワークおよびレポート 20 点</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	看護の統合と実践Ⅱ	講師名	高木 裕美 黒須しのぶ	単位	1 単位	時期	
				時間	30 時間		3 年次前期
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師				
科目目標 1. 救急患者とその家族への精神的援助が理解できる 2. 救急看護体制とアセスメントが理解できる。 3. 救急時の看護技術を習得できる 4. 災害看護の特徴と災害時の看護活動について理解できる 5. 地方自治体の防災体制を知り、災害時の自己の行動について考えることができる							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1 2 3 4 5	1. 救急看護とは 2. 救急看護の対象理解（患者と家族の特徴） 3. 救急看護体制と看護の展開 4. 救急患者の観察とアセスメント 5. 情報収集・観察とアセスメント チームメンバーの応援要請 重症度の判断と治療の優先順位（トリアージ） 緊急時の検査 3. 主要病態に対する救急処置と看護 心肺蘇生法<BLS と ALS> 小児の心肺蘇生 主要病態への対応（意識障害・呼吸障害・ショック・外傷等） 救急時に使用する主な医薬品	講義	高木
6 7	4. 救急時の看護技術 ①気道確保②人工呼吸③心臓マッサージ④AED⑤止血法	演習	
8 9 10 11 12 13 14	1. 災害看護の歩み 2. 災害医療の基礎知識 災害医療の特徴 ・ 災害と情報・災害対応・災害に関する法律 3. 災害看護の基礎知識 災害看護の役割・対象・看護活動・ 4. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 急性期・亜急性期／慢性期・復興期／静穏期 5. 被災者特性に応じた災害看護の展開 子ども／妊産婦／高齢者／障害者／精神障害者 ／慢性疾患患者／原子力災害被災者／在留外国人 6. 災害とこころのケア 7. 災害看護の展開	講義	黒須
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 山勢博彰他：系統看護学講座 別巻, 救急看護学, 医学書院, 2024. 2) 松月みどり監修：写真で分かる急変時の看護, インターメディカ, 2019. 2. 災害看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 庄野泰乃編：系統看護学講座, 専門分野, 看護の統合と実践3, 災害看護学・国際看護学, 医学書院. 2024.
<p>評価の方法</p>	<p>筆記試験 救急看護 50点 + 災害看護 50点 = 100点</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	

授業科目	看護研究	講師名	境 敏一 他教員	単位 1 単位	時期 3 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
<p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義、必要性が理解できる 2. 看護研究のプロセスが理解できる 3. 事例研究の実際の流れを理解できる 4. 研究計画書が書けるようになる 5. 文献検索の仕方を理解し、実施できる 6. 臨地実習の経験をもとにケーススタディを作成できる。 					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当	
1 2	1. 看護における研究の意味 2. 看護実践から得る研究の手がかり 3. 研究の進め方 4. 研究デザインの種類とプロセス 1) 研究の種類	講義	境	
3 4	2) 研究過程の概観 3) 論文の種類と構成 【演習：研究のテーマの検討】	講義 演習：臨地実習での経験からケーススタディのテーマを考える		
5 6	5. 文献検索の方法と入手方法 1) 文献の意義、検索法 【演習：文献検索と入手方法（医中誌・Google）】 2) 文献の読み方・整理の仕方	講義 演習		
7	6. 臨床研究に関する倫理指針 7. 研究計画書・論文作成時の留意点 8. ケーススタディ作成要項	講義		
8 9 10 11	9. ケーススタディの実際 ※指定日に研究計画書を提出する。 ※指定日までにケーススタディを提出する。	担当教員の指導を受け、研究計画書、ケーススタディを作成する		境 他教 員
12 13 14 15	看護学会に参加し、発表内容、方法、質疑応答の実際を見学し、研究の必要性や意味について考える。 ※指定日までに研究論文を提出する。			境

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 坂下玲子他著：系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 2023</p>
評価の方法	<p>評価 100 点</p> <p>内訳：課題提出と内容および論文作成プロセスをルーブリック評価 80 点 学会参加とレポート 20 点</p>
アドバイス ・その他	<p>看護にとって研究は必須です。看護研究を行う意義とは、その進め方、講義だけでなく実際の事例から論文を作成します。3年時前期に臨地実習と並行した科目のため、課題達成へ向け指導教員と密に連絡をとり、主体的・計画的に論文作成プロセスを学修してください。</p>